RICOH

G700SE

使用説明書 カメラ編

本製品のシリアル番号は、
本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能のほか、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

付属の電池は、使用する前に充電する必要があります。ご購入時の電池は、充電されていません。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社 Web サイトからお願いいたします。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、E メール（ファームウェアなどのサポート情報掲載）の配信を行っております。

リコーフォトギャラリー RING CUBE

RING CUBE は、いつでも、気軽に、より多くのみなさんに参加していただくためのフォトギャラリーです。

8F ギャラリースペースでは、プロ・アマを問わず多彩なジャンルの写真展を開催。

9F には歴代のリコーカメラや新製品を展示しているほか、ワークショップスペースにて各種セミナーを実施しています。お気軽にご利用ください。

http://ringcube.jp/

東京都中央区銀座 5-7-2
三愛ドリームセンター 8F/ 9F（受付 9F）
開館時間：11:00 〜 20:00（火曜日休館）
お問い合わせ：03-3289-1521

はじめに

この使用説明書には、本カメラを使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本カメラの機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽などの著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変などすることは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本カメラなどの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本カメラは国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波に関するご注意	• 本製品には、技術基準適合証明を取得した無線設備が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。 • 本製品は、技術基準適合認定を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。 ①本製品を分解／改造すること ②本製品に印刷してある証明ラベルをはがすこと • この機器の周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。 ①この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。 ②万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置（例えば、パーティションの設置など）についてご相談して下さい。 ③その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合など何かお困りごとが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。 連絡先：株式会社リコー　お客様相談センター 電話 0120-000475　受付時間：9:00 ～ 17:00（土、日、祝日を除く） 上記内容は「社団法人　電波産業会」ARIB STD-T66 の主旨に基づくものです。

電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、以下のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする 〈電波障害自主規制について〉 この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

2.4FH1/DS4/OF4 この表示のある無線機器は 2.4GHz 帯を使用しています。変調方式として FH-SS/DS-SS/OFDM 変調方式を採用し、移動体識別装置の構内無線局に対して想定される与干渉距離は 10m ないしは 40m です。全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。

• 無線設備の認証番号： 007WWDUL0528

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。
Microsoft、Windows、Windows Vista®、Windows 7TM、Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
MediaBrowserTM は、株式会社ピクセラの商標です。
SanDisk はサンディスク・コーポレーションの登録商標です。SD は SD-3C LLC の商標です。
Bluetooth® 商標は、Bluetooth SIG, Inc. 所有の商標であり、ライセンスの下で株式会社リコーが使用しています。
会社名、および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が差し迫って発生する可能性がある内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例

❗	❗記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
⃠	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 ⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。 ●表示例 意味：接触禁止　意味：分解禁止

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 危険

分解禁止	●カメラを分解、修理、改造しないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険があります。
分解禁止	●電池を分解、改造、直接ハンダ付けしたりしないでください。
禁止	●電池を火の中に投入したり、加熱したり、火のそばや車の中など温度が高くなる場所で使用したり、放置しないでください。また、水や海水などにつけたり、濡らさないでください。
禁止	●電池に釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたり、強い衝撃を与えないでください。
禁止	●外傷、変形の著しい電池は使用しないでください。

⚠ 警告

❗	● 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態がみられる場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかに電池を取り外してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

❗	● 万一、機械内部に異物（金属、水、液体など）が入った場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかに電池とメモリーカードを取り出してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

❗	● 画像モニターが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一、次の状況になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。 ・ 皮膚に付着した場合は、付着物を拭き取り、水を流しせっけんでよく洗浄してください。 ・ 目に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分洗浄した後、医師の診断を受けてください。 ・ 飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を与えて吐き出させた後、医師の手当てを受けてください。

🚫	● 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂の防止のため、次のことをお守りください。 ・ この製品で指定している電池以外は、使用しないでください。 ・ 金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。 ・ 電子レンジや高圧容器に入れないでください。 ・ 使用中や充電中、液漏れしたり、異臭がする、変色するなどの異常がある場合は、ただちにカメラや充電器から取り外し、火気から遠ざけてください。

🚫	● 電池の充電による火災、感電、破裂の防止のため、次のことをお守りください。 ・ 表示された電源電圧以外の電圧を使用しないでください。また、タコ足配線や延長コードの使用は避けてください。 ・ 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。 ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。また、電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。 ・ 布などに包んで使用しないでください。

❗	● この製品で使用している電池や SD メモリーカードを誤って飲み込むことがないよう、特に幼児・子供の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、人体に有害です。ただちに医師と相談してください。

● この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。幼児・子供には「安全上のご注意」や「使用上のご注意」の内容が理解できずに事故発生の原因となります。

● 落下や損傷により内部が露出したときは、内部には手を触れないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険性があります。感電や火傷に注意しながら速やかに電池を取り出してください。破損したときは、お買い上げの店またはリコー修理受付センターに連絡してください。

● 台所などの湯煙があたるところや湿気のあるところで使用するときは、カメラの内部を濡らさないよう注意してください。火災や感電の原因となります。

● 引火性ガスやガソリン、ベンジン、シンナー等の近くで使用しないでください。爆発や火災、火傷の原因となります。
● 航空機の中など、使用が制限または禁止されている場所では使用しないでください。事故等の原因となります。

● 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。
● 家庭用コンセントをご利用になるときは、必ず専用の AC アダプターをご利用ください。指定以外の AC アダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

● 海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などに充電器や AC アダプターを接続しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 注意

● 電池から漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損した電池に触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。（せっけんは使用しないでください）
また、液漏れが起こったときは、液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

● 電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。火災の原因となります。

● カメラの内部を濡らさないでください。また、濡れた手で操作するときはカメラの内部を濡らさないよう注意して操作してください。感電の原因となります。

● 車両（自転車、車、列車等）の運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。交通事故等の原因となります。

別売り品について	別売り品をお使いになるときには、各製品の使用説明書を操作の前に必ずお読みください。

使用説明書の構成について

G700SE には、以下の 2 種類の使用説明書が付属しています。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>『使用説明書（カメラ編）』（本書）</td></tr>
<tr><td>カメラの使い方や機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF ファイル）</td></tr>
<tr><td>カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属 CD-ROM 内の以下のフォルダに収録されています。

各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。

使用説明書をハードディスクにコピーするにはそれぞれのフォルダから PDF ファイルをハードディスクにドラッグしてください。

RICOH (D:)
DC Manual
English
French
German
Japanese</td></tr>
</table>

本カメラには、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェア MediaBrowser（Windows 専用）が付属しています。MediaBrowser の使い方については、MediaBrowser のヘルプを参照してください。MediaBrowser についてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター

フリーダイヤル：0120-727-231
TEL：06-6633-2990（携帯・PHS 等フリーダイヤルが利用できない方用）
FAX：06-6633-2992
〒 556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中 2-10-70 パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日　10：00 ～ 18：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで、MediaBrowser の最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/mediabrowser/j/

もくじ

応用編 49

10 拡張設定メニュー 98

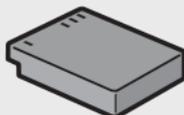
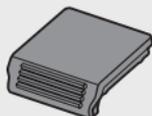
基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。
※同梱品の形状は、実際とは異なる場合があります。

- **G700 SE**
  本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

- **USB ケーブル（mini B タイプ）**
- **AV ケーブル**
- **ネックストラップ**
- **電池**

- **充電器**

- **アクセサリーシューカバー**
- **使用説明書（カメラ編）**
- **CD-ROM（****☞P.149****）**
- **保証書**

別売り品について

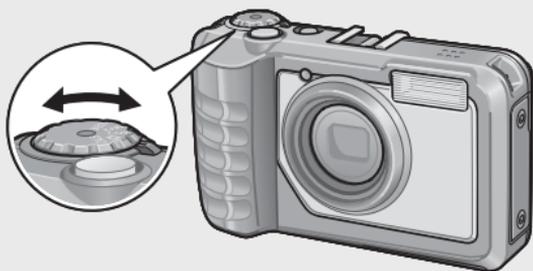
- **AC アダプター（AC-5c）**
- **電池（DB-65）**
- **充電器（BJ-6）**
- **ソフトケース（SC-700）**
  本カメラのカメラケースです。
- **ワイドコンバージョンレンズ（DW-5）**

 メモ --

ネックストラップの付け方
ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。

- 別売り品についての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc/）をご覧ください。

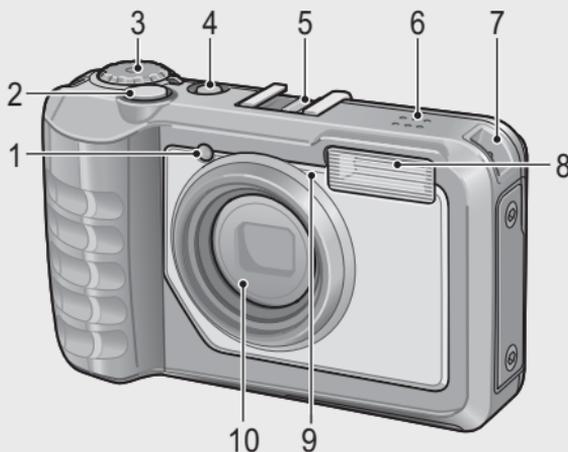
モードダイヤルの使い方

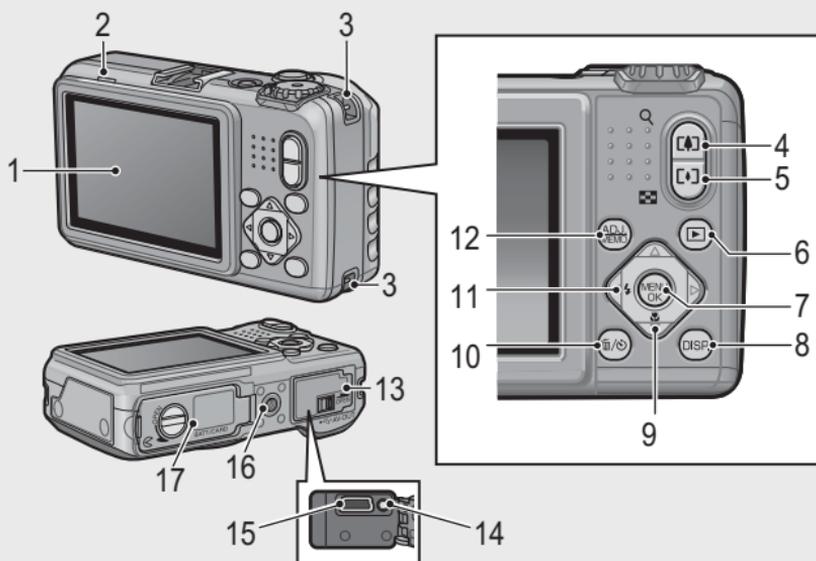
静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせてから行います。

モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き	参照先
CALS	CALS モード（キャルス）	工事写真提出用に適した画質・サイズで撮影します。画質・サイズは、セットアップメニューの［CALS 画質・サイズ］（P.87）で 6 種類の中から選択できます。	P.37
(camera icon)	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。	P.31
MY1、MY2	マイセッティングモード	［マイセッティング登録］であらかじめ登録した設定で撮影します。	P.37
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。また、動画も選択できます。	P.52

カメラの各部の名称

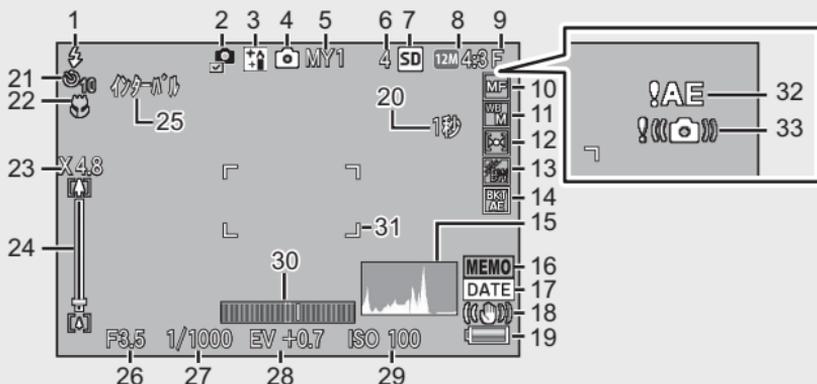
カメラ本体

前面

	名称	参照先
1	AF 補助光	P.84
2	シャッターボタン	P.31
3	モードダイヤル	P.17、31、37、52
4	電源ボタン	P.29
5	アクセサリーシュー	P.181
6	スピーカー	P.56
7	ストラップ取付部	P.16
8	フラッシュ発光部	P.35
9	マイク	P.55
10	レンズ	ー

背面

	名称	参照先
1	画像モニター	P.20
2	オートフォーカス／フラッシュランプ	P.32、35
3	ストラップ取付部	P.16
4	[♠]（望遠）／ Q（拡大表示）ボタン	P.33、38、40
5	[♠]（広角）／ ▦（サムネイル表示）ボタン	P.33、38、40
6	▶（再生）ボタン	P.38
7	MENU/OK ボタン	P.62、72、82、94
8	DISP. ボタン	P.40、44
9	▼ ／ ✿（マクロ）ボタン	P.34
10	🗑（削除）／ ⏲（セルフタイマー）ボタン	P.36、41
11	◀ ／ ⚡（フラッシュ）ボタン	P.35
12	ADJ./MEMO ボタン	P.50、57
13	端子カバー	P.81、144、155、157
14	AV 出力端子	P.81
15	USB 端子	P.144、155、157
16	三脚ネジ穴	ー
17	電池／カードカバー	P.27、179

画像モニターの表示

撮影するときの画面

静止画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュのモード	P.35	18	手ブレ補正	P.65
2	画像加工検知	P.66	19	電池マーク	P.22
3	シーンモード／連写	P.52、64	20	長時間露光	P.64
4	撮影モードの種類	P.17	21	セルフタイマー	P.36
5	マイセッティングモード	P.37	22	マクロ撮影	P.34
6	残り記録枚数	P.174	23	デジタルズームの倍率、オートリサイズズーム	P.34、89
7	記録先	P.25			
8	画像サイズ	P.63	24	ズームバー	P.33
9	画質	P.63	25	インターバル撮影	P.65
10	フォーカス	P.63	26	絞り値	P.171
11	ホワイトバランスモード	P.70	27	シャッタースピード	P.171
12	測光モード	P.63	28	露出補正	P.69
13	画像設定	P.64	29	ISO 感度	P.71
14	オートブラケット	P.64	30	水平インジケーター	P.47
15	ヒストグラム表示	P.48	31	AF 枠	P.31
16	カメラメモ	P.94	32	露出警告マーク	P.69
17	日付入れ撮影	P.65	33	手ブレ注意マーク	P.33、65

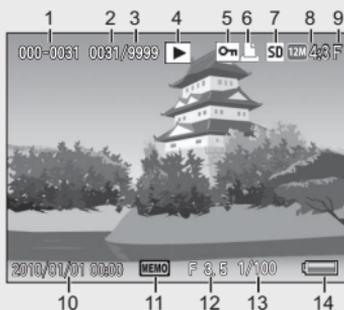
動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
34	記録時間	P.174	36	録画中マーク	P.55
35	残り記録時間	P.174			

メモ --

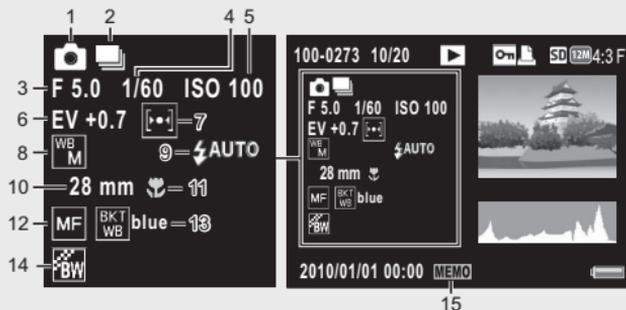
残り記録枚数が 1 万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面

静止画モード

動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	ファイル番号	−	9	画質	P.63
2	再生ファイル数	−	10	撮影した日付	P.30
3	総ファイル数	−	11	カメラメモ	P.94
4	モードの種類	−	12	絞り値	P.171
5	プロテクト	P.79	13	シャッタースピード	P.171
6	DPOF	P.80	14	電池マーク	P.22
7	再生元	P.25	15	記録時間または経過時間	−
8	画像サイズ	P.63	16	インジケーター	−

メモ --

- 使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。
- DISP. ボタンを押すと、撮影時の詳細情報を表示できます（☞P.44）。

	名称	参照先		名称	参照先
1	撮影モード	—	9	フラッシュのモード	P.35
2	連写	P.64	10	ズームの焦点距離	P.33
3	絞り値	P.171	11	マクロ撮影	P.34
4	シャッタースピード	P.171	12	フォーカスモード	P.63
5	ISO 感度	P.71	13	オートブラケット	P.64
6	露出補正	P.69	14	画像設定	P.64
7	測光モード	P.63	15	カメラメモ	P.94
8	ホワイトバランス	P.70			

電池の残量表示

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
緑色	電池の残量はまだ充分あります。
	電池の残量が減りはじめました。充電をお勧めします。
オレンジ	電池の残量がわずかになりました。充電してください。

注意 --

- 単四形ニッケル水素電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては残量表示が正しく表示されないことがあります。
- AC アダプターをご使用の場合、 が表示されることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ --

- 電池を取り出すときには、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.29 をご覧ください。

電池について

G700SE では、以下の電池が使用できます。

- 専用リチウムイオン電池 DB-65（付属）
- 単四形アルカリ乾電池（市販）
- 単四形ニッケル水素電池（市販）

撮影可能枚数 --

- 記録可能枚数（電池の持続）の目安

電池の種類	通常時の枚数
リチウムイオン電池 DB-65	約 360 枚
単四形アルカリ乾電池（市販）	約 40 枚

※［画像モニター節電］（☞P.84）が［ON］のとき

- 撮影枚数は CIPA 規格に準拠した測定条件によるものです。
（温度 23℃、画像モニターオン、30 秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2 回に 1 回フラッシュ発光、10 枚撮影するごとに電源のオフ／オンを繰り返し）
- 単四形アルカリ乾電池の記録可能枚数は、パナソニック株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用したときの枚数です。
- ［画像モニター節電］が［OFF］の場合は、DB-65 使用時約 345 枚、単四形アルカリ乾電池使用時約 40 枚となります。
- シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます（☞P.44）。
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生などの動作時間が長くなると、その分撮影可能時間（枚数）が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をお勧めします。

注意 --

- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品（DB-65）をご使用ください。当社指定の電池以外は使用しないでください。
- リチウムイオン電池 DB-60 は、ご使用になれません。
- 市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用の前に充電してお使いください。
- ニッケル水素電池の場合、ご購入直後や 1 ヶ月以上使用しないと“不活性状態”となっている場合があり、電池本来の性能が発揮されません。2 ～ 3 回充電を繰り返してから再度ご使用ください。
- 単四形アルカリ乾電池の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- マンガン乾電池およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- Bluetooth® や無線 LAN を使用して画像を送信したり、GPS ユニットやバーコードユニットを接続している場合は、電池の消耗が早くなります。DB-65 のご使用や、予備電池の携帯をお勧めします。

SD メモリーカード（市販）について

記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーまたは市販の SD メモリーカード、SDHC カード、SD WORM カード *（本書ではこれらのカードを「SD メモリーカード」と表記します）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約 103MB です。

- SD WORM カードについて：
  - SD WORM カード（SanDisk® SD™ WORM card）は、一度記録したらデータの改変や消去ができません。SD WORM カードを使用した場合には、以下の操作を行えません。

ファイルの削除	P.41	斜め補正	P.54、P.78	動画撮影	P.55
カメラメモ機能	P.57	連写	P.64	画像サイズ変更	P.73
内蔵メモリーからカードへコピー	P.73	ファイル復元	P.74	トリミング	P.75
階調補正	P.77	プロテクト	P.79	DPOF	P.80
カードの初期化	P.83				

  - SD WORM カード使用時に作成されるフォルダ数は、最大 510 です。1 つのフォルダには、最大 510 ファイルまで記録できます。

- USB でパソコンと接続した場合、パソコンから SD WORM カードにファイルをコピーすることはできません。

初期化について

新しい SD メモリーカードや、他の機器で使用した SD メモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。SD メモリーカードの初期化はセットアップメニュー（☞P.82）の［初期化〔カード〕］（☞P.83）で行えます。

記録先について

SD メモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリー（ IN ）に記録され、SD メモリーカードをセットしているときは SD メモリーカード（ SD ）に記録されます。

再生元について

SD メモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリー（ IN ）から再生され、SD メモリーカードをセットしているときは SD メモリーカード（ SD ）から再生されます。

注意

- SD メモリーカードがセットされているときは、SD メモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SD メモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。なお、「LOCK」の状態にすると SD メモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。SD WORM カードは、書き込み禁止スイッチはありませんが、記録データの削除や初期化はできません。

メモ

- 内蔵メモリーに記録された画像を、再生設定メニュー（☞P.72）の［内蔵メモリーからカードへコピー］（☞P.73）で SD メモリーカードにコピーすることができます。
- ［動画サイズ］（☞P.63）を［HD 1280］に設定して動画を撮影する場合は、SD スピードクラスが Class6 以上の SD/SDHC メモリーカードのご使用をお勧めします。

電池（DB-65）を充電する

リチウムイオン電池 DB-65 は、使用する前に充電する必要があります。

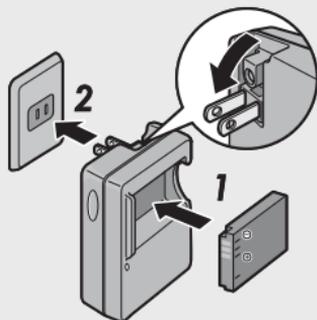
1 電池の ⊕⊖ 印と充電器の ⊕⊖ 印を合わせてセットする

- このとき、電池のロゴ印刷面は上になっています。

注意 ---

⊕ と ⊖ を逆にセットしないでください。

2 コンセントに充電器を差し込む

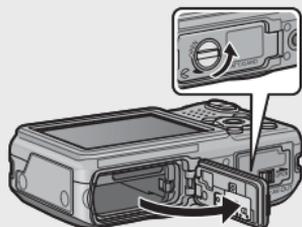
- 充電には専用充電器（BJ-6）をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	充電器の端子汚れ、または充電器／電池の異常。充電器をコンセントから抜いて、電池を取り外してください。

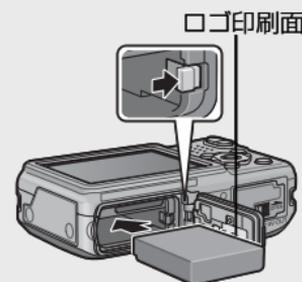
- 電池を使いきった状態からの充電時間の目安は、以下のとおりです。電池の残量により充電時間は異なります。

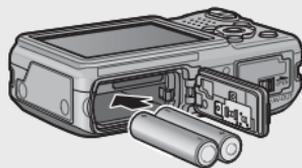
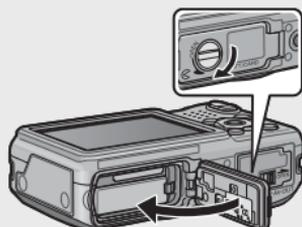
電池の充電時間	
DB-65	約 150 分（25℃）

電池と SD メモリーカードをセットする

電池を充電したら、電池と SD メモリーカードをカメラにセットします。電池や SD メモリーカードを取り出すときには、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。

1 電池／カードカバーのつまみを ⊖ 側に回してカバーを開ける

2 SD メモリーカードと電池を挿入する

- SD メモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまで奥へ挿入してください。
- 電池がセットされると、図のツメでロックされます。

乾電池（市販）の場合

- 電池の向きに気を付けて、図のように挿入します。

3 電池／カードカバーを閉じて、つまみを ⊖ の反対側に回す

電池を取り出すときには

電池／カードカバーのつまみを ⊖ 側に回してカバーを開けます。電池をロックしているツメをずらすと電池が押し出されますので、つまんで取り出します。このとき電池が落下しないよう充分に注意してください。

乾電池を取り出すときには

電池／カードカバーのつまみを ⊖ 側に回してカバーを開けると、乾電池が押し出されますので、つまんで取り出します。このとき乾電池が落下しないよう充分に注意してください。

SD メモリーカードを取り出すときには

電池／カードカバーのつまみを ⊖ 側に回してカバーを開けます。SD メモリーカードを一度押し込んで指を静かに離すと SD メモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

***注意* ---**

- 電池／カードカバーを確実に閉めてください。水や埃がカメラ内部に入ることがあります。
- 電池／カードカバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所を避けて開閉してください。
- 電池、および SD メモリーカードをセットするときは、挿入する向きを間違えないようご注意ください。向きを間違えたまま無理に電池／カードカバーを閉じると、カメラ本体や電池、SD メモリ－カードを破損する恐れがあります。

電源をオン／オフする

電源をオン／オフするには、POWER（電源）ボタンを押します。

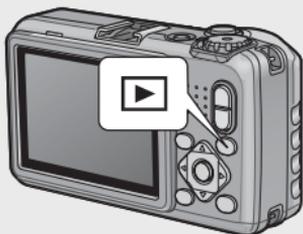
オンにすると起動音が鳴り、画像モニターが点灯します。

オンの状態でPOWERボタンを押すと、その日の記録枚数が表示され、電源がオフになります。

メモ --

- 日時設定を変更した場合は、設定変更後の記録枚数のみ表示されます。
- 日時設定をしていない場合は、記録枚数は［0］と表示されます。

再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを長押しすると、再生モードの状態で電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。
- ▶ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度▶ボタンを押すと、撮影モードになります。

 オートパワーオフについて --

- 設定した時間内にカメラのボタンを押さなかった場合は、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます（☞P.84）。

 パスワードロックについて（☞P.92） --

パスワードロックを設定している場合、カメラの起動時にパスワードの入力を求める画面が表示されることがあります。その場合、設定したパスワードを入力すると（☞P.90）、カメラが使用できるようになります。

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ▲▼◀▶ ボタンを上下左右に押して、年・月・日・時・分・書式を設定する

- ▲▼ ボタンで設定を変更し、◀▶ ボタンで項目を移動します。
- DISP. ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

2 画面の表示を確認し、MENU/OK ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 日時が設定されます。
- 電池の残量が充分ではない場合、警告画面が表示されます。充分に残量のある電池の使用をお勧めします。MENU/OK ボタンを押すと、警告画面の表示が消えます。

メモ --

- 設定した日時はセットアップメニュー（☞P.82）の［日時設定］（☞P.86）で後から修正できます。
- 撮影設定メニュー（☞P.62）の［日付入れ撮影］（☞P.65）を設定すると、日付または日時を入れて撮影できます。
- 電池を取り出してから約 3 日間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに 10 時間以上セットしてください。

かんたんな撮影

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

オート撮影モードで撮る（ピントを合わせて撮る）

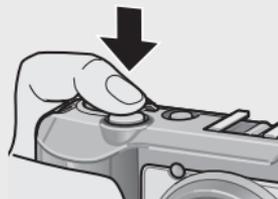
モードダイヤルを 📷 に合わせて、オート撮影モードで撮影してみましょう。

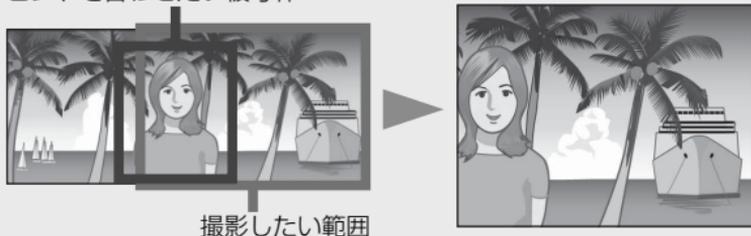
シャッターボタンを押す操作は、2 段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押し切ると撮影されます。

被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体に付ける

2 シャッターボタンに指を当てる

3 画像モニターの中央の AF 枠に被写体を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出とホワイトバランスが固定されます。
- 最大 9 点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

4 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

5 シャッターボタンをそのまま静かに押し切る

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたは SD メモリーカードに保存されます。

注意 --

指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。

ピント合わせについて --

ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色とオートフォーカス／フラッシュランプで確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色	オートフォーカス／フラッシュランプ
ピント合わせ前	白	消灯
ピントが合ったとき	緑	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤（点滅）	緑点滅

次のような被写体は、ピントを合わせられないことや、枠の色が緑になっていてもピントが合っていないことがあります。

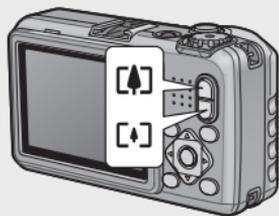
- コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
- 横線だけで、凹凸のないもの
- 動きの速いもの
- 暗いところのもの
- 強い逆光および反射光があるもの
- 蛍光灯などのちらつきのあるもの
- 光源が点状のもの（電球、スポットライト、点光源 LED など）

このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離の違う被写体にピントを固定するなどしてから撮影してください。

手ブレを防ぐには

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンは静かに押しましょう。
- シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、画像を鮮明に撮影できません（手ブレ）。
  次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。
  - フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
  - ズームを使って撮る
  - 撮影設定メニュー（☞P.62）の［長時間露光］（☞P.64）を設定して撮る
- 画像モニターに 手ブレ警告 マークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。
  - 撮影設定メニュー（☞P.62）の［手ブレ補正］（☞P.65）を［ON］にする
  - フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.35）
  - ISO 感度を上げる（☞P.71）
  - セルフタイマーを使う（☞P.36）

ズームを使って撮る

[♠]（望遠）ボタンを押すと、被写体を大きく写すことができます。[♠]（広角）ボタンを押すと、広い範囲を写すことができます。ズームの位置は画像モニターのズームバーで確認できます。

ズームバー

メモ

セットアップメニュー（☞P.82）の［ステップズーム］（☞P.83）を［ON］に設定すると、光学ズームの焦点距離を 6 段階に固定することができます。

デジタルズームを使う

デジタルズームを使用すると、通常の拡大倍率（最大 5.0 倍）より、さらに被写体を拡大できます（最大 4.0 倍）。
デジタルズームを使う場合は、ズームバー表示が [♠] 側の端まできたときに、いったん [♠] ボタンから指を離し、再び [♠] ボタンを押し続けます。
［画質・サイズ］を 12M 4:3F または 12M 4:3N に設定している場合は、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択することもできます（☞P.89）。

接写で撮る（マクロ撮影）

マクロ撮影機能を使うと、カメラを被写体に接近させて撮影できます。マクロモードにするには、✿（マクロ）ボタンを押します。もう一度 ✿ ボタンを押すと、マクロモードが解除されます。

 メモ

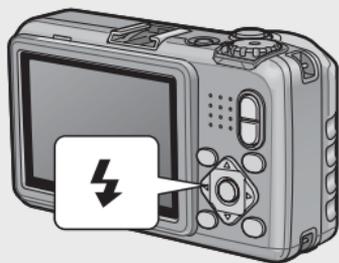
- ［フォーカス］（☞P.63）は［スポット AF］になります。
- ［フォーカス］（☞P.63）が［MF］の場合は、マクロモードは使用できません。
- マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの［ズームマクロ］を使います（☞P.52）。
- ズームを使用しているときの最短撮影距離と撮影範囲は以下のとおりです。

ズーム位置	最短撮影距離（レンズ先端より）	撮影範囲
広角時	約 1cm	約 21.8 × 16.4mm
望遠時	約 15cm	約 42.3 × 31.7mm（デジタルズーム未使用時）
	約 15cm	約 10.6 × 7.9mm（デジタルズーム 4.0 倍時）

フラッシュを使って撮る

撮影する状況によって、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、[発光禁止] に設定されています。

1 撮影できる状態で ⚡ ボタンを押す

- 画像モニターにフラッシュモード一覧が表示されます。

(発光禁止マーク)	発光禁止	フラッシュを発光しません。
⚡AUTO	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
(赤目軽減マーク)	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
⚡	強制発光	フラッシュを必ず発光します。
⚡10M	強制発光 10M	10m まで届くフラッシュを必ず発光します。望遠時は 6.2m まで届くフラッシュを発光します。
⚡SLOW	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をお勧めします。

2 ▲▼ ボタンを押して、フラッシュモードを選ぶ

- 画像モニター左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中はオートフォーカス／フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。

注意 --

- フラッシュ充電中（約 8 秒間）は撮影できません。
- 単四形アルカリ乾電池、ニッケル水素電池をお使いの場合、フラッシュ充電中は画像モニターがオフになります。
- フラッシュを使用する設定になっている場合は、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかる場合があります。

メモ --

- 次に ⚡ ボタンを押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- フラッシュ発光時は、AE の精度を補助するため、予備発光します。
- 撮影モードや設定している撮影設定メニューによっては、フラッシュを使用できません（☞P.169）。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10 秒後、2 秒後から選択できます。手ブレを防ぎたいときには 2 秒に設定すると便利です。

1 撮影できる状態で、ૐ（セルフタイマー）ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある数字は、シャッターボタンを押してから撮影するまでの秒数を表しています。
- ૐ ボタンを押すと、［10 秒］→［2 秒］→［セルフ オフ］の順に設定が切り替わります。

2 シャッターボタンを押す

- ピントが固定され、セルフタイマーがスタートすると AF 補助光が発光します。

メモ --

- 撮影が完了した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、ૐ ボタンを押して、［セルフ オフ］に切り替えます。
- 2 秒の場合は、AF 補助光は点滅しません。
- セルフタイマーを設定すると、［インターバル撮影］の設定は無効になります。

CALS モードで撮る

CALS モードでは、工事写真提出用に適した画質・サイズで撮影できます。画質・サイズはあらかじめセットアップメニューの［CALS 画質・サイズ］で選択しておきます（☞P.87）。ご購入時の［CALS 画質・サイズ］は、国土交通省、NEXCO（旧日本道路公団）の提出準拠：画素数 1 M、ファイルサイズ 500KB 以下に適した［1M 4:3N］（画質 ：Normal、画素数：1280 × 960、ファイルサイズ：約 363KB）に設定されています。

メモ ---

- モードダイヤルを CALS 以外に合わせると、他のモードで設定した［画質・サイズ］に戻ります。
- ［CALS 画質・サイズ］はマイセッティングとして登録することができます（☞P.88）。

マイセッティングモードで撮る

モードダイヤルを MY1、MY2 に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1、MY2 の設定は、セットアップメニューの［マイセッティング登録］で登録します（☞P.88）。

メモ ---

マイセッティングモード時に、撮影設定メニューやセットアップメニュー項目の設定を変更できます。モードを切り替えるか電源をオフにすると、元の MY1 、MY2 の設定に戻ります。

再生する

静止画を見る

再生モードにするには、▶（再生）ボタンを押します。電源がオフの状態で ▶ ボタンを約 1 秒以上押し続けると、再生モードの状態で起動します。

◀▶ ボタンを押すと、1 ファイル前／後ろを表示できます。▲▼ ボタンを押すと、10 ファイル前／後ろを表示します。

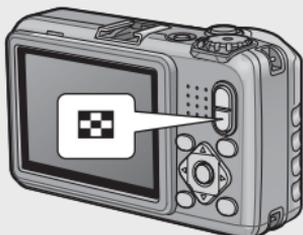
再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度 ▶ ボタンを押します。

一覧表示する

20 分割

（サムネイル表示）ボタンを押すと、画面が 20 分割されてファイルが一覧表示されます。

DISP. ボタンを押すと、画像選択画面とページ送り画面を切り替えられます。ページ送り画面では、▲▼◀▶ ボタンでページを切り替えられます。

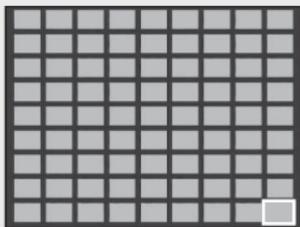
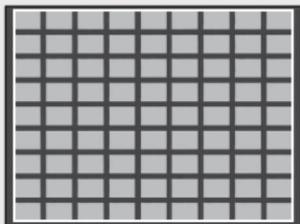
1 枚表示に戻すには、画像選択画面でファイルを選んでから ADJ./MEMO ボタンを押すか、Q（拡大表示）ボタンを 1 回押します。

81 分割

20 分割表示時に再度 ▣ ボタンを押すと、画面が 81 分割されてファイルが一覧表示されます。

画像選択画面

DISP. ボタンを押すと、画像選択画面とページ送り画面を切り替えられます。ページ送り画面では、▲▼◀▶ ボタンでページを切り替えられます。

ページ送り画面

1 枚表示に戻すには、画像選択画面でファイルを選んでから ADJ./MEMO ボタンを押すか、Q ボタンを 2 回押します。

日付表示

81 分割表示時に再度 ▣ ボタンを押すと、日付表示になり、撮影日ごとに画像が表示されます。

画像選択画面

DISP. ボタンを押すと、画像選択画面と日付送り画面を切り替えられます。日付送り画面では、◀▶ ボタンを押すと撮影日、▲▼ ボタンを押すとページを切り替えられます。

日付送り画面

1 枚表示に戻すには、画像選択画面でファイルを選んでから ADJ./MEMO ボタンを押すか、Q ボタンを 3 回押します。

拡大表示する

Q（拡大表示）ボタンを押すと、表示している画像を拡大表示することができます。画像サイズにより、拡大できる倍率は異なります。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
VGA 4:3F	3.4 倍
1M 4:3F / 1M 4:3N / 2M 4:3F	6.7 倍
上記以外の画像サイズ	16 倍

画像拡大時の動作	
Q ボタン / ⊞ ボタン	画像を 1 段階拡大 / 縮小表示します。▲▼◀▶ ボタンで画面内の表示箇所を移動できます。
MENU/OK ボタン	画像の倍率が 8 倍未満の場合は 8 倍、8 倍以上の場合は 16 倍に拡大表示します。16 倍まで拡大できない画像サイズの場合、最大倍率まで拡大表示します。最大倍率で表示している場合、元のサイズに戻ります。

拡大表示中に DISP. ボタンを押すと、以下のように画面を切り替えることができます。

この画面で ▲▼◀▶ ボタンを押すと、表示箇所を移動します。

この画面で ▲▼◀▶ ボタンを押すと、表示箇所を移動します。

この画面で ◀▶ ボタンを押すと、拡大表示した状態で、前の画像／次の画像を表示します。

メモ

- 動画を拡大表示することはできません。
- ［トリミング］（☞P.75）した画像は、上記の最大倍率まで拡大できません。

削除する

ファイルをSDメモリーカードまたは内蔵メモリーから削除できます。

メモ

- 誤って必要なファイルを削除してしまった場合は、[ファイル復元]を使うと、削除したファイルを元に戻すことができます（☞P.74）。ただし、電源をオフにしたり、再生モードから撮影モードに切り替えたりするなどの操作を行うと、それ以前に削除したファイルは復元できません。
- SD WORMカードを使用している場合は、ファイルの削除はできません。

1ファイル/全ファイルを削除する場合

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

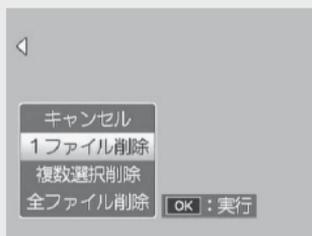
2 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したいファイルを表示する

- 複数ファイルを削除したい場合は、▦（サムネイル表示）ボタンを押して一覧表示にしてから手順3に進んでも構いません。

3 🗑（削除）ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[1ファイル削除]または[全ファイル削除]を選ぶ

- ◀▶ボタンを押すと、削除するファイルを変更できます。

キャンセル
1ファイル削除
複数選択削除
全ファイル削除
OK：実行

5 MENU/OKボタンを押す

- [全ファイル削除]を選んだ場合、◀▶ボタンを押して[はい]を選び、MENU/OKボタンを押します。

複数のファイルを一度に削除する

複数のファイルを一度に削除できます。削除するファイルを 1 つずつ指定する方法と、削除するファイルの範囲を指定する方法があります。いずれの場合も、再生モードで 🗑（削除）ボタンを押して、メニュー項目を表示してください。

途中で DISP. ボタンを押すとキャンセルできます。

削除するファイルを 1 つずつ指定する場合

1 ▲▼ ボタンを押して、［複数選択削除］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 一覧表示にしている場合は、この手順は不要です。

2 ▲▼ ボタンを押して、［1 枚ずつ指定］を選び、MENU/OK ボタンを押す

3 ▲▼◀▶ ボタンを押して削除したいファイルを選び、MENU/OK ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- ADJ./MEMO ボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。P.43 の手順 3 以降を参照してください。

4 手順 3 を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して MENU/OK ボタンを再度押すと解除できます。
- DISP. ボタンを押すと、すべてのファイル選択を解除して手順 2 に戻ります。

5 🗑（削除）ボタンを押す

6 ◀▶ ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押す

複数ファイルの範囲を指定する場合

1 ▲▼ ボタンを押して［複数選択削除］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 一覧表示にしている場合は、この手順は不要です。

2 ▲▼ ボタンを押して［範囲を指定］を選び、MENU/OK ボタンを押す

3 ▲▼◀▶ ボタンを押して削除したい範囲の始点になるファイルを選び、MENU/OK ボタンを押す

- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、DISP. ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。
- ADJ./MEMO ボタンを押すと、1 ファイルずつ指定する画面に切り替わります。P.42 の手順 3 以降を参照してください。

4 ▲▼◀▶ ボタンを押して削除したい範囲の終点になるファイルを選び、MENU/OK ボタンを押す

- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- DISP. ボタンを押すと、すべてのファイル選択を解除して手順 2 に戻ります。

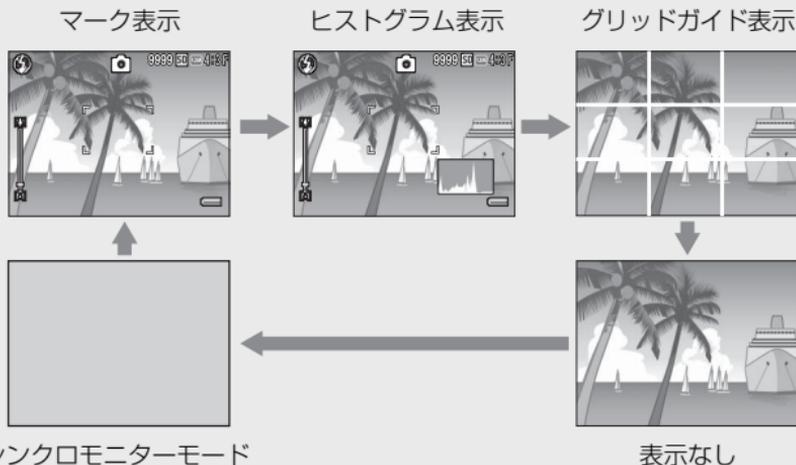
5 手順 3、4 を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

6 🗑（削除）ボタンを押す

7 ◀▶ ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押す

DISP. ボタンで画面表示を切り替える

DISP. ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

撮影モード時

 グリッドガイド表示

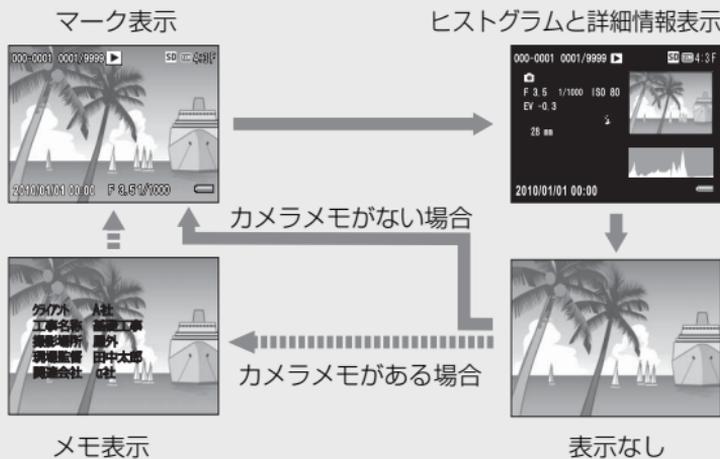
- 画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。
- グリッドの種類はセットアップメニューの［グリッドガイド表示設定］で選択できます（☞P.85）。

シンクロモニターモード

カメラ操作時以外は、画像モニターをオフにする機能です。節電に効果があります。シャッターボタンを半押しすると、画像モニターがオンになり、押し切った後に確認画面が表示されて、画像モニターがオフになります（セットアップメニューの［画像モニター節電］、［画像モニターオフ］とは異なります）。

メモ

- セットアップメニューで［撮影情報表示フレーム］を［ON］に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示のときに、撮影情報フレームを表示することができます（☞P.85）。
- 動画モード時は、ヒストグラム表示はできません。また、グリッドガイド表示または表示なしの場合でも、動画モードで録画中は画面に［● REC］が点滅し、記録時間と残り記録時間が表示されます。
- ［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定している場合は（☞P.46）、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます（☞P.47）。
- シンクロモニターモードでも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - MENU/OK ボタン、ADJ./MEMO ボタン、DISP. ボタン、Q/▦ ボタン、▶（再生）ボタンを押した場合

再生モード時

画面の輝度を最大にするには

撮影モード時に DISP. ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。輝度が最大のときに DISP. ボタンを押し続けると、画像モニター輝度調節（☞P.83）で設定した明るさに戻ります。

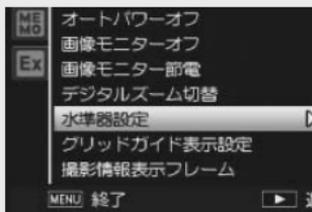
電子水準器を表示するには

セットアップメニューで［水準器設定］をオンにすると、撮影する画像が水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認することができます。水平インジケーターは、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます。

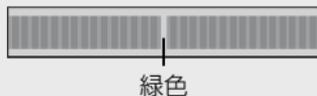
風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図などで特に有効です。

設定	内容
OFF	水平インジケーターは表示されません。水準器音も鳴りません。
表示のみ	水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。
表示＋音	水平インジケーターが表示され、画像が水平状態のときに水準器音が鳴ります。
音のみ	水平インジケーターは表示されません。画像が水平状態のときに水準器音が鳴ります。

1 セットアップメニュー（☞P.82）で［水準器設定］を選び、▶ボタンを押す

2 ▲▼ボタンを押して設定を選び、MENU/OK ボタンを押す

水平インジケーターの表示

水平の場合：

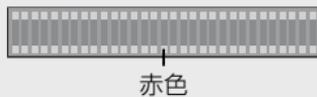
水平インジケーターが緑色になり、目盛りが真中を指します。

左右に傾いている場合：

水平インジケーターの目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

左右に傾けすぎている場合：

カメラの傾きと反対側の半分が赤色になります。目盛りは表示されません。

カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合：

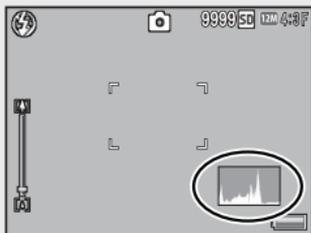
水平インジケーターの上下が赤くなります。目盛りは表示されません。

カメラを縦にしている場合：

カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認することができます（表示される場所が変わります）。

注意 --

- グリッドガイド表示、表示なし、シンクロモニターモードのときは（☞P.44）、水準器音は鳴りますが水平インジケーターは表示されません。［水準器設定］を［表示＋音］に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物に乗っているなど、ゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- ［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定していても、［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合（☞P.84）は、音は鳴りません。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の水準器の精度は保証できません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、画像モニターの右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。

ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムの山が右側だけ盛り上がっている場合は、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

グラフの山が左側だけ盛り上がっている場合は、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。

メモ --

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- 撮影後に、ヒストグラムを調整しながら画像の明度、コントラストを補正することができます（☞P.77）。
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.69を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

1 ADJ. ボタンの機能

ADJ./MEMO ボタンには、以下の機能があります。

① 撮影設定メニューのうち、4 つの機能を登録する（ADJ. モード）
② AE/AF ターゲットを移動する
③ カメラメモ（☞P.57）

撮影設定メニューの登録と選択方法

ADJ./MEMO ボタンには、撮影設定メニューのうち 4 つの機能を登録することができます（ADJ. モード）。5 つ目の機能は、AE/AF ターゲット移動（☞P.51）に固定されており、変更することはできません。

ADJ. モードを使うと、撮影設定メニューを表示することなく、少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくと便利です。

1 ADJ./MEMO ボタンに登録したい機能を、セットアップメニューの［ADJ. ボタン設定 1/2/3/4］で設定する

- 購入時には 4 つの機能が登録されていますが、機能を変更することができます。

2 撮影モードで ADJ./MEMO ボタンを押す

- ADJ. モード画面が表示されます。

3 ◀▶ ボタンを押して、設定したい項目を選択する

4 ▲▼ ボタンを押して設定を選択し、MENU/OK ボタンを押して確定する

メモ --

- ADJ./MEMO ボタンに登録できる機能は、P.170 を参照してください。
- カメラメモを使用しているときは、ADJ. モードは使用できません。

AE ／ AF ターゲット移動

AE（自動露出）と AF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。

設定	内容
AE/AF	AE と AF はそれぞれスポット AE、スポット AF となり、ターゲットを同時に移動できます（スポット AE とスポット AF のターゲットは同じ位置になります）。
AF	AF がスポット AF となり、ターゲットを移動できます。測光は撮影設定メニューの［測光］で選択した設定になります (☞P.63)。
AE	AE がスポット AE となり、ターゲットを移動できます。フォーカスは撮影設定メニューの［フォーカス］で選択した設定になります（☞P.63)。

1 📷 ／ CALS モードで ADJ./MEMO ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンを押して ✥ を選択する

3 ▲▼ ボタンを押して設定を選び、MENU/OK ボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。

4 ▲▼◀▶ ボタンを押して、露出やピントを合わせたい被写体の位置にターゲットを移動する

- DISP. ボタンを押すと、手順 2 の画面に戻ります。

5 MENU/OK ボタンまたは ADJ./MEMO ボタンを押す

6 シャッターボタンを半押ししてそのまま静かに押し切る

メモ --

- シーンモードでは、✥ がマクロターゲット ✿ に変わり、マクロターゲットを移動できます。
- この機能は、［フォーカス］（☞P.63）を［MF］に設定している場合は使用できません。

シーンモードの種類

シーンモードを使うと、5 種類の静止画モードと動画が選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

高感度	薄暗い場所で撮影するときに使います。画像モニターも見やすくなります。
消防	火災現場など、撮影に困難な状況でも使用できます。2.5m 固定焦点で撮影するので、炎や煙、水蒸気などオートフォーカスの苦手な火災現場でボケることなく撮影できます。ISO 感度アップにより遠くまでフラッシュが届き、フラッシュを使用しない場合でもシャッタースピードを制御して手ブレを防ぎます。その他、シャープネス処理描写、画像モニターの感度をアップするなど消防対応のモードです。
斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。 詳しい操作手順は P.54 で説明しています。画像サイズは、撮影設定メニュー（☞P.62）の［画質・サイズ］（☞P.63）から［1M 4:3F］、［1M 4:3N］または［VGA 4:3F］を選択できます。
文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。画像サイズは、撮影設定メニュー（☞P.62）の［サイズ］（☞P.63）から［12M 4:3］または［3M 4:3］を選択できます。
ズームマクロ	ズーム位置を自動的に最適化し、通常のマクロ撮影よりも被写体をより大きく撮影できます。光学ズームは使用できません。常時マクロモードに固定されます。
動画	音声付き動画を撮影します。 詳しい操作手順は P.55 で説明しています。

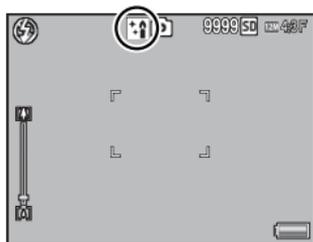
注意 --

［ズームマクロ］を使用しているときは、次の距離までのマクロ撮影ができます。

最短撮影距離（レンズ先端より）	撮影範囲
約 1cm	約 14.8 × 11.1mm（デジタルズーム未使用時）
	約 3.7 × 2.8mm（デジタルズーム 4.0 倍時）

シーンモードの設定方法

1 モードダイヤルを SCENE に合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 シーンモードを変更したい場合は、MENU/OK ボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 シーンモードを選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す

- 画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

シーンモードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定を変更したい場合には ---

撮影モードで MENU/OK ボタンを押し、◀ ボタンを押して［MODE］タブを選択してください。その後 ▼ ボタンを 1 回押すと撮影設定メニュー、2 回押すとセットアップメニューが表示されます。

斜め補正モードを使うには

1 シーンモードで［斜め補正］を選んで MENU/OK ボタンを押す

2 シャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大 5 つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

メモ --

撮影済みの静止画を斜め補正することもできます（☞P.78）。

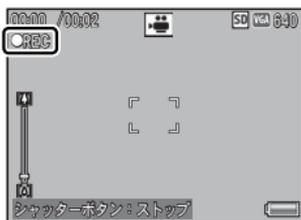
注意 --

［斜め補正］に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体ができるだけ大きくなるように、被写体の全体が画像モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ピンぼけの画像
  - 被写体の 4 辺がはっきり見えない
  - 被写体と背景の区別がつきにくい
  - 背景が複雑な構図
- 変換前と変換後、2 枚の画像が記録されます。記録可能枚数が 2 枚未満の場合には、撮影できません。
- ［日付入れ撮影］をオンに設定していると、補正エリアを正しく検出できない場合があります。

動画の撮影

シーンモードで［動画］を選ぶと、音声付き動画を撮影できます。動画サイズ（☞P.63）も選択できます。撮影した動画は、1 つの AVI ファイルとして記録されます。

シャッターボタンを押すと画面に［● REC］が点滅し、動画撮影を開始します。撮影中に [♠]/[♣] ボタンを押すと、デジタルズームが使用できます（☞P.33）。録画中は、記録時間と残り記録時間が表示されます。再度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。

注意 --

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1 回の撮影で記録可能な動画の容量は、最大 4GB までです。［動画サイズ］が［HD 1280］の場合は最大約 12 分、［VGA 640］または［QVGA 320］の場合は最大約 29 分まで記録可能です。ただし、実際の撮影可能時間はご使用のカードの容量により異なります（☞P.174）。また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつきが記録される場合があります。

メモ --

- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。長時間撮影される場合は、充分に充電された電池または AC アダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- ［動画サイズ］（☞P.63）を［HD 1280］に設定して動画を撮影する場合は、SD スピードクラスが Class6 以上の SD/SDHC メモリーカードのご使用をお勧めします。

動画の再生

動画を再生するには、次のように操作します。

1 再生モードで再生したい動画を選ぶ

2 ADJ./MEMO ボタンを押す

- 再生が始まります。画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中に [♠] ボタンを押す
巻き戻し	再生中に [♣] ボタンを押す
一時停止／再生	ADJ./MEMO ボタンを押す
スロー再生	一時停止中に [♠] ボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中に [♣] ボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中に [♠] ボタンを押す
前のフレームの表示	一時停止中に [♣] ボタンを押す
音量を調節する	再生中に ▲▼ ボタンを押す

4　カメラメモの使い方

カメラメモリストの作成方法や転送方法、設定方法などの詳しい手順は、付属の『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

カメラで撮影した画像ファイルには、情報を付加できる領域があります。この領域を使って静止画に関するメモを付加できるようにしたのが、カメラメモ機能です。カメラメモを付加することによって、静止画の識別や分類が簡単に行えます。ここでは、カメラメモの基本的な使い方の流れを説明します。

注意 --

- 動画には付加できません。
- SD WORM カード使用時は、カメラメモ機能を使用できません。

カメラメモを付加して静止画を撮影する

カメラメモを使用するには、あらかじめカメラメモリストファイルをカメラに転送しておく必要があります。

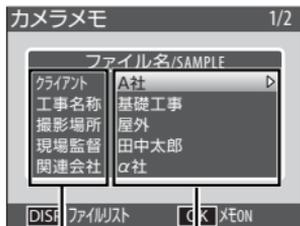
1 🔘／CALS モードで ADJ./MEMO ボタンを押す

- ［カメラメモ］画面が表示されます。

2 カメラメモの内容を設定する

- ［カメラメモ］画面では、分類項目とカメラメモ内容が表示されます。
- カメラメモの設定方法は、カメラメモメニューの［カメラメモモード］（☞P.95）の設定によって異なります。

分類項目　カメラメモ内容

- ［MODE1］の場合、▲▼ボタンで分類項目を選択し、▶ボタンを押します。▲▼ボタンでカメラメモ内容を選択し、MENU/OK ボタンを押します。
- ［MODE2］の場合、◀▶ボタンを押して組み合わせを選択します。

3 MENU/OK ボタンを押す

・カメラメモの内容が確定します。

4 シャッターボタンを押して撮影する

・撮影された静止画にカメラメモが付加されます。

カメラメモを付加した静止画を再生して確認する

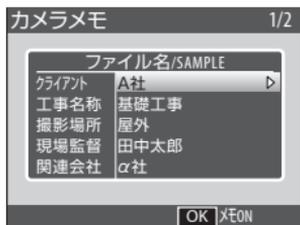
カメラメモを付加して撮影した静止画の確認方法は、カメラメモメニューの［カメラメモモード］（☞P.95）の設定によって異なります。

［MODE1］の場合

1 再生モードでカメラメモを付加したい静止画を表示して ADJ./MEMO ボタンを押す

・カメラメモを付加した静止画には［MEMO］アイコンが表示されています。
・［カメラメモ］画面が表示されます。

2 カメラメモの内容を確認する

・［カメラメモ］画面では、分類項目とカメラメモ内容が表示されています。
・▲▼ ボタンを押すと表示するカメラメモを切り替えられます。
・カメラメモの内容を編集することもできます（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』P.29）。

3 MENU/OK ボタンを押す

・再生画面に戻ります。

［MODE2］の場合

［MODE2］の場合、再生モードで DISP. ボタンを押して表示されるカメラメモ画面でのみ確認できます（☞P.45）。カメラメモの内容を編集することはできません。

オリジナルヘルプについて

拡張設定メニュー（☞P.98）の［オリジナルヘルプ］（☞P.104）を［ON］に設定すると、撮影設定メニュー（☞P.62）や再生設定メニュー（☞P.72）の表示中に DISP. ボタンを押した場合、あらかじめ登録した JPEG 画像（オリジナルヘルプ画像）を画像モニターに表示できます。

オリジナルヘルプを登録するには

オリジナルヘルプ機能を使うには、画像を SD メモリーカードに保存し、カメラで読み込んで内蔵メモリーにコピーする必要があります。

1 カメラまたはカードリーダーとパソコンを接続する

- 本カメラでフォーマットした SD メモリーカードをセットしてください。

2 SD メモリーカードの［IMPORT］フォルダにオリジナルヘルプとして使用したい画像をコピーする

- コピーできるのは 99 枚までです。

3 カメラまたはカードリーダーとパソコンの接続を解除する

- 接続の解除方法は P.156 を参照してください。
- カードリーダーを使用した場合は、接続解除後に SD メモリーカードをカメラにセット（☞P.27）してください。

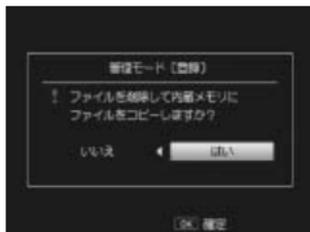
4 拡張設定メニュー（☞P.98）から［管理モード〔登録〕］を選択し、▶ボタンを押す

- パスワード入力画面が表示されます。

5 拡張設定メニュー（☞P.98）の［管理モード〔パスワード〕］（☞P.104）で設定したパスワードを入力して ADJ./MEMO ボタンを押す

- パスワードの入力方法は P.91 を参照してください。
- 出荷時の設定は「0000」です。
- パスワードが一致すると、画像をコピーするかどうかを確認する画面が表示されます。
- パスワードが一致しなかった場合、拡張設定メニューに戻ります。

6 ［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押す

- 内蔵メモリーにオリジナルヘルプ画像がコピーされます。
- コピーが終了すると拡張設定メニューに戻ります。
- 内蔵メモリーに保存できる容量を超えると、警告メッセージが表示され、コピーが終了します。それまでにコピーしたオリジナルヘルプ画像は内蔵メモリーに残ります。

メモ ---

- すでにオリジナルヘルプ画像を登録している場合、それまでのオリジナルヘルプ画像は削除され、新しく登録されたオリジナルヘルプ画像に置き換わります。
- 内蔵メモリーにコピーされたオリジナルヘルプ画像は、再生設定メニュー（☞P.72）の［内蔵メモリーからカードへコピー］（☞P.73）を実行しても SD メモリーカードにはコピーされません。

注意 ---

オリジナルヘルプ画像として使用できるのは、以下の条件をすべて満たす JPEG 画像のみです。

- 幅 32 ×高さ 32 ピクセル以上、幅 4000 ×高さ 3000 ピクセル以下
- 色空間 YCbCr 4:2:2 または 4:2:0
- 色空間 YCbCr 4:2:2 の場合、幅のピクセル数が 16 の倍数、高さのピクセル数が 8 の倍数のサイズ
- 色空間 YCbCr 4:2:0 の場合、幅と高さのピクセル数が 16 の倍数のサイズ
- ファイル容量が 12MB 以下
- ファイル名が「半角英数字 4 文字 + 半角 4 桁の数字 .jpg」

オリジナルヘルプを再生するには

1 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 DISP. ボタンを押す

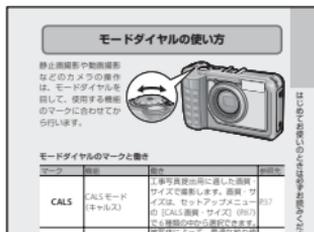
モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせてから行います。

はじめてお使いのときは必ずお読みくださ

モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き	参照先
CALS	CALS モード（キャルス）	工事写真提出用に適した画質・サイズで撮影します。画質・サイズは、セットアップメニューの［CALS 画質・サイズ］（P.87）で 6 種類の中から選択できます。	P.37
		被写体によって、最適な絞り値	

- 登録されたオリジナルヘルプ画面がファイル名順に表示されます。
- ◀▶ ボタンを押すと、1 ファイル前／後ろを表示できます。▲▼ ボタンを押すと、10 ファイル前／後ろを表示します。
- オリジナルヘルプ再生画面では、1 枚表示と 20 分割表示（☞P.38）が可能です。拡大表示（☞P.40）もできます。
- 🗑（削除）ボタンを押しても削除できません。オリジナルヘルプ画像の削除は［管理モード〔削除〕］（☞P.104）から行います。
- ▶（再生）ボタンを押しても再生モードにはなりません。
- オリジナルヘルプ表示中にシャッターボタンを半押ししたり、モードダイヤルを回したりすると、撮影モードになります。

3 オリジナルヘルプの再生をやめるには、DISP. ボタンを押す

- オリジナルヘルプ表示前の画面に戻ります。

オリジナルヘルプ画像を削除するには--------------------------------

拡張設定メニュー（☞P.98）の［管理モード〔削除〕］では、オリジナルヘルプの再生／削除が行えます。［管理モード〔削除〕］から再生を行うと、通常の再生モードでのファイル削除（☞P.41）と同様に 🗑 ボタンを押してオリジナルヘルプ画像を削除できます。

撮影モードで MENU/OK ボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、撮影に関する設定を変更できます。

メニューの操作方法

1 撮影モードで MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。
- シーンモードの場合は、◀ ボタンを押して［MODE］タブを選択します。その後 ▼ ボタンを 1 回押すと、撮影設定メニューが表示されます。▶ ボタンを押して各項目の選択画面に入ります。

表示している画面の範囲を示しています。

2 ▲▼ ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- この画面で DISP. ボタンを押すと、撮影設定メニュータブにカーソルが移動します。
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと、次の設定画面が表示されます。

3 ▶ ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ ボタンを押して、選択肢を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す

- 設定が確定し、撮影設定メニューが消えて撮影できる状態になります。
- ◀ ボタンを押すと、設定が確定して手順 2 の画面に戻ります。

撮影設定メニュー一覧

文字濃度

シーンモードの［文字］の濃淡を設定します。

サイズ

☞P.174

シーンモードの［文字］の画像サイズを設定します。

動画サイズ

☞P.174

動画の記録サイズを設定します。

画質・サイズ

☞P.174

静止画の画質モード、画像サイズを設定します。

フォーカス

☞P.67

ピント合わせ（フォーカス）の方式を設定します。

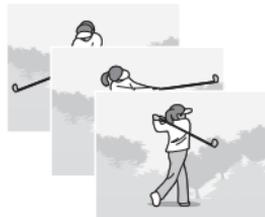
アイコン	設定
—	**マルチ AF** 9 箇所の AF エリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。ピンぼけの少ない撮影ができます。
—	**スポット AF** AF エリアを画像モニター中央の 1 箇所に固定し、ピントを合わせます。
MF	**MF（マニュアルフォーカス）** 手動でピントを合わせるときに使います（☞P.67）。
S	**スナップ** 近距離（約 2.5m）にピントを固定します。
∞	**∞（無限遠）** 無限遠にピントを固定します。遠くの風景などを撮影するときに使います。

測光

露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更できます。

アイコン	設定
—	**マルチ** 撮影範囲全体を 256 に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
[•]	**中央** 中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
[•]	**スポット** 中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

連写

シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。通常の撮影に戻したいときは［OFF］を選択します。

注意

- 連写時は、フォーカスと露出値が固定されます。
- 連写を使って撮影するときの連続記録可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- ［カード連続 NO.］を［ON］に設定している場合（☞P.86）、連写撮影中にファイル番号の下 4 桁が「9999」を超えると、メモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。
- 最大連続撮影可能枚数は、999 枚です。

画像設定

コントラスト、シャープネス、彩度など画像の画質を変更できます。

アイコン	設定
Vi	ビビッド コントラスト、シャープネス、彩度を［スタンダード］より高めにすることによって、硬い感じの画質にします。
—	スタンダード 通常の画質です。
BW	白黒 白黒の画像です。

オートブラケット

☞P.68

露出／ホワイトバランスのいずれかを変化させながら、自動的に連続撮影します。

長時間露光

夜景、花火などの被写体の軌跡を撮影する場合に使用する長時間露光の露光時間を OFF、1 秒、2 秒、4 秒、8 秒から設定できます。

メモ

- シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。三脚などを使用して撮影してください。
- 撮影中は画像モニターが消灯します。

インターバル撮影

設定した時間間隔で、自動的に撮影できます。撮影間隔は、5 秒～ 3 時間の間で 5 秒単位で設定できます。

注意--

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなる場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。

メモ--

- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。充分に充電された電池または AC アダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。
- 充分に空き容量のある SD メモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

手ブレ補正

［ON］に設定すると、手ブレが起きにくくなります。

注意--

- 被写体ブレ（被写体が風などでゆれてぶれる）は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ--

手ブレが起きやすい状態だと マークが表示されます（☞P.20）。

日付入れ撮影

静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日　時：分）を入れることができます。［OFF］に設定すると、日付は入りません。

メモ--

- あらかじめ日付・時刻を設定してください（☞P.30）。
- 動画に日付を入れることはできません。
- 画像に入れた日付を削除することはできません。

露出補正 ☞P.69

露出補正の設定をします。

ホワイトバランス	☞P.70
ホワイトバランスの設定をします。	

ISO 感度	☞P.71
ISO 感度の設定をします。	

画像加工検知

［ON］に設定して画像を撮影し、画像をパソコンに取り込むと、付属のソフトウェア EC1 または画像加工検知対応のソフトウェアで、撮影後に画像が加工・編集されたかどうかを検知して表示できます。

注意

- ［ON］にして撮影すると、記録時間が通常よりも長くなります。
- 撮影後に再生モードで［画像サイズ変更］、［階調補正］、［斜め補正］を行った画像は、加工・編集された画像とみなされます。

撮影設定初期化

［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押すと、撮影設定メニューの設定が初期設定に戻ります。

表示される項目について

撮影設定メニューは、撮影モードによって表示される項目が異なります。また、モードダイヤルが SCENE のときは、シーンモードの種類によって表示される項目が異なります。詳しくは P.169 を参照してください。

フォーカス

手動設定（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。画面にフォーカスバーが表示され、撮影距離を固定して撮影することができます。

1 必要に応じて、MENU/OK ボタンを長押しする

- MENU/OK ボタンを長押しすると、画面中央部のみ拡大表示されます。
- 再度 MENU/OK ボタンを長押しすると、拡大表示から通常表示に戻ります。

2 必要に応じて、[♠]（望遠）/[♣]（広角）ボタンでズーム位置を調節する

3 ▲▼ ボタンを押してピントを合わせる

- ▲ ボタンを押すと遠距離方向に、▼ ボタンを押すと近距離方向に移動します。

4 シャッターボタンを押して撮影する

メモ --

マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。

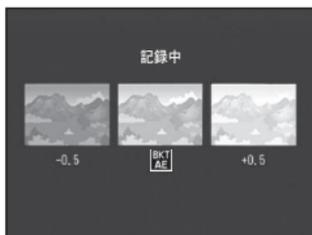
オートブラケット

［オートブラケット］では、ブラケット撮影の種類を選択できます。

オートブラケット

オートブラケットを［ON］にすると、設定されている露出を基準に -0.5EV（暗い）、± 0（基準の補正値）、+0.5EV（明るい）の 3 段階の露出で、自動的に 3 枚連続して撮影します。

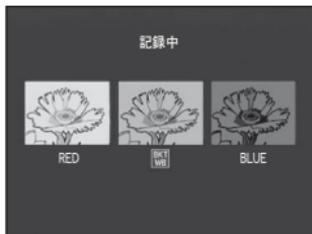
［ON］を選択すると、画面にマークが表示されます。

 メモ --

露出補正値は、撮影設定メニューで変更できます（☞P.69）。

ホワイトバランスブラケット

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の 3 枚が自動的に記録されます。

［WB-BKT］を選択すると、画面にマークが表示されます。

 メモ --

- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます（☞P.70）。
- ［画像設定］を［白黒］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが動作しません。

露出補正

静止画の写りを意図的に明るくしたり、暗くしたりできます。露出は、–2.0 ～ +2.0 の間で設定できます。+ になるほど明るくなり、– になるほど暗くなります。次のような場合に露出補正をお使いください。

逆光撮影の場合

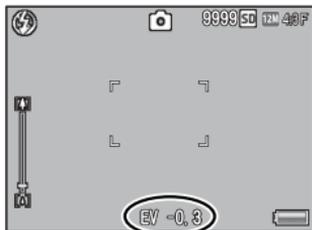
背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、– 側に調整します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

露出値は ▲▼ ボタンを押して設定します。MENU/OK ボタンを押して値を設定すると、画面に設定値が表示されます。

メモ --

明るすぎる、または暗すぎる環境での撮影時などでは、露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

ホワイトバランス

白い被写体が白く写るように調整を行います。購入時、ホワイトバランスモードは［AUTO］に設定されています。単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

AUTO	オート 自動的に調整します。
(屋外アイコン)	屋外 屋外（晴天）での撮影時
(曇天アイコン)	曇天 曇天や日陰などでの撮影時
(白熱灯1アイコン)	白熱灯 1 白熱灯の下での撮影時
(白熱灯2アイコン)	白熱灯 2 白熱灯の下での撮影時（[白熱灯 1］に比べて赤みを残して撮影します）
(蛍光灯アイコン)	蛍光灯 蛍光灯の下での撮影時
WB M	手動設定 手動設定を行います（☞P.71）。
(リングライトアイコン)	リングライト設定 手動で設定を行います。設定方法は手動設定（☞P.71）と同様です。［リングライト設定］は［撮影設定初期化］を実行しても設定が保持されます。

メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、［AUTO］を選択してフラッシュ撮影をしてください。

手動設定

1 ［手動設定］を選び、撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向けて DISP. ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

2 MENU/OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ --

手動設定を解除するには、［手動設定］以外を選択します。

撮影感度（ISO 感度）

ISO 感度は、光に対するフィルムの敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。ISO 感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。ISO 感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］以外を選択します。

メモ --

- ISO 感度を［AUTO］に設定しているときにフラッシュを使用すると、最大 ISO400 相当の感度になります。画像サイズが［12M 4:3F］または［12M 4:3N］で、ISO 感度を［AUTO］に設定してフラッシュを使用しない場合、ISO 感度は 64 ～ 400 の間で変動します。
- ISO 感度を［AUTO］に設定しているときに、フラッシュを［強制発光 10M］で使用すると、ISO1600 相当の感度になります。
- ISO 感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ISO 感度を［AUTO］に設定している場合、シャッターボタン半押し時に ISO 感度が表示されますが、実際の ISO 感度とは異なる場合があります（フラッシュ使用時など）。

7　再生設定メニュー

再生モードで MENU/OK ボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、撮影した画像にさまざまな設定ができます。

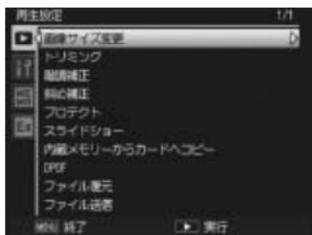
メニューの操作方法

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 ▲▼◀▶ ボタンを押して、設定を適用したいファイルを表示する

- ［スライドショー］（☞P.73）、［内蔵メモリーからカードへコピー］（☞P.73）、［ファイル復元］（☞P.74）ではこの手順は不要です。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▲▼ ボタンで設定する項目を選ぶ

- この画面で DISP. ボタンを押すと、再生設定メニュータブにカーソルが移動します。

5 ▶ ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

再生設定メニュー一覧

画像サイズ変更

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ
12M 4:3F ／ 12M 4:3N ／ 10M 3:2F ／ 5M 4:3F ／ 3M 4:3F ／ 2M 4:3F	1M 4:3F ／ VGA 4:3F
1M 4:3F ／ 1M 4:3N	VGA 4:3N

注意

動画は画像サイズ変更できません。

トリミング

☞P.75

撮影した静止画をトリミングし、別のファイルとして記録できます。

階調補正

☞P.77

撮影した静止画の明度、コントラストを補正して記録できます。

斜め補正

☞P.78

斜め方向から撮影した四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換できます。

プロテクト

☞P.79

撮影した画像を削除できないように保護します。

スライドショー

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示できます。

メモ

- 静止画は 3 秒間表示されます。
- 動画は撮影した内容がすべて表示されます。

内蔵メモリーからカードへコピー

内蔵メモリーの内容を SD メモリーカードへコピーできます。

メモ

- コピー先の SD メモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。[はい] を選ぶと、保存できる枚数だけコピーできます。
- SD メモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

DPOF

☞P.80

プリントに必要な情報を設定します。

ファイル復元

削除したファイルを、元の状態で復元できます。

注意---

以下の操作を行うと、それ以前に削除したファイルは復元できません。

- 電源を切る
- 再生モードから撮影モードの切り替え
- DPOF、画像サイズ変更、内蔵メモリーからカードへコピー、斜め補正、階調補正、トリミング
- DPOF 設定したファイルの削除
- 内蔵メモリーまたは SD メモリーカードの初期化
- 再生モードでカメラメモを変更

ファイル送信

☞P.105、112

無線 LAN または Bluetooth® を使用して、パソコンに画像ファイルを送信します。

トリミング

［トリミング］では、撮影した静止画をトリミングし、別のファイルとして記録することができます。

トリミングするには、Q/⊞ ボタンを押してトリミング枠の大きさを指定してから、▲▼◀▶ ボタンを押してトリミング枠の位置を指定します。

MENU/OK ボタンを押すと、トリミング後の画像が記録されます。

注意 --

- トリミングできるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- トリミングを繰り返し実行すると画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

メモ --

- トリミングをキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- トリミング位置を指定する画面で 🗑 ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 🗑 ボタンを押すと、元の画面に戻ります。
- トリミングすると、画像の圧縮率はすべて Fine になります。
- 指定できるトリミング枠の大きさは、元画像のサイズによって異なります。

- トリミング後の画像サイズは、元画像のサイズと、トリミングの段階（トリミング枠の大きさ）によって決まります（[トリミング] 画面で最初に表示されるトリミング枠は、2 段階目です。◘ ボタンを押すと、1 段階目の枠（最大枠）になります）。

元画像のサイズ	トリミングの段階	トリミング後の画像サイズ
12M 4:3F/12M 4:3N（4000 × 3000）	1、2	4000 × 3000
	3	2592 × 1944
	4、5	2048 × 1536
	6	1600 × 1200
	7 ～ 10	1280 × 960
	11 ～ 14	640 × 480
10M 3:2F（3984 × 2656）	1	2592 × 1944
	2、3	2048 × 1536
	4	1600 × 1200
	5 ～ 7	1280 × 960
	8 ～ 11	640 × 480
5M 4:3F（2592 × 1944）	1	2592 × 1944
	2	2048 × 1536
	3	1600 × 1200
	4 ～ 7	1280 × 960
	8 ～ 12	640 × 480
3M 4:3F（2048 × 1536）	1	2048 × 1536
	2	1600 × 1200
	3 ～ 6	1280 × 960
	7 ～ 10	640 × 480
2M 4:3F（1600 × 1200）	1	1600 × 1200
	2 ～ 4	1280 × 960
	5 ～ 9	640 × 480
1M 4:3F/1M 4:3N（1280 × 960）	1 ～ 3	1280 × 960
	4 ～ 8	640 × 480
VGA 4:3F（640 × 480）	1 ～ 4	640 × 480

階調補正

［階調補正］では、撮影した静止画の明度、コントラストを補正し、別ファイルとして記録することができます。

［階調補正］を選んで▶ボタンを押すと、画面上に階調補正バーとヒストグラムが表示されます。

▲ボタンを押すと画像が明るくなり、▼ボタンを押すと画像が暗くなります。5 段階の補正が可能です。

MENU/OK ボタンを押すと、補正後の画像が記録されます。

注意 --

- 階調補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- 階調補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- 階調補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。動画を階調補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- 階調補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

斜め補正

［斜め補正］では、斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換し、別ファイルとして記録することができます。

注意

斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。動画を斜め補正することはできません。

メモ

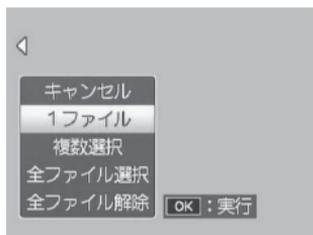
- 処理中は補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大 5 つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ ボタンを押して、目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.73）、処理速度を速くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

画像サイズ	補正時間	画像サイズ	補正時間	画像サイズ	補正時間
12M 4:3F	約 29 秒	5M 4:3F	約 13 秒	1M 4:3F	約 4 秒
12M 4:3N	約 28 秒	3M 4:3F	約 8 秒	1M 4:3N	約 4 秒
10M 3:2F	約 24 秒	2M 4:3F	約 6 秒	VGA 4:3F	約 2 秒

- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます（☞P.54）。

プロテクト

［プロテクト］では、記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

［1 ファイル］を選ぶと、◀▶ ボタンを押して選択したファイルをプロテクト／解除できます。

［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選ぶと、全ファイルをプロテクト／解除できます。

複数ファイルを指定する場合

［複数選択］を選ぶと、プロテクト／解除するファイルを個別に指定したり、選択するファイルの範囲を指定したりできます。

個別に指定する場合：

1 ［1 枚ずつ指定］を選び、MENU/OK ボタンを押す

2 コマを選択し、MENU/OK ボタンを押す

- ADJ./MEMO ボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。
- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して MENU/OK ボタンを再度押すと解除できます。
- プロテクトするファイルをすべて選択します。

3 🗑 ボタンを押す

範囲を指定する場合：

1 ［範囲を指定］を選び、MENU/OK ボタンを押す

2 範囲の始点になるファイルを選び、MENU/OK ボタンを押す

- ADJ./MEMO ボタンを押すと、1 ファイルずつ指定する画面に切り替わります。
- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、DISP. ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。

3 範囲の終点になるファイルを選び、MENU/OK ボタンを押す

- 手順 2、3 を繰り返して、範囲をすべて選択します。

4 🗑 ボタンを押す

プロテクト 107/111 SD 10M 4:3 F
OK 始点 🗑 実行

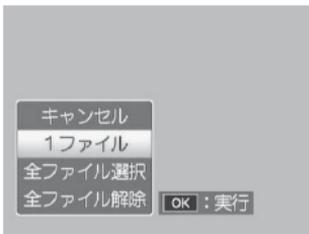
メモ --

一覧表示にしていた場合に［プロテクト］を選択すると、［1 枚ずつ指定］または［範囲を指定］を直接選べます。

注意 --

初期化を行うとプロテクト設定にかかわらず、すべて削除されます。

DPOF（ディーポフ）

SD メモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店でプリントできます。［DPOF］では、その際に必要な情報を設定できます。

［1 ファイル］を選ぶと、◀▶ ボタンを押して選択したファイルを DPOF 設定／解除できます。

キャンセル
1ファイル
全ファイル選択
全ファイル解除
OK：実行

［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選ぶと、全ファイルを DPOF 設定／解除できます。

複数ファイルを指定する場合

一覧表示にした状態で［DPOF］を選ぶと、DPOF 設定／解除するファイルを個別に指定できます。

DPOF 設定をしたい静止画を選択し、▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定します。▲ ボタンを押すと枚数が増え、▼ ボタンを押すと枚数が減ります。設定後に MENU/OK ボタンを押すと、設定が完了し、一覧の画面に戻ります。

メモ --

複数のファイルの DPOF 設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を［0］に指定して MENU/OK ボタンを押します。

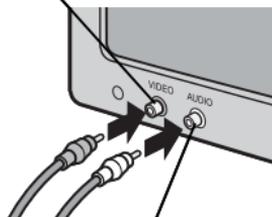
テレビ再生

撮影したファイルをテレビの画面に表示するには、カメラに付属している AV ケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。

映像入力端子（黄色）

音声入力端子（白色）

1 テレビのビデオ入力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

・AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認して、AV 出力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

3 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

・詳しくはテレビの説明書を参照してください。

4 POWER（電源）ボタンを押す、または ▶（再生）ボタンを長押しして、電源をオンにする

注意 --

・AV ケーブルで本機を接続している間は画像モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
・AV ケーブルは無理に差し込まないでください。
・AV ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
・AV ケーブルの使用中は、AV ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ --

・ビデオのビデオ入力端子に AV ケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
・テレビなどの機器での再生方式は NTSC 方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器が PAL 方式（ヨーロッパなどで使用されている方式）の場合は、カメラのセットアップメニューで PAL 方式に設定してから接続してください（☞P.86）。

8　セットアップメニュー

撮影設定メニュー（☞P.62）や再生設定メニュー（☞P.72）からセットアップメニューを表示して、カメラの設定を変更できます。

メニューの操作方法

1 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ◀ ボタンで画面左にあるタブを選択する

3 ▲▼ ボタンで画面を切り替える

- 上から撮影設定メニューまたは再生設定メニュー、セットアップメニュー、カメラメモメニュー、拡張設定メニューの順に並んでいます。
- シーンモードの場合は、下に 2 回押します。

表示している画面の範囲を示しています。

4 ▶ ボタンでセットアップメニューの各項目の選択画面に入る

5 ▲▼ ボタンで設定する項目を選択する

- この画面で DISP. ボタンを押すと、手順 3 の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

6 ▶ ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

7 ▲▼ ボタンで選択肢を選択する

8 MENU/OK ボタンを押す、または ◀ ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す

- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、MENU/OK ボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。
- 手順8で◀ボタンを押すと、設定が確定して手順5の画面に戻ります。

メモ --

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

セットアップメニュー一覧

初期化〔カード〕

［はい］を選んで 🗑 ボタンを押すと、SD メモリーカードを初期化します。

注意 --

初期化中は絶対に電源をオフにしないでください。カメラで使用するシステムファイルが削除されてしまうことがあります。

初期化〔内蔵メモリー〕

［はい］を選んで 🗑 ボタンを押すと、内蔵メモリーを初期化します。削除したくない画像があるときは、SD メモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください（☞P.73）。

注意 --

初期化中は絶対に電源をオフにしないでください。カメラで使用するシステムファイルが削除されてしまうことがあります。

画像モニター輝度調節

▲▼ ボタンを押して、画像モニターの明るさを調整できます。

マイセッティング登録 ☞P.88

現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録できます。

ステップズーム

［ON］に設定すると、ズームの焦点距離を 6 段階（35mm フィルムカメラ換算で 28mm、35mm、50mm、85mm、105mm、140mm 相当）に固定できます。マクロモード時、ステップズームの焦点距離は 35mm フィルムカメラ換算でおよそ 33mm、35mm、50mm、85mm、105mm、140mm になります。

ADJ. ボタン設定 1 ～ 4 ☞P.50

ADJ./MEMO ボタンに機能を登録します。

AF 補助光

［ON］に設定すると､オートフォーカスでの撮影時に､AF 補助光を発光します。

操作音

カメラの操作音の種類を設定できます。

設定	内容
すべて	すべて鳴らす
水準器音	水準器音のみ鳴らす
シャッター音	シャッター音、水準器音のみ鳴らす

メモ--

実行できない動作を行おうとしたときは、［操作音］の設定にかかわらず、警告音が鳴ります。

操作音音量設定

操作音の音量を変更できます。

メモ--

［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合は、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても、水準器音は鳴りません。

画像確認時間

撮影後に表示する確認画像の表示時間を変更できます。［OFF］を選択すると、撮影後に確認画像を表示しません。

オートパワーオフ

節電のために自動的に電源がオフになる時間を設定できます。［OFF］を選択､またはインターバル撮影時（☞P.65）やパソコンまたはプリンターと接続しているときはオートパワーオフ機能は働きません。

画像モニターオフ

一定時間カメラを操作しなかった場合に、画像モニターが自動的にオフになる時間を設定できます。カメラの操作を行うと、画像モニターはオンになります。［オートパワーオフ］が［OFF］の場合のみ動作します。

画像モニター節電

［ON］に設定すると、画像モニターを点灯した状態で約 5 秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターの輝度を落とします。シンクロモニターモードの場合（☞P.44）は、無効となります。

デジタルズーム切替 ☞P.89

［オートリサイズ］を選択すると、デジタルズームで撮影するときに、撮影する画像から必要な部分を切り出し、画像サイズを変更して記録します。［通常］を選択すると、通常のデジタルズームが使用できます。

水準器設定 ☞P.46

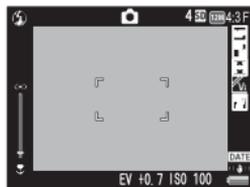
撮影する画像が水平かどうかを、水平インジケーターや水準器音で確認できます。

グリッドガイド表示設定 ☞P.44

撮影モード時に表示するグリッドを設定できます。

設定	内容
	縦横に 3 分割します。3 分割構図作りに適したグリッドです。
	縦横に4分割し、対角線が入ります。被写体の中心が決めやすく、建築物や商品などの撮影に適したグリッドです。
	縦横に 2 分割したものをベースに、中心はグリッド線を省いて被写体をとらえやすくしています。動きのある被写体もとらえすいグリッドです。

撮影情報表示フレーム

［ON］に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示（☞P.44）のときに、撮影情報フレームを表示することができます。動画モード時は表示できません。

縦横自動回転再生

［ON］に設定すると、カメラの縦横の向きに応じて再生画像が自動回転します。

カード連続 NO.

SD メモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定	内容
ON（連番にする）	R0010001.jpg 〜 R9999999.jpg までのファイル名が、自動的に付きます。SD メモリーカードを入れ替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない）	新しい SD メモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg 〜 RIMG9999.jpg までのファイル名が付きます。ファイル名が RIMG9999 になると、それ以上は記録できません。

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合は、常に［OFF］の場合と同様になります。
- DL-10 を使ってパソコンに転送する（☞P.155）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。

注意

ファイル名が RIMG9999 または R9999999 になると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。SD メモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SD メモリーカードを初期化してお使いください。

日時設定 ☞P.30

カメラの日時を設定できます。

メモ

- 電池を取り出してから約 3 日間経過すると、設定した日付･時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに 10 時間以上セットしてください。

Language ／言語※

画像モニターに表示される言語を変更できます。日本国内で販売されている G700SE で選択できる言語は、日本語と英語のみです。

ビデオ方式※

付属の AV ケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見る際のビデオ方式を設定できます。NTSC 方式（日本などで使用されている方式）と PAL 方式（ヨーロッパなどで使用されている方式）が選択できます。SECAM 方式には対応していません。

※ 初期設定は、仕向け地によって異なります。

CALS 画質・サイズ
CALS モード（☞P.37）での画質・サイズを選択できます。
起動時日付表示
［ON］に設定すると、カメラの電源をオンにして撮影モードにした場合に現在の日時が画像モニターに表示されます。
ロックパスワード設定・変更　☞P.90
パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、カメラの動作を制限できます。
カメラロック設定　☞P.92
パスワードにより、カメラの一部またはすべての動作を制限できます。［OFF］に設定すると、パスワードによる制限を行いません。
カメラロック解除時間
設定した時間内は、パスワードの入力が不要になります。[カメラロック設定]が[カメラロック]または[内蔵メモリ]の場合のみ有効です。[OFF]に設定すると、毎回パスワードの入力を求められます。
電源ボタン長押し設定
［ON］に設定すると、約 2 秒間電源ボタンを押し続けて電源オン、約 5 秒間電源ボタンを押し続けて電源オフになります。

マイセッティング登録

マイセッティングは 2 種類登録できます。モードダイヤルを MY1 に合わせると［MY1］で登録した設定で、モードダイヤルを MY2 に合わせると［MY2］で登録した設定で撮影できます。

1 マイセッティングとして登録したい内容に、カメラの設定を変更する

2 セットアップメニュー（☞P.82）で［マイセッティング登録］を選び、▶ ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。

3 ［MY1］または［MY2］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。

［マイセッティング登録］で保持される内容

撮影モード（CALS/📷/MY1/MY2/SCENE）	WB-BKT
MF 時のフォーカス位置	長時間露光
ズーム位置	手ブレ補正
マクロ	日付入れ撮影
フラッシュモード	露出補正
シーンモード	ホワイトバランス
セルフタイマー	ISO 感度
DISP. モード	画像加工検知
文字濃度	ステップズーム
画質・サイズ	デジタルズーム切替
フォーカス	水準器設定
測光	グリッドガイド表示設定
連写	撮影情報表示フレーム
画像設定	CALS 画質・サイズ
オートブラケット	

デジタルズーム切替

通常のデジタルズームは、設定した画像サイズまで画像の一部を拡大して保存します。これに対し、[デジタルズーム切替]で[オートリサイズ]を選ぶと、切り出した部分をそのまま記録するので、拡大による画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。

[♠](望遠)ボタンを押し続け、ズームバー表示が[♠]側の端にある状態で[♠]ボタンを押し続けるとオートリサイズズームが動作します。

さらに[♠]ボタンを押すごとに、1段階ずつ画像サイズが変更されます。その際、記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。

オートリサイズズームは、[画質・サイズ](☞P.63)を12M 4:3FまたはN 12M 4:3Nに設定しているときのみ動作し、それ以外の場合はデジタルズームが有効になります。

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

画像・サイズ	ズーム倍率	焦点距離(*)
12M 4:3F / 12M 4:3N	1.0倍	140mm
5M 4:3F	1.5倍	210mm
3M 4:3F	2.0倍	270mm
1M 4:3F	3.1倍	430mm
VGA 4:3F	6.3倍	870mm

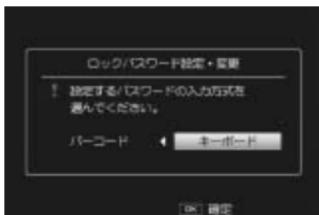
(*)35mm判カメラ換算値です。

注意 --

- シーンモードの[斜め補正]の場合は、[オートリサイズ]に設定していても通常のデジタルズームが有効になります。
- 画質をNormalモードに設定してオートリサイズズームを使用すると、記録時にFineモードに変換されます。

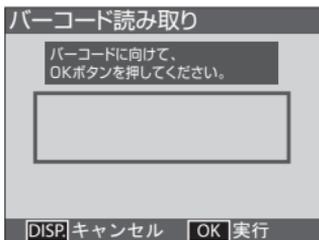
ロックパスワード設定・変更

［カメラロック設定］（☞P.92）で設定したカメラ動作制限を、解除するためのパスワードを設定します。

パスワードの入力方式には、［バーコード］と［キーボード］の 2 種類があります。

メモ --

パスワードを変更する場合は、現在のパスワードを入力してから設定しなおします。

バーコードで設定する

パスワードとして設定するバーコードにカメラを向け、MENU/OK ボタンを押します。読み取りが成功すると、パスワードが設定されてメニュー画面に戻ります。読み取りをキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。

メモ --

バーコードは 1 次元バーコード、2 次元バーコードに対応しています。

1 次元バーコードの例

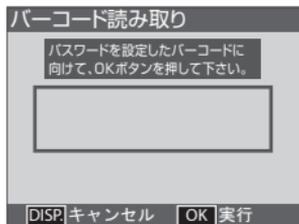
2 次元バーコードの例（左：QR コード、右：PDF417）

バーコードのパスワードを入力するには ------------------------------

- パスワード入力が必要な場合に、パスワード入力画面が表示されます。対象となるバーコードにカメラを向けて MENU/OK ボタンを押してください。
- パスワードが一致しなかった場合、再度入力するかどうかを確認する画面が表示されます。［はい］を選択すると、再度パスワードの入力画面が表示されます。

- パスワード入力が必要なタイミングは、［カメラロック設定］で設定した内容によって異なります。

8

セットアップメニュー

キーボードで設定する

パスワードとして設定する任意の文字列を入力します。

1 ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、MENU/OK ボタンで決定する

- 文字入力エリアのカーソルがある位置に文字が挿入されます。
- 文字を削除したい場合は、文字入力エリアで削除する文字にカーソルを移動してから、[Delete] を選びます。
- 入力できる文字数は半角 1 ～ 16 文字までです。
- パスワードの設定をキャンセルする場合は、DISP. ボタンを押してください。

2 ADJ./MEMO ボタンを押して入力内容を確定する

- 確認用のパスワード入力画面が表示されます。

3 確認用パスワード入力画面で、手順 1 で入力したパスワードを再度入力し、ADJ./MEMO ボタンを押す

- パスワードが設定され、セットアップメニュー画面に戻ります。
- 手順 1 で入力したパスワードと一致しない場合、メッセージが表示されてパスワード入力画面に戻ります。

文字列のパスワードを入力するには

- パスワード入力が必要な場合に、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して ADJ./MEMO ボタンを押してください。
- パスワードが一致しなかった場合、再度入力するかどうかを確認する画面が表示されます。[はい] を選択すると、再度パスワードの入力画面が表示されます。
- パスワード入力が必要なタイミングは、[カメラロック設定] で設定した内容によって異なります。

カメラロック設定

[ロックパスワード設定･変更](☞P.90)で設定したパスワードによって、カメラの動作を制限できます。パスワードの認証が成功すると、通常と同様にカメラを使用できます。カメラロックには、以下の 4 種類があります。

注意 ---

カメラロックを使用しない場合は、[OFF] に設定してください。

カメラ

カメラ全体の動作を制限します。電源をオンにした場合にパスワード入力を求められます。

認証に失敗すると、電源がオフになります。

内蔵メモリ

内蔵メモリーに記録したファイルの再生を制限します。SD メモリーカードが挿入されている場合、[カメラ] と同様の動作になります。

▶(再生)ボタンで電源をオンにした場合や再生モードに切り替えた場合、USB でパソコンやプリンターに接続した場合にパスワード入力を求められます。

▶(再生)ボタンで電源をオンにした場合や再生モードに切り替えた場合に認証に失敗すると、ファイルの再生ができません。USB 接続時に認証に失敗すると、電源がオフになります。

注意 ---

▶ ボタンで電源オン、再生モード切り替え時にパスワード認証を失敗した場合、[初期化〔内蔵メモリ〕] を実行する場合にもパスワード入力を求められます。パスワード認証が成功すると初期化できますが、失敗すると初期化せずにメニュー画面に戻ります。

SD WORM

SD WORMカード（☞P.24）以外のSDメモリーカードを挿入している場合、カメラ全体の動作を制限します。SD WORMカードが挿入されている場合、通常と同様にカメラを使用できます。

SD WORMカード以外のSDメモリーカードを挿入して電源をオンにした場合にパスワード入力を求められます。

認証に失敗すると、電源がオフになります。

メニュー画面

カメラの設定変更を制限します。

MENU/OKボタンを押してメニューを表示する場合、またはADJ./MEMOボタンを押してADJモードにする場合にパスワード入力を求められます。

認証に失敗すると、メニューの表示やADJ.モードの移行はできません。

パスワードを忘れてしまった場合 ------------------------------------

設定したパスワードはお忘れにならないようにご注意ください。パスワードを忘れてしまった場合、リコー修理受付窓口までご連絡ください。連絡先は裏表紙をご覧ください。

メニューの操作方法

1 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ◀ ボタンで画面左にあるタブを選択する

3 ▲▼ ボタンで画面を切り替える

- 上から撮影設定メニューまたは再生設定メニュー、セットアップメニュー、カメラメモメニュー、拡張設定メニューの順に並んでいます。
- シーンモードの場合は、下に 3 回押します。

表示している画面の範囲を示しています。

4 ▶ ボタンでカメラメモメニューの各項目の選択画面に入る

5 ▲▼ ボタンで設定する項目を選択する

- この画面で DISP. ボタンを押すと、手順 3 の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

6 ▶ ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

7 ▲▼ ボタンで選択肢を選択する

8 MENU/OK ボタンを押す、または ◀ ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す

- カメラメモメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 手順 8 で ◀ ボタンを押すと、設定が確定して手順 5 の画面に戻ります。

カメラメモメニュー一覧

カメラメモモード

使用説明書（ソフトウェア編）☞P.28

カメラメモ内容の設定方法を選択します。

設定	内容
MODE1	分類項目ごとにカメラメモ内容を選択して変更できます。
MODE2	カメラメモ内容の組み合わせを選択できます。分類項目ごとにカメラメモ内容を変更することはできません。

メモ送りスキップ

使用説明書（ソフトウェア編）☞P.28

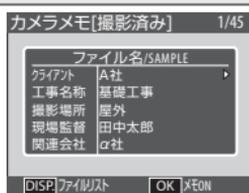
［カメラメモモード］が［MODE2］の場合、カメラメモ内容設定時に◀▶ ボタンを長押しすると、分類項目内の同じカメラメモ内容を早送りできます。どの分類項目で早送りするかは［項目 1］～［項目 5］で設定します。

 メモ

［カメラメモモード］が［MODE2］に設定されている場合のみ有効です。

メモ撮影済み表示

［ON］に設定すると、静止画撮影済みの［カメラメモ］画面に［撮影済み］と表示されます。［撮影済み］表示は［カメラメモ］画面で 🗑 ボタンを押すか、［メモ撮影済みクリア］で消去できます。

 メモ

［カメラメモモード］が［MODE2］に設定されている場合のみ有効です。

メモ撮影済みクリア

［メモ撮影済み表示］を［ON］に設定した場合に［カメラメモ］画面に表示される［撮影済み］の表示を消去します。

メモ内容警告

［ON］に設定すると、カメラメモ内容に［未設定］がある場合、シャッターボタンを押すと警告画面が表示され、撮影ができなくなります。撮影できるようにするには、［未設定］がないようにカメラメモを設定してください。

メモ

- ［カメラメモモード］が［MODE1］に設定されている場合のみ有効です。
- ［カメラメモ 1 自動消去］が［ON］に設定されている場合は無効になります。

撮影メモ起動

［ON］に設定すると、カメラの電源をオンにしたときに［カメラメモ］画面が表示されます。

メモ--

カメラメモリストファイルがカメラに転送されていない場合は無効になります。

カメラメモインクリメント　使用説明書（ソフトウェア編）☞P.32

［ON］に設定すると、カメラメモ内容の最後に数字が入力されている場合、▲▼ボタンを押して数字を増加（インクリメント）または減少（デクリメント）できます。

メモ--

［カメラメモモード］が［MODE1］に設定されている場合のみ有効です。

カメラメモ入力撮影

［ON］に設定すると、カメラメモの内容を画像に写し込んで撮影できます。

メモ--

- 写し込める分類項目は最初の 3 項目です。
- 分類項目は最大半角 10 文字（全角 5 文字）、カメラメモ内容は最大半角 32 文字（全角 16 文字）まで写し込めます。
- ［画質・サイズ］を［VGA 4:3F］に設定している場合、日本語は写し込みできません。英数字の場合、分類項目とフィールドセパレーター（:）、カメラメモ内容を合わせて最大 31 文字まで写し込めます。
- ［バーコードモード］を［MODE3］に設定している場合は無効になります。

カメラメモ 1 自動消去

［ON］に設定すると、電源オン時や静止画撮影後、またはカメラメモリストを変更した場合に、1 番目の分類項目のカメラメモ内容として［未設定］が自動的に選択されます。カメラメモ内容が［未設定］になっている場合、シャッターボタンを押すと警告画面が表示され、撮影ができなくなります。撮影できるようにするには、1 番目の分類項目のカメラメモ内容を［未設定］以外に設定してください。

メモ--

［カメラメモモード］が［MODE1］に設定されている場合のみ有効です。

バーコード種類

読み取るバーコードの種類を選択できます。

設定	内容
AUTO	バーコードの種類を自動で判別します。
一次元	一次元バーコードを読み取ります。対応する一次元バーコードは以下のとおりです。 EAN-13/8(JAN-13/8) / UPC-A/E / UPC/EAN (アドオン付き) / Interleaved 2of5 / CODEBAR(NW-7) / CODE39 / CODE93 / CODE128 TYPE-C / GS1-128(EAN-128) / RSS(GS1 DataBar)
QR コード / マイクロ QR コード / DataMatrix / PDF417 / マイクロ PDF417 / MaxiCode / EAN・UCC	選択した二次元バーコードを読み取ります。

メモ---

- 一次元バーコードは最大 32 桁、二次元バーコードは最大 2400 桁のバーコードデータを読み取れます。
- 二次元バーコードを選択すると、音声メモ機能は使用できなくなります。

バーコードモード

使用説明書（ソフトウェア編）☞P.36

読み取ったバーコードを登録する場所を設定できます。

設定	内容
MODE1	カメラメモリストの 1 番目の分類項目に、一時メモとしてバーコードデータが登録されます。バーコードデータを読み取るたびに、データが上書きされます。
MODE2	カメラメモリストの 1 番目から 4 番目の分類項目に、一時メモとしてバーコードデータを登録できます。バーコードデータをはじめて読み取る場合は、自動的に 1 番目の分類項目から順に登録されます。すでにバーコードが登録されている分類項目にバーコードを読み取った場合は、データが上書きされます。
MODE3	撮影モードのときのみ有効です。カメラメモリストの 1 番目の分類項目に、一時メモとして最大 50 個までバーコードデータを登録できます。撮影前、読み取ったバーコードデータはカメラメモ一覧画面で確認はできますが、編集はできません。バーコードデータは静止画の撮影後、削除されます。

読み取り時間

バーコードデータの読み取り最大時間を設定できます。設定した時間を過ぎてもバーコードが読み取れなかった場合は、読み取りを停止します。

メモ---

バーコードリーダー BR-1（別売り品）を接続した場合、[27 秒] または [30 秒] を選択しても、読み取り最大時間は 25.5 秒になります。

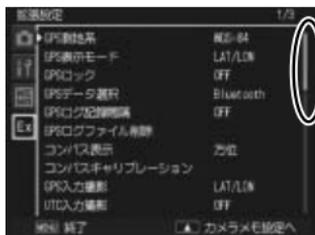
メニューの操作方法

1 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ◀ ボタンで画面左にあるタブを選択する

3 ▲▼ ボタンで画面を切り替える

- 上から撮影設定メニューまたは再生設定メニュー、セットアップメニュー、カメラメモメニュー、拡張設定メニューの順に並んでいます。
- シーンモードの場合は、下に 4 回押します。

表示している画面の範囲を示しています。

4 ▶ ボタンでカメラメモメニューの各項目の選択画面に入る

5 ▲▼ ボタンで設定する項目を選択する

- この画面で DISP. ボタンを押すと、手順 3 の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

6 ▶ ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

7 ▲▼ ボタンで選択肢を選択する

8 MENU/OK ボタンを押す、または ◀ ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す

- 拡張設定メニューが消え、撮影または再生ができます。
- 手順 8 で ◀ ボタンを押すと、設定が確定して手順 5 の画面に戻ります。

メモ

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

拡張設定メニュー一覧

GPS 測地系

GPSユニットGP-1またはBluetooth® GPSユニットを接続している場合、GPS 情報の測地系を設定できます。

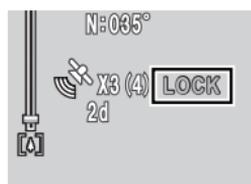
設定	内容
TOKYO	日本で標準的に使用されていた測地系です。
WGS-84	世界測地系として使用されている測地系です。

GPS 表示モード

GPSユニットGP-1またはBluetooth® GPSユニットを接続している場合、画面に表示する GPS 情報の規格を設定できます。

設定	内容
LAT/LON	緯度／経度を表示します。
UTM	UTM（ユニバーサル横メルカトル図法：Universal Transverse Mercator Projection）座標で表示します。
MGRS	MGRS（軍事用情報：Military Grid Reference System）座標で表示します。
ALL	上記 3 項目の情報をすべて表示します。

GPS ロック

GPS ユニット GP-1 または Bluetooth® GPS ユニットを接続している場合、[ON] に設定すると、▶ ボタンを押して GPS 情報をロックできます。GPS 情報をロックしている間は、新たに GPS 情報を受信しません。ロック中に再度 ▶ ボタンを押すと、ロックが解除されます。

注意

- [GPS ロック] を [ON] に設定した場合、[クイック送信モード]（☞P.104）を［2TOUCH］に設定していても、GPS ロックが優先され、ファイル送信を行えません。
- ［GPS 測地系］または［GPS データ選択］（☞P.100）の設定を変更すると、GPS ロック中でもロックが解除されます。

GPS データ選択

☞P.136

GPS ユニット GP-1 と Bluetooth® GPS ユニットを同時に使用した場合、どちらを優先するかを［GPS オプション］（GPS ユニット GP-1）または［Bluetooth］（Bluetooth® GPS ユニット）から選択できます。

メモ--

- GPS ユニット GP-1 を接続している場合、［Bluetooth］を選択していても方位情報は取得できます。

GPS ログ記録間隔

取得した GPS 情報の履歴を、ログファイルとして SD メモリーカードに保存する間隔を設定できます。［OFF］を選択すると、ログファイルを保存しません。

メモ--

- ログファイルは SD メモリーカード内の「GPSLOG」フォルダに保存されます。ファイル名は「年月日 +2 桁のファイル番号 .LOG」となります。
- 異なる日付で GPS 情報を取得するか、ログファイルのサイズが 500KB を超えると、新しいログファイルが作成されます。
- SD メモリーカードが挿入されていない場合や、「LOCK」状態（☞P.25）、SD WORM カード使用時は、ログファイルは保存されません。
- SD メモリーカードが容量不足の場合はログファイルは保存されません。警告メッセージも表示されないため、SD メモリーカードの空き容量にはご注意ください。
- ログファイルは［GPS ログファイル削除］で削除できます。セットアップメニュー（☞P.82）の［初期化〔カード〕］（☞P.83）で SD メモリーカードを初期化しても、削除されません。

GPS ログファイル削除

［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押すと、GPS 情報のログファイルをすべて削除します。

メモ--

- SD メモリーカードが「LOCK」状態（☞P.25）の場合は削除できません。
- ログファイルは、セットアップメニュー（☞P.82）の［初期化〔カード〕］（☞P.83）で SD メモリーカードを初期化しても削除されません。

コンパス表示

GPS ユニット GP-1 または方位情報が取得可能な Bluetooth® GPS ユニットを接続している場合、画像モニターに表示する方位情報の形式を設定できます。

設定	内容
方位	方位情報を表示します。
方位 度数	方位情報と方位度数を表示します。

コンパスキャリブレーション

GPS ユニット GP-1 を接続している場合、[はい] を選んで MENU/OK ボタンを押すと、電子コンパスの調整を行います。MENU/OK ボタンを押した後に、カメラを片手で持ち、肩を中心に大きく 8 の字を描くようにゆっくりと（1 周期：5 〜 8 秒）手首をひねりながら回してください。調整に成功すると「ピッ」という操作音が鳴り、失敗すると警告音が鳴ります。

 メモ

調整中に DISP. ボタンを押すと、調整をキャンセルして拡張設定メニューに戻ります。

GPS 入力撮影

GPS ユニット GP-1 または Bluetooth® GPS ユニットを接続している場合、GPS 情報を画像に写し込んで撮影できます。選択できる GPS 情報の規格は［GPS 表示モード］（☞P.99）と同様です。GPS 情報が取得されていない場合や、［OFF］に設定した場合、GPS 情報は写り込みません。

UTC 入力撮影

GPS ユニット GP-1 または Bluetooth® GPS ユニットを接続している場合、［ON］に設定すると、取得した GPS 情報から UTC（協定世界時）情報を画像に写し込んで撮影できます。GPS 情報が取得されていない場合や、［OFF］に設定した場合、UTC 情報は写り込みません。

コンパス入力撮影

GPS ユニット GP-1 または方位情報が取得可能な Bluetooth® GPS ユニットを接続している場合、取得した GPS 情報から方位情報を画像に写し込んで撮影できます。選択できる方位情報の形式は［コンパス表示］（☞P.100）と同様です。GPS 情報が取得されていない場合や、［OFF］に設定した場合、方位情報は写り込みません。

測距計モード

Bluetooth® で他社製の測距計（レーザーレンジファインダー）と接続した場合、測距計情報をどのように利用するかを設定できます。

設定	内容
MODE1	受信した測距計情報は、常に画像モニターに表示されます。
MODE2	受信した測距計情報は、撮影するまで表示されます。撮影後、測距計情報は消去されます。
MODE3	測距計の情報を受信すると、自動的に撮影を行います。

通信切り替え

［ファイル送信］（☞P.74）、クイックビュー送信（☞P.108、132）機能を使用して、無線で画像を送信する場合の通信方法を［W-LAN］または［Bluetooth］から選択できます。

設定	内容
W-LAN	無線 LAN で接続します。
Bluetooth	Bluetooth® で接続します。

送信リスト読み込み ☞P.125

［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押すと、あらかじめパソコンで作成して保存した送信リストをカメラに読み込みます。

メモ--

- 送信リストは、無線 LAN でカメラとパソコンを接続して、画像をカメラから送信する（☞P.112）場合に必要となります。
- 送信リストは付属のソフトウェア ST-10 を使用してパソコンで作成し、カメラに転送します（☞P.123）。

送信先選択

読み込んだ送信リストの中から、送信先を選択できます。カメラに転送した送信リストの設定内容をカメラで確認／修正することもできます。

メモ--

［送信先選択］で送信先を選択していない場合は、［送信先］一覧画面の一番上の送信先が選択状態となっています。この状態で、［送信先選択画面］を［OFF］に設定している場合、または［クイック送信モード］を［1TOUCH］に設定してクイックビュー送信する場合（☞P.109）は、一番上の送信先にファイルが送信されます。

送信先選択画面

［ON］に設定すると、画像送信時に送信先の一覧画面が表示され、送信先を選択できます。［OFF］に設定すると、［送信先選択］で設定した送信先に自動的に画像を送信するため、毎回決まった送信先にファイルを送信する場合に便利です。

簡易接続選択 ☞P.128

無線 LAN でカメラとパソコンを接続する場合に、簡単な方法でパソコンやアクセスポイントと接続できます。

Bluetooth 認証パスキー

Bluetooth® 機器とカメラを接続するためのパスキーを設定できます。接続したい Bluetooth® 機器にパスキーが設定されている場合は、あらかじめ認証パスキーをカメラで登録しておくと、接続時にパスキーの認証が自動的に行われます。

 メモ

- 接続先のパスキーの設定については、接続先機器の説明書を参照してください。
- 本カメラでは、英数字で最大 16 文字までのパスキーが入力できます。
- 認証パスキーを登録しない場合は、カメラと機器を接続したときにパスキーを入力する必要があります。
- 認証パスキーは、1 機器のみ登録できます。複数機器と同時に接続したい場合は、接続機器の認証パスキーを同一にしておく必要があります。
- 一度登録した認証パスキーを変更したい場合は、パスキーを上書きし、MENU/OK ボタンを押します。

Bluetooth 周辺機器検索個数

一度の検索で可能な Bluetooth® 機器の最大検索数を、［1］から［10］の間で設定します。

Bluetooth 自動接続

☞P.138

［ON］に設定すると、カメラの電源をオンにしたときに、前回接続した Bluetooth® 機器に自動的に接続します。

Bluetooth シリアル

☞P.137

接続可能な Bluetooth® 機器を検索し、一覧を表示します。▲▼ ボタンを押して接続先を選択し、MENU/OK ボタンを押すと接続を開始します。

Bluetooth MASTER/SLAVE

カメラと 1 台の Bluetooth® 機器を接続するか、同時に複数機器と接続するかを設定します。

設定	内容
MASTER	同時に複数機器と接続します。
SLAVE	1 台の機器と接続します。

送信画像サイズ

画像のサイズを設定すると、送信時にリサイズを行います。［無変換］を選択すると、リサイズせずに送信します。

 注意

BIP プロファイルの Bluetooth® 機器に接続している場合、接続先の対応最大サイズにリサイズされるため、設定した値でリサイズされない場合があります。

送信自動削除

［ON］に設定すると、画像をパソコンに送信した後、送信済みの画像をカメラから自動的に削除します。

クイック送信モード ☞P.108

撮影直後に画像をパソコンに送信できます。

Bluetooth プロファイル選択

Bluetooth® 機器と接続するときのプロファイルを選択します。

設定	内容
OPP・BIP	OPP を優先し、接続機器が OPP に対応していない場合に BIP を使用します。
OPP	OPP（Object Push Profile）を使用します。
BIP	BIP（Basic Imaging Profile）を使用します。

オリジナルヘルプ ☞P.59

［ON］に設定すると、あらかじめカメラの内蔵メモリーに保存した JPEG 画像をオリジナルヘルプとして画像モニターに表示できます。

管理モード〔パスワード〕

オリジナルヘルプ用のパスワードを設定します。

メモ

- ［ロックパスワード設定・変更］（☞P.90）で設定するパスワードとは異なります。
- バーコードは使用できません。
- パスワードの設定方法は［ロックパスワード設定・変更］の「キーボードで設定する」（☞P.91）を参照してください。

注意

設定したパスワードはお忘れにならないようにご注意ください。パスワードを忘れてしまった場合、リコー修理受付窓口までご連絡ください。連絡先は裏表紙をご覧ください。

管理モード〔登録〕 ☞P.59

オリジナルヘルプとして使用する JPEG 画像を登録できます。

管理モード〔削除〕 ☞P.61

オリジナルヘルプとして使用している JPEG 画像を再生または削除できます。

Bluetooth® について

本カメラには、通信機能として Bluetooth® と無線 LAN が内蔵されています。Bluetooth®（ブルートゥース）機能は、パソコンや周辺機器などを無線で接続し、通信を可能にするための規格です。Bluetooth® で通信を行う場合は、あらかじめ拡張設定メニュー（☞P.98）の［通信切り替え］で［Bluetooth］に設定しておく必要があります（☞P.102）。

Bluetooth® で送信するまでの流れ

Bluetooth® を使用すると、複雑な設定をせずにパソコンなどに画像を送信できます。

1 拡張設定メニュー（☞P.98）の［通信切り替え］（☞P.102）を［Bluetooth］に設定する

2 再生設定メニュー（☞P.72）の［ファイル送信］（☞P.74）またはクイックビュー送信（☞P.108、132）を使用して画像を送信する

- 接続先の機器が検索されます。送信したい機器を選択すると画像が送信されます。
- 接続先の機器によっては認証パスキーを入力する必要があります。

注意 ---

- Bluetooth® は、最大約 10m までの通信が可能です。送信先の Bluetooth® 機器と本カメラとの距離は、見通しがきく約 10m 以内にしてください。
- 本カメラの通信対象となる Bluetooth® 機器は、以下の Bluetooth® Profile に対応している必要があります。ご使用の Bluetooth® 機器の説明書でご確認ください。
  - BIP（Basic Imaging Profile）
  - OPP（Object Push Profile）
- 送信できる画像は、静止画のみです。動画は送信できません。

送信機器の認証パスキーを入力する

認証パスキーとは、Bluetooth® 機能で接続するときに、お互いの機器を認証するためのコードです。

送信先の機器にパスキーが設定されている場合は、カメラと接続したときにメッセージが表示されるので、下記の操作でパスキーを入力してください。

1 MENU/OK ボタンを押す

- キーボード画面が表示されます。

2 キーボードを使って、送信先の機器に設定されているパスキーを入力する

- キーボードの操作方法は、P.91 を参照してください。
- 送信先のパスキーの設定については、送信先機器の説明書を参照してください。
- パスキー入力の制限時間は 30 秒です。制限時間を超えた場合はエラーメッセージが表示されるので、MENU/OK ボタンを押し、パスキー入力前の操作からやり直してください。
- 間違ったパスキーを入力した場合はエラーメッセージが表示されます。MENU/OK ボタンを押し、パスキー入力前の操作からやり直してください。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 送信先の機器へ接続し、送信を開始します。

メモ --

- すでにパスキーを入力し、認証が済んでいる機器と接続する場合は、パスキーの入力は不要です。
- 本カメラでは、英数字で最大 16 文字までのパスキーが入力できます。
- あらかじめ認証パスキーをカメラで設定しておくと、送信先の機器にパスキーが設定されていても自動的に認証が行われ、パスキーの入力が不要となります（☞P.103）。
- カメラより先に送信先の機器側でパスキー入力の画面が表示された場合は、まず送信先でパスキーを入力し、同じパスキーをカメラで入力してください。

再生モードで画像を送信する（Bluetooth®）

再生設定メニュー（☞P.72）の［ファイル送信］では、撮影した画像をBluetooth® 対応機器に送信できます。

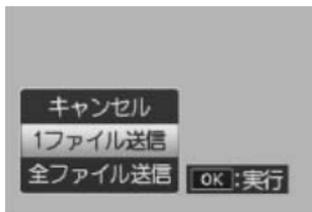
1 再生設定メニュー（☞P.72）で［ファイル送信］を選び、▶ ボタンを押す

- ［送信先］一覧画面が表示されます。
- 1 枚の画像を送信する場合は、あらかじめ再生モードで送信したい画像を表示してください。
- はじめて Bluetooth® 機能を使う場合は、送信先を検索するかどうか確認する画面が表示されます。［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押すと、送信先の検索が開始され、送信先一覧画面が表示されます。

2 ［送信先］一覧画面で ▲▼ ボタンを押して送信先を選び、MENU/OK ボタンを押す

- ［送信先］一覧画面に送信したい機器が表示されていない場合は、ADJ. ボタンを押すと、送信先を再検索できます。
- 送信先を選んで ▶ ボタンを押すと、送信先の詳細情報が表示されます。
- 送信先を選んで 🗑（削除）ボタンを押すと、送信先を削除できます。

3 1 枚の画像を送信する場合は［1 ファイル送信］を、すべての画像を送信する場合は［一括送信］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 送信先の機器へ送信を開始し、進行状況が表示されます。
- 送信が完了すると、送信完了のメッセージが表示されます。
- 送信先の機器にパスキーが設定されている場合は、メッセージが表示されるので、パスキーを入力してください（☞P.106）。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 再生画面に戻ります。

複数の画像を送信するには --

再生モードで一覧表示（☞P.38）にしておくと、複数の画像を選択して送信できます。手順 2 の後に送信したい静止画を選び、MENU/OK ボタンを押すと、画像に封筒のマークが表示されます。すべて選択後に DISP. ボタンを押すと、選択した画像をパソコンに送信するかどうか確認する画面が表示されるので、［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押してください。

少ない操作で画像を送信するには ------------------------------------

送信先とパスキーが設定されている場合、再生モードで DISP. ボタンを長押しすると、手順 3 の画面が表示されます。

送信を中断したい場合--

送信を中断したい場合は、DISP. ボタンを押してください。▶（再生）ボタン、シャッターボタンを押した場合でも、送信は中断されます。

メモ --

拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズをあらかじめ設定しておくことができます。ただし、拡張設定メニュー（☞P.98）の［Bluetooth プロファイル選択］（☞P.104）で［BIP］を選択している場合は、送信先機器の最大サイズよりも大きいサイズを設定すると、送信先機器の対応最大サイズにリサイズされます。

撮影モードで画像を送信する（Bluetooth®）

拡張設定メニュー（☞P.98）の［クイック送信モード］（☞P.104）を使用すると、撮影直後に画像を送信できます（クイックビュー送信）。

設定	内容
OFF	クイックビュー送信を行いません。
1TOUCH	撮影直後の確認画面で MENU/OK ボタンを押すと、画像を送信します。
2TOUCH	撮影後、▶ ボタンを押すとクイックレビュー画面に切り替わります。クイックレビュー画面で MENU/OK ボタンを押すと、画像を送信します。［GPS ロック］（☞P.99）が［ON］の場合、使用できません。
AUTO	撮影した画像を確認せずに自動的に送信します。

注意

以下の場合は、［クイック送信モード］を［OFF］以外に設定していても、画像をクイックビュー送信することはできません。

- シーンモード時（☞P.52）
- 撮影設定メニュー（☞P.62）の［連写］（☞P.64）を［ON］に設定している場合

メモ

- クイックビュー送信を使用する場合は、あらかじめ送信先の機器（パソコン）の電源が入っていることを確認してから撮影してください。
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信自動削除］（☞P.104）で画像を送信した後、送信済みの画像をカメラから自動的に削除するかどうか設定することができます。

クイックビュー送信後に接続を切断するには

クイックビュー送信完了後に接続を切断する場合は、再生モードに切り替えるか、カメラの電源をオフにしてください。

送信を中断したい場合

送信を中断したい場合は、DISP. ボタンを押してください。▶（再生）ボタン、シャッターボタンを押した場合、またモードダイヤルを回した場合でも、送信は中断されます。カメラの電源をオフにした場合も、送信を中断して電源がオフになります。

送信先の機器を変更したい場合

前回送信した送信先の設定は、カメラと送信先の機器との接続を解除したり、カメラの電源をオフにしたりしても、保持されます。送信先の機器を変更したい場合は、一度再生モードの［ファイル送信］（☞P.74）で変更したい機器に画像を送信してください。

クイックビュー送信をする

［クイック送信モード］を［1TOUCH］に設定している場合

撮影後の画像確認時間中に MENU/OK ボタンを押すと、前回の送信先へ撮影した画像を送信します。セットアップメニュー（☞P.82）の［画像確認画面］（☞P.84）で設定した時間内に MENU/OK ボタンを押さないと、画像は送信されません。画像確認時間は長めに設定しておくことをお勧めします。

接続中は画像モニターに Bluetooth® アンテナアイコンが表示されます。送信が完了すると、送信先と接続した状態で撮影モードに戻ります。再生モードに切り替えるか、カメラの電源をオフにするまで接続状態が続きます。

メモ

- 以下の場合は、[1TOUCH] に設定していても画像をクイックビュー送信できません。
  - Bluetooth® ではじめて接続する場合 : クイックビュー送信の前に、一度再生モードの[ファイル送信](☞P.74)で Bluetooth® 機器に画像を送信してください。
  - [画像確認画面] を [OFF] に設定している場合
  - [オートブラケット] を [ON] または [WB-BKT] に設定している場合
  - 拡張設定メニュー(☞P.98)の[Bluetooth プロファイル選択](☞P.104)を [BIP] に設定している場合に、[画質・サイズ] の設定が接続先の対応最大サイズを超えているとき
- 拡張設定メニュー(☞P.98)の[送信画像サイズ](☞P.103)で送信する画像サイズを設定しても、リサイズされません。

[クイック送信モード] を [2TOUCH] に設定している場合

1 撮影後に ▶ ボタンを押す

- 画像を送信するかどうか確認する画面が表示されます。

2 MENU/OK ボタンを押す

- 送信先の機器へ送信を開始し、進行状況が表示されます。
- 接続中は画像モニターに Bluetooth® アンテナアイコンが表示されます。送信が完了すると、送信先と接続した状態で撮影モードに戻ります。再生モードに切り替えるか、カメラの電源をオフにするまで接続状態が続きます。
- 送信先の機器にパスキーが設定されている場合は、メッセージが表示されるので、パスキーを入力してください(☞P.106)。

はじめて［2TOUCH］で送信する場合------------------------------

- はじめて［2TOUCH］で画像を送信する場合、送信先の機器を選択する必要があります。
- 送信先の機器を検索するかどうかを確認する画面が表示されます。［はい］を選択して MENU/OK ボタンを押すと、［送信先］一覧画面が表示されます。送信したい機器が表示されていない場合は、ADJ. ボタンを押すと、送信先を再検索できます。
- 送信先を ▲▼ ボタンで選択して MENU/OK ボタンを押すと、送信が開始されます。

メモ--

- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS ロック］（☞P.99）を［ON］にしている場合は、［2TOUCH］に設定していても、画像をクイックビュー送信できません。
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズをあらかじめ設定しておくことができます。ただし、拡張設定メニュー（☞P.98）の［Bluetooth プロファイル選択］（☞P.104）で［BIP］を選択している場合は、送信先機器の最大サイズよりも大きいサイズを設定すると、送信先機器の対応最大サイズにリサイズされます。

［クイック送信モード］を［AUTO］に設定している場合

撮影後、自動的に前回の送信先へ撮影した画像を送信します。

注意--

- 以下の場合は、［クイック送信モード］を［AUTO］に設定していても、画像をクイックビュー送信することはできません。
  - Bluetooth® ではじめて接続する場合：クイックビュー送信の前に、一度再生モードの［ファイル送信］（☞P.74）で Bluetooth® 機器に画像を送信してください。
  - 拡張設定メニュー（☞P.98）の［Bluetooth プロファイル選択］（☞P.104）を［BIP］に設定している場合に、［画質・サイズ］の設定が接続先の対応最大サイズを超えているとき
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズを設定しても、リサイズされません。

無線 LAN でパソコンとカメラと接続する方法について

本カメラには、通信機能として Bluetooth® と無線 LAN が内蔵されています。無線 LAN で通信を行う場合は、あらかじめ拡張設定メニュー（☞P.98）の［通信切り替え］で［W-LAN］に設定しておく必要があります（☞P.102）。

無線 LAN で送信するまでの流れ

無線 LAN 機能では、静止画と動画を送信できます。

1 パソコンで送信のための詳細設定を行う（☞P.113）

- 本カメラでは、無線 LAN 機能を使って送信リストに登録している FTP サーバーへ画像を送信できます。
- 付属ソフト ST-10 を使って、無線 LAN で画像を送信するための詳細設定を行います。
- FTP サーバーがない場合は、詳細設定を行う前に付属ソフト SR-10 を使って、ご使用のパソコンを G700SE 専用の FTP サーバー（SR-10 サーバー）に設定します（☞P.120）。

2 パソコンで送信リストを作成する（☞P.123）

- 付属ソフト ST-10 を使って、手順 1 で登録した詳細設定から、使用したい設定を組み合わせて送信リストを作成します。

3 送信リストをパソコンからカメラに転送する（☞P.123）

- 付属の USB ケーブルでパソコンとカメラを接続し、送信リストをカメラの内蔵メモリーに転送します。SD メモリーカードを使用して、カメラに送信リストを読み込ませることもできます（☞P.125）。
- 送信先の設定内容は、カメラでも修正できます（☞P.127）。

4 拡張設定メニュー（☞P.98）の［通信切り替え］（☞P.102）を［W-LAN］に設定する

5 再生設定メニュー（☞P.72）の［ファイル送信］（☞P.74）またはクイックビュー送信（☞P.108、132）を使用して画像を送信する

- 画像を送信するときは、送信時に表示される［送信先］一覧画面で送信先を選択します。
- あらかじめ拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信先選択］（☞P.102）で送信先を選択しておくこともできます。

注意 --

- 無線 LAN は、最大約 30m までの通信が可能です。送信先の無線 LAN 対応機器と本カメラとの距離は、見通しがきく約 30m 以内にして操作を行ってください。
- 無線 LAN 機能を使うには、付属ソフト ST-10 のインストールが必要になります。ST-10 は、Windows でのみインストール可能です。

無線 LAN で送信するための詳細設定を行う

無線 LAN で画像をパソコンなどに送信するには、送信のための詳細設定を登録した送信リストをパソコンで作成し、カメラに転送しておく必要があります。詳細設定は、付属ソフトの ST-10 で行います。

メモ --

ST-10 のインストール方法は P.151 を参照してください。

1 Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］>［DC Software］>［ST-10］を選択して起動する

- ST-10 が起動し、［ST-10］画面が表示されます。

2 ［すべての詳細設定］をクリックする

・［選択候補の詳細設定］画面が開きます。

3 詳細設定を行いたいタブをクリックする

・詳細設定のタブと設定内容は次のとおりです。

詳細設定のタブ	設定内容
ネットワーク	IP アドレスなどの設定
無線 LAN	無線 LAN に関する設定
ダイヤルアップ	本カメラはダイヤルアップ接続に対応していないため、設定の必要はありません。
FTP 送信	送信先の FTP サーバー名などの設定（FTP 送信）
メール環境	本カメラはメール送信に対応していないため、設定の必要はありません。
アドレス帳	本カメラはメール送信に対応していないため、設定の必要はありません。

メモ --

- FTP サーバーが構築されていない環境の場合は、ご使用のパソコンを SR-10 サーバーに設定し、FTP 送信の送信先に指定できます（☞P.120）。
- ［ST-10］画面で各設定項目の右側にある［詳細設定］をクリックすると、その項目の詳細設定を行うことができます。

4 ［設定名］の［追加］をクリックする

- ［新しい設定名］ダイアログが表示されます。

5 設定名を入力し、［OK］をクリックする

6 詳細設定を行う

- 詳細設定の各項目については、P.116 をご覧ください。
- 設定を削除したい場合は、削除したい設定名を選択し、［削除］をクリックします。
- 設定名を変更したい場合は、変更したい設定名を選択し、［名前の変更］をクリックして［新しい設定名］ダイアログに設定名を入力します。

7 他にも詳細設定を行う場合は、詳細設定を行いたいタブをクリックし、手順 4 〜 6 を繰り返す

8 ［OK］をクリックする

- ［ST-10］画面に戻ります。［ST-10］画面で［OK］をクリックすると、ST-10 が終了します。

注意 --

設定する内容については、システム管理者の方にご確認ください。

メモ --

［適用］をクリックすると、現在の設定が保存されます。

各詳細設定項目の内容

［ネットワーク］タブ

項目名	内容
ホスト設定 ホスト名 カメラのパスワード	本カメラでは設定する必要はありません。
IP アドレスを自動的に取得する	カメラの IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。
次の IP アドレスを使う IP アドレス サブネットマスク デフォルトゲートウェイ	IP アドレスを固定する場合に選択し、下記を入力します。 • ［IP アドレス］ カメラの固定 IP アドレス • ［サブネットマスク］ 通常、255.255.255.0 と入力します。 • ［デフォルトゲートウェイ］ インターネットに接続しているコンピュータの IP アドレス
DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する	DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。
次の DNS サーバーのアドレスを使う 優先 DNS サーバー 代替 DNS サーバー	DNS サーバーのアドレスを固定する場合に選択し、下記を入力します。 • ［優先 DNS サーバー］ プロバイダーの優先 DNS サーバーアドレス • ［代替 DNS サーバー］ プロバイダーの代替 DNS サーバーアドレス

[無線 LAN] タブ

簡易接続（☞P.128）する場合は、[無線 LAN] タブで詳細設定を行う必要はありません。

項目名	内容
接続形態	接続形態を下記から選択します。 • [Infrastructure] ルーターやアクセスポイントを介して通信を行う接続形態です。 • [AdHoc] 子機同士で通信ができる接続形態です。
ESS-ID	無線 LAN では、同じ ESS-ID を持つ親機と子機の間で通信ができます。ここでは親機と同じ ESS-ID を入力します。
通信チャネル	複数のアクセスポイントを使っている場合は、各アクセスポイントにチャネルが設定されています。使用するアクセスポイントのチャネルを選択します。 • [自動] [接続形態] を [Infrastructure] に設定していて、アクセスポイントが 1 つの場合に選択します。 • [1 ～ 13] [接続形態] を [Infrastructure] に設定していてアクセスポイントが複数の場合、または [接続形態] を [AdHoc] に設定している場合に、使用するチャネルを選択します。
暗号化	暗号化方式を下記から選択します。 • [なし] 暗号化は行いません。 • [WEP] [接続形態] で [Infrastructure]、[AdHoc] のどちらを設定した場合にも選択できます。 • [AES] [接続形態] で [Infrastructure] を設定した場合のみ選択できます。 • [TKIP] [接続形態] で [Infrastructure] を設定した場合のみ選択できます。

項目名	内容
ネットワークキー	セキュリティのための暗号を入力します。キーの種類を［文字］または［16 進］のいずれかから選択し、テキストボックスに暗号キーを入力します。 • ［文字］ **［暗号化］で［WEP］を選択した場合**：5 文字または 13 文字の暗号キーを入力します。5 文字入力時は 40bit、13 文字入力時は 128bit を使用します。 **［暗号化］で［AES］または［TKIP］を選択した場合**：8 ～ 63 文字の暗号キーを入力します。 • ［16 進］ **［暗号化］で［WEP］を選択した場合**：10 桁または 26 桁の暗号キーを入力します。10 桁入力時は 40bit、26 桁入力時は 128bit を使用します。 **［暗号化］で［AES］または［TKIP］を選択した場合**：64 桁の暗号キーを入力します。
認証方式	• ［Open System］ ［暗号化］で［なし］または［WEP］を設定した場合のみ選択できます。WEP キーにかかわらず認証する方式です。 • ［Shared Key］ ［暗号化］で［なし］または［WEP］を設定した場合のみ選択できます。同じ WEP キーを持っているかどうかで認証する方式です。 • ［WPA-PSK］ ［暗号化］で［AES］または［TKIP］を設定した場合のみ選択できます。 • ［WPA2-PSK］ ［暗号化］で［AES］または［TKIP］を設定した場合のみ選択できます。

［FTP 送信］タブ

項目名	内容
サーバー名	画像を送信する先の FTP サーバー名または FTP サーバーの IP アドレスを入力します。ご使用のパソコンを SR-10 サーバーに設定している場合（☞P.120）は、パソコンの IP アドレスを入力してください。

項目名	内容
ユーザー名 パスワード	FTPサーバーに接続する際に必要なユーザー名（ユーザーID）とパスワードを入力します。ご使用のパソコンをSR-10サーバーに設定している場合（☞P.120）は、入力する必要はありません。
フォルダ指定	画像を送信するフォルダ名（FTPサーバーの受信フォルダ）を入力します。
重複する名前のファイルを送信しない	チェックマークを付けると、送信先に同じ名前の画像があった場合は画像を送信しません。チェックマークを付けていないと、同じ名前の画像があった場合でも画像を送信して上書きします。パソコンをSR-10サーバーとして使用する場合（☞P.120）は、この設定は無効となり、同じ画像名があった場合は別の画像名に置き換えられて保存されます（☞P.122）。
PASV	チェックマークを付けると、パッシブモードでFTPサーバーと接続します。ファイアウォールを使用したFTPサーバーと接続できない場合、パッシブモードで接続してください。

メモ---

本カメラはダイヤルアップ接続、メール送信に対応していないため、[ダイヤルアップ] タブ、[メール環境] タブ、[アドレス帳] タブで詳細設定を行う必要はありません。

本カメラ専用の FTP サーバーを設定する

FTP サーバーが構築されていない環境の場合に、付属ソフト SR-10 を使って、ご使用のパソコンを SR-10 サーバー（本カメラ専用の FTP サーバー）に設定することができます。

注意

- SR-10 を使用して設定した SR-10 サーバーは、本カメラとの FTP 接続専用です。他の FTP クライアントからは、ご使用いただけません。
- FTP サーバーからカメラへ画像を送信することはできません。

メモ

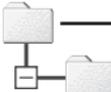
SR-10 のインストール方法は P.151 を参照してください。

1 Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］>［DC Software］>［SR-10］を選択して起動する

- SR-10 が起動し、［SR-10］画面が表示されます。

2 各項目を設定する

・設定内容は次のとおりです。

項目	内容
1 指定方法	受信フォルダの指定方法を選択します。 • サーバー ［フォルダ名］に入力したフォルダを受信フォルダにします。 • サーバー+カメラ 以下のフォルダを受信フォルダにします。 ［フォルダ名］で指定したフォルダ 送信リストの［FTP 送信］タブにある［フォルダ指定］で設定したフォルダ • カメラ 送信リストの［FTP 送信］タブにある［フォルダ指定］で設定したフォルダを受信フォルダにします。
2 フォルダ名	受信フォルダを指定します。フォルダのアイコンをクリックすると、フォルダを選択できます。
3 ログファイル名	ログファイル名を指定すると、接続状況のログファイルが作成されます。ログファイル名は、フルパスで指定してください。
4 PASV 接続ポート番号	ST-10 の［FTP 送信］タブで［PASV］にチェックしてパッシブモードで送信する場合に、ポート番号を指定できます。

メモ --

受信フォルダは指定したフォルダと同じ名前のフォルダを作成しておく必要があります。

3 ［適用］をクリックする

・設定が完了します。

4 ［終了］をクリックして SR-10 を終了する

SR-10 サーバーを使う

SR-10 サーバーを使用する場合は、カメラに送信リストを転送した後、次の手順で SR-10 サーバーに画像を送信します。

1 Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］>［DC Software］>［SR-10］を選択して起動する

- SR-10 が起動し、［SR-10］画面が表示されます。

2 ［開始］をクリックする

- FTP サーバーが起動し、カメラとの通信が可能になります。
- ［隠す］をクリックすると、［SR-10］画面が非表示になり、タスクバーにアイコンが表示されます。［SR-10］画面を再表示したいときは、タスクバーのアイコンをクリックします。

3 カメラから画像を送信する

- 画像を送信する手順については、P.131 または P.132 を参照してください。
- ［SR-10］画面の［接続状況］に通信状況が表示されます。
- 指定した受信フォルダ（☞P.121）に画像が保存されます。

メモ --

受信フォルダ内に、送信する画像と同じ名前の画像がある場合は、送信画像名の後ろに -001 ～ -999 までの連続番号を付加した画像名に置き換えられて保存されます。すでに -001 ～ -999 を付加した画像名が受信フォルダ内にある場合は、上書きされます。

送信リストを作成してカメラへ転送する

［ST-10］画面で詳細設定が完了したら、使用したい設定を組み合わせて送信リストを作成し、付属のUSBケーブルでカメラへ転送します。

メモ --

送信リストをパソコンに保存し、SDメモリーカードにコピーしてカメラに読み込ませることもできます（☞P.125）。

1 ［追加］をクリックして設定名を入力する

- ダイアログが表示され、設定名を入力できます。既存の設定名がある場合、プルダウンメニューで選択できます。

2 各項目を設定する

- 設定内容は次のとおりです。

項目	内容
1 接続方法	［無線LAN］を選択し、プルダウンから使用したい無線LAN設定を選択します。詳細設定の［無線LAN］タブ（☞P.117）で登録した設定が表示されます。
2 ネットワーク設定	使用したいネットワーク設定を選択します。詳細設定の［ネットワーク］タブ（☞P.116）で登録した設定が表示されます。
3 送信方法	［FTP送信］を選択します。詳細設定の［FTP送信］（☞P.118）タブで登録した設定が表示されます。

3 他にも送信設定を作成する場合は手順1、2を繰り返してすべて作成する

- 送信設定を削除したい場合は、削除したい設定名を選択し、［削除］をクリックします。
- 送信設定名を変更したい場合は、変更したい設定名を選択し、［名前の変更］をクリックして［新しい設定名］ダイアログに設定名を入力します。
- 送信設定の内容を変更したい場合は、内容を変更したい設定名を選択して設定を変更します。

4 ［適用］をクリックする

5 カメラとパソコンを付属の USB ケーブルで接続する

- 接続する前は必ずカメラの電源をオフにしてください。
- 接続すると、カメラの電源がオンになります。

6 ［カメラへ転送］をクリックする

- ［パスワード］ダイアログが表示されます。設定したいパスワードを入力して［OK］をクリックすると、送信リストの転送が開始されます。
- カメラに設定されている情報がある場合は、更新するかどうか確認する画面が表示されます。更新する場合は、［はい］をクリックします。
- 手順 3 で［適用］をクリックせずに［カメラへ転送］をクリックすると、編集内容を保存するかどうか確認するメッセージが表示されます。保存する場合は［OK］をクリックしてください。

7 転送完了のメッセージが表示されたら［OK］をクリックする

8 ［ST-10］画面の［OK］をクリックして ST-10 を終了する

- カメラとパソコンの接続を解除してから、USB ケーブルをカメラとパソコンから取り外してください。USB ケーブルを取り外す手順は、P.156 を参照してください。

9 カメラの電源をオンにし、拡張設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.98 を参照してください。

10 ［送信リスト読み込み］を選んで ▶ ボタンを押す

- 読み込みを行うかどうかを確認する画面が表示されます。

11 ▶ ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- すでに送信リストが読み込まれている場合は、送信リストを上書きするかどうか確認する画面が表示されます。上書きする場合は、［はい］を選択してください。［いいえ］を選択すると、読み込みは行われず、拡張設定メニューに戻ります。

メモ --

- 送信リストの転送やパソコンへの保存を行ったかどうかにかかわらず、ST-10 終了時の設定内容（詳細設定や送信リストの設定）が記憶されます。ST-10 を 2 回目以降に起動したときは、前回終了時の設定内容が表示されます。
- 手順 6 で設定したパスワードは、ST-10 で送信リストファイルを開く場合に入力する必要があります。
- 従来機種に付属していた ST-10 を使用して作成した送信リストファイルは、本カメラに付属する ST-10 では開けず、カメラに転送することもできません。送信リストを作成し直してください。

SD メモリーカードから送信リストを読み込む

パソコンに保存した送信リストを PC カードスロットやカードリーダーを使用して SD メモリーカードにコピーし、カメラへ読み込ませることができます。

注意 --

本カメラで初期化した SD カードを使用してください。

1 送信リストを作成し（☞P.123 手順 1 ～ 4）、［ファイルへ保存］をクリックする

- ［名前を付けて保存］ダイアログが表示されます。

2 送信リストを保存したいフォルダを選択し、ファイル名を入力して［保存］をクリックする

- ［パスワード］ダイアログが表示されます。
- ファイル名は任意に入力できますが、手順 5 で SD メモリーカードにコピーするときには「SYSTEM.PRM」に変更する必要があります。

3 パスワードを設定して［OK］をクリックする

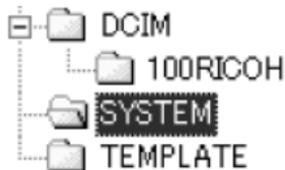
- 送信リストがパソコンに保存され、保存完了のメッセージが表示されます。

メモ --

保存した送信リストは［ファイルを開く］で開いて設定を編集できます。ファイルを開くときに、手順 3 で設定したパスワードを入力する必要があります。パスワードが一致しなかった場合、警告ダイアログが表示されます。

4 ［ST-10］画面の［OK］をクリックして ST-10 を終了する

5 PC カードスロットやカードリーダーを使用して、送信リストを SD メモリーカードの SYSTEM フォルダ内にコピーする

- 送信リストのファイル名を任意の名前にした場合、「SYSTEM.PRM」に変更してください。

6 送信リストをコピーした SD メモリーカードをカメラにセットする

7 カメラの電源をオンにし、拡張設定メニューから［送信リスト読み込み］を実行する

- 詳しい操作手順は、P.124 の手順 9 以降を参照してください。

注意 --

SD カードからカメラに読み込むことができる送信リストは、1 つだけです。

メモ --

送信リストは、USB ケーブルを使ってパソコンからカメラに転送することもできます（☞P.123）。

送信先の設定内容をカメラで確認／修正する

カメラに転送した送信リストの設定内容を、カメラで確認／修正することができます。

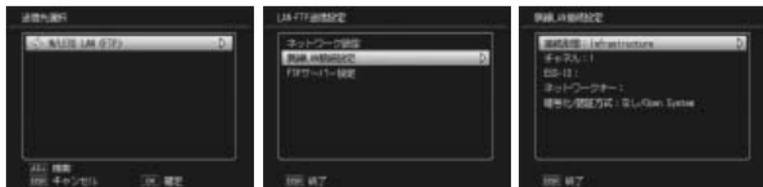
1 カメラの電源をオンにし、拡張設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.98 を参照してください。

2 ［送信先選択］を選び、▶ ボタンを押す

- 送信リストで設定した送信先の一覧画面が表示されます。

3 設定内容を修正したい詳細設定を選ぶ

- ▲▼ ボタンで項目を選択し、▶ ボタンを押すと送信先、設定分類、詳細設定の順に項目が表示されます。

- DISP. ボタンを押すと、前の項目に戻ります。

4 詳細設定の内容を変更する

- キーボード画面で入力できるのは英数字のみです。キーボードの操作方法は、P.91 を参照してください。

5 変更が完了したら、MENU/OK ボタンを押す

- 詳細設定の表示画面に戻ります。
- 他にも変更したい設定内容がある場合は、手順 3 ～ 5 を繰り返して変更します。

6 すべての変更が完了したら、MENU/OK ボタンを押す

- 拡張設定メニューに戻ります。

注意 --

- ST-10 の詳細設定で、［無線 LAN］タブの［暗号化］／［認証方式］を以下の項目に設定している場合は（☞P.117）、カメラで［無線 LAN 接続設定］の［接続形態］を［AD-HOC］に変更すると、［暗号化 / 認証方式］は自動的に［OFF/OPEN］となります。
  ［AES］／［WPA-PSK］、［AES］／［WPA2-PSK］、［TKIP］／［WPA-PSK］、［TKIP］／［WPA2-PSK］
- カメラで［無線 LAN 接続設定］の［暗号化 / 認証方式］を変更した場合は、ネットワークキーの内容を確認してください（☞P.118）。

簡単に無線 LAN アクセスポイントと接続する

拡張設定メニュー（☞P.98）の［簡易接続選択］を使用すると、ST-10 で［無線 LAN］タブ（☞P.117）の内容を設定することなく、簡単に無線 LAN に接続できます。

設定	内容
OFF	簡易接続を行いません。無線 LAN で接続する場合は、［送信先選択］（☞P.102）で選択した無線 LAN 接続設定で接続します。
WPS ボタン接続	無線 LAN アクセスポイントに WPS ボタンがある場合、WPS ボタンを押すだけでカメラと接続できます。
WPS PIN 接続	無線 LAN アクセスポイントが PIN 方式に対応している場合、アクセスポイントに設定されている PIN コードをカメラで入力して接続します。
スキャン接続	接続可能な無線 LAN アクセスポイントをカメラが検索し、接続先をカメラで選択します。ネットワークキーなどはカメラで入力しますが、前回接続した無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は入力する必要がありません。
W-LAN 接続情報	接続した無線 LAN アクセスポイントの情報を画像モニターに表示します。

メモ --

［簡易接続選択］で最後に接続した無線 LAN 設定情報は、カメラの電源をオフにしても保持されます。

［WPS ボタン接続］で接続する

1 拡張設定メニュー（☞P.98）で［簡易接続選択］を選び、▶ボタンを押す

2 ▲▼ ボタンを押して［WPS ボタン接続］を選び、▶ ボタンを押す

- 無線 LAN アクセスポイント検索の画面が表示されます。

3 無線 LAN アクセスポイントの WPS ボタンを押す

- WPS ボタンについては、無線 LAN アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- アクセスポイント検索は約 2 分間です。手順 2 の後、2 分以内に WPS ボタンを押してください。
- 接続に成功した場合、接続情報が表示されます。接続に失敗した場合、エラー画面が表示されて拡張設定メニューに戻ります。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 拡張設定メニューに戻ります。

［WPS PIN 接続］で接続する

1 拡張設定メニュー（☞P.98）で［簡易接続選択］を選び、▶ボタンを押す

2 ▲▼ ボタンを押して［WPS PIN 接続］を選び、▶ ボタンを押す

- PIN コード入力画面が表示されます。8 桁の PIN コードをキーボードで入力してください。
- キーボードの操作方法は、P.91 を参照してください。
- 入力した PIN コードは、電源をオフにしても保持されます。

3 MENU/OK ボタンを押す

- アクセスポイント検索の画面が表示されます。
- 接続に成功した場合、接続情報が表示されます。接続に失敗した場合、エラー画面が表示されて拡張設定メニューに戻ります。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 拡張設定メニューに戻ります。

[スキャン接続]で接続する

1 拡張設定メニュー（☞P.98）で［簡易接続選択］を選び、▶ボタンを押す

2 ▲▼ボタンを押して［スキャン接続］を選び、▶ボタンを押す

- アクセスポイント検索の画面が表示されます。
- 検索が終了すると、接続可能な無線 LAN アクセスポイントの一覧が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して接続したい無線 LAN アクセスポイントを選び、MENU/OK ボタンを押す

- 接続確認の画面が表示されます。前回無線 LAN アクセスポイントに［スキャン接続］で接続している場合、前回入力した設定で接続します。
- 接続に成功すると、接続情報が表示されます。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 拡張設定メニューに戻ります。

無線 LAN 接続情報を手動で行うには

- 手順 3 で接続できなかった場合、無線 LAN 接続情報を手動で行うかどうかを確認する画面が表示されます。［OK］を選んで MENU/OK ボタンを押すと、無線 LAN 接続情報の入力画面が表示され、［無線 LAN］タブ（☞P.117）と同様の設定ができます。▲▼ボタンを押して設定したい項目を選んで▶ボタンを押すと、設定を選択できます。［ネットワークキー］を選択した場合は、キーボードが表示されます。ネットワークキーをキーボードで入力してください。すべての項目を設定したら、MENU/OK ボタンを押します。
- 接続に成功すると、接続情報が表示されます。

注意

画像送信時に、簡易接続の無線 LAN 設定情報で接続が失敗した場合、送信はキャンセルされます。［送信先選択］（☞P.102）の無線 LAN 設定情報は使用されません。

再生モードで画像を送信する（無線 LAN）

再生設定メニュー（☞P.72）の［ファイル送信］では、撮影した画像をパソコンに送信できます。

注意 --

画像を送信する前に、パソコンで送信リストを作成し、カメラに転送してください（☞P.123）。転送していなかったり、内容に不備があったりすると画像は送信できません。

1 再生設定メニュー（☞P.72）で［ファイル送信］を選び、▶ボタンを押す

- ［送信先］一覧画面が表示されます。
- 1 枚の画像を送信する場合は、あらかじめ再生モードで送信したい画像を表示してください。
- ［送信先選択画面］を［OFF］に設定している場合（☞P.102）は、手順 3 へ進んでください。

2 ［送信先］一覧画面で ▲▼ ボタンを押して送信先を選び、MENU/OK ボタンを押す

3 1 枚の画像を送信する場合は［1 ファイル送信］を、すべての画像を送信する場合は［一括送信］を選び、MENU/OK ボタンを押す

キャンセル
1ファイル送信
全ファイル送信
OK:実行

- 送信先の機器へ送信を開始し、進行状況が表示されます。
- 送信が完了すると、送信完了のメッセージが表示されます。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 再生画面に戻ります。

複数の画像を送信するには --

再生モードで一覧表示（☞P.38）にしておくと、複数の画像を選択して送信できます。手順 2 の後に送信したい静止画を選び、MENU/OK ボタンを押すと、画像に封筒のマークが表示されます。すべて選択後に DISP. ボタンを押すと、選択した画像をパソコンに送信するかどうか確認する画面が表示されるので、［はい］を選んで MENU/OK ボタンを押してください。

少ない操作で画像を送信するには -----------------------------------

送信先とパスキーが設定されている場合、再生モードで DISP. ボタンを長押しすると、手順 3 の画面が表示されます。

送信を中断したい場合---

送信を中断したい場合は、DISP. ボタンを押してください。▶（再生）ボタン、シャッターボタンを押した場合でも、送信は中断されます。

メモ --

拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズをあらかじめ設定しておくことができます。

撮影モードで画像を送信する（無線 LAN）

拡張設定メニュー（☞P.98）の［クイック送信モード］を使用すると、撮影直後に画像を送信できます（クイックビュー送信）。

設定	内容
OFF	クイックビュー送信を行いません。
1TOUCH	撮影直後の確認画面で MENU/OK ボタンを押すと、画像を送信します。送信できるのは静止画のみです。
2TOUCH	撮影後、▶ ボタンを押すとクイックレビュー画面に切り替わります。クイックレビュー画面で MENU/OK ボタンを押すと、画像を送信します。動画も送信できます。［GPS ロック］（☞P.99）が［ON］の場合、使用できません。
AUTO	撮影した画像を確認せずに自動的に送信します。拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズを設定しても、リサイズされません。

注意

- 画像を送信する前に、パソコンで送信リストを作成し、カメラに転送してください（☞P.123）。送信リストをカメラに転送していなかったり、送信先の設定内容が誤っていたりすると、クイックビュー送信ができません。
- 以下の場合は、［クイック送信モード］を［OFF］以外に設定していても、画像をクイックビュー送信することはできません。
  - シーンモード時（☞P.52）
  - 撮影設定メニュー（☞P.62）の［連写］（☞P.64）を［ON］に設定している場合
- 画像の送信中はフラッシュの充電が停止します。光学ズームも使用できません。

メモ

- クイックビュー送信を使用する場合は、あらかじめ送信先の機器（パソコン）の電源が入っていることを確認してから撮影してください。
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信自動削除］（☞P.104）で画像を送信した後、送信済みの画像をカメラから自動的に削除するかどうか設定することができます。

クイックビュー送信後に接続を切断するには

クイックビュー送信完了後に接続を切断する場合は、再生モードに切り替えるか、カメラの電源をオフにしてください。

送信を中断したい場合

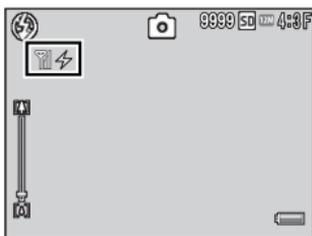
送信を中断したい場合は、DISP. ボタンを押してください。▶（再生）ボタン、シャッターボタンを押した場合、またモードダイヤルを回した場合でも、送信は中断されます。カメラの電源をオフにした場合も、送信を中断して電源がオフになります。

クイックビュー送信をする

［クイック送信モード］を［1TOUCH］に設定している場合

撮影後の画像確認時間中に MENU/OK ボタンを押すと、撮影した画像を送信できます。セットアップメニュー（☞P.82）の［画像確認画面］（☞P.84）で設定した時間内に MENU/OK ボタンを押さないと、画像は送信されません。画像確認時間は長めに設定しておくことをお勧めします。

拡張設定メニューの［送信先選択］で選択した送信先（☞P.102）に送信を開始します。選択していない場合は、［送信先選択］で一番上に表示されている送信先が自動的に選択されます。

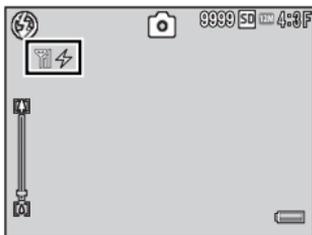
接続中は画像モニターに無線 LAN のアンテナアイコンが表示されます。送信が完了すると、送信先と接続した状態で撮影モードに戻ります。再生モードに切り替えるか、カメラの電源をオフにするまで接続状態が続きます。

- 以下の場合は、［1TOUCH］に設定していても画像をクイックビュー送信できません。
  - ［画像確認画面］を［OFF］に設定している場合
  - ［オートブラケット］を［ON］または［WB-BKT］に設定している場合
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズを設定しても、リサイズされません。

［クイック送信モード］を［2TOUCH］に設定している場合

1 撮影後に ▶ ボタンを押す

- 画像を送信するかどうか確認する画面が表示されます。

2 MENU/OK ボタンを押す

- 送信先の機器へ送信を開始し、進行状況が表示されます。
- 接続中は画像モニターに無線 LAN のアンテナアイコンが表示されます。送信が完了すると、送信先と接続した状態で撮影モードに戻ります。再生モードに切り替えるか、カメラの電源をオフにするまで接続状態が続きます。

はじめて［2TOUCH］で送信する場合

- はじめて［2TOUCH］で画像を送信する場合、送信先の機器を選択する必要があります。
- ［送信先選択画面］（☞P.102）が［ON］の場合のみ［送信先］一覧画面が表示されます。［OFF］の場合は［送信先選択］で設定した送信先に画像が送信されます。
- 送信先を ▲▼ ボタンで選択して MENU/OK ボタンを押すと、送信が開始されます。

メモ

- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS ロック］（☞P.99）を［ON］にしている場合は、［2TOUCH］に設定していても、画像をクイックビュー送信できません。
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズをあらかじめ設定しておくことができます。

送信先の機器を変更したい場合

前回送信した送信先の設定は、カメラと送信先の機器との接続を解除したり、カメラの電源をオフにしたりしても、保持されます。送信先の機器を変更したい場合は、一度再生モードの［ファイル送信］（☞P.74）で変更したい機器に画像を送信するか、拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信先選択］（☞P.102）で送信先を選択してください。

［クイック送信モード］を［AUTO］に設定している場合

撮影後、自動的に前回の送信先へ撮影した画像を送信できます。

注意

拡張設定メニュー（☞P.98）の［送信画像サイズ］（☞P.103）で送信する画像サイズを設定しても、リサイズされません。

GPS 機能について

カメラに GPS ユニットを接続して撮影すると、GPS 情報 (緯度／経度／電子コンパス情報など) を取得して記録できます。本カメラには別売り品の GPS ユニット GP-1 または Bluetooth® GPS ユニットが接続できます。

注意

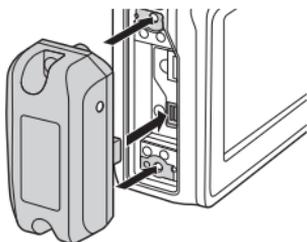
- GPS 情報は、文字モードの静止画には記録できません。
- 地理的状況によって、GPS 情報が取得できない場合があります。
- 状況によって、測位に時間がかかる場合があります。
- GPS ユニット GP-1 と Bluetooth® GPS ユニットを同時に使用した場合、どちらを優先するかは拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS データ選択］（☞P.100）で設定できます。

GPS ユニットを接続するには

GPS ユニット GP-1（別売り品）を接続する

別売り品の GPS ユニット GP-1 を接続すると、特別な設定をすることなく自動的に GPS 情報を取得できます。

GPS ユニット GP-1 を取り付けるには

GP-1 を取り付ける場合は、付属の六角レンチを使用してカメラ側面のカバーを取り外してください。GP-1 の状態表示ランプが背面になるように接続し、固定ネジでカメラと GP-1 を固定してください。

メモ

- GP-1 には、バッテリーや電源スイッチはありません。カメラの電源をオンにすると、GP-1 に電力が供給され、GPS 情報を取得します。カメラの電源をオフにすると、GP-1 の動作が停止します。
- GP-1 を取り付け／取り外すときは、カメラの電源がオフになっていることを確認してから行ってください。

Bluetooth® GPS ユニットを接続する

Bluetooth® GPS ユニットを使用すると、無線でカメラと接続してGPS 情報を取得できます。

1 拡張設定メニュー（☞P.98）で［Bluetooth シリアル］を選び、▶ ボタンを押す

- はじめて Bluetooth® 機能を使う場合は、送信先を検索するかどうか確認する画面が表示されます。
- すでに送信先を検索したことがある場合は、［送信先］一覧画面が表示されます。手順 3 へ進んでください。

2 ◀▶ ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- Bluetooth® GPS ユニットの検索が開始され、検索が完了すると［送信先］一覧画面が表示されます。

3 ▲▼ ボタンを押して送信先を選ぶ

- ［送信先］一覧画面に送信したい機器が表示されていない場合は、ADJ. ボタンを押すと、現在の環境にある Bluetooth® GPS ユニットを検索できます。
- 送信先を選んで ▶ ボタンを押すと、送信先の詳細情報が表示されます。
- 送信先を選んで 🗑（削除）ボタンを押すと、送信先を削除できます。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 接続状況が表示されます。
- 接続先の機器にパスキーが設定されている場合は、メッセージが表示されます。MENU/OK ボタンを押してから、パスキーを入力してください（☞P.106）。
- 接続に成功すると、撮影画面にBluetooth® アンテナアイコンやGPS 情報、GPS アイコンなどが表示されます。

メモ --

最新の送信先が［送信先］一覧画面の一番上に表示されます。

シリアル接続を切断するには--

カメラの電源をオフにすると、シリアル接続が切断されます。

前回接続した Bluetooth® GPS ユニットに自動で接続するには --

- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［Bluetooth 自動接続］（☞P.103）を［ON］に設定すると、カメラの電源をオンにしたときに、前回接続した Bluetooth® GPS ユニットを検索して自動的に接続します。
- 設定後に自動接続を行う場合は、一度カメラの電源をオフにしてから再度電源をオンにしてください。前回接続した Bluetooth® GPS ユニットに対して、自動的に接続を開始します。
- 前回接続した機器が接続可能範囲（☞P.105）にない場合は、［Bluetooth 自動接続］を［ON］に設定しても接続されません。
- Bluetooth 自動接続機能は、Bluetooth® GPS ユニット使用時のみお使いください。
- 接続先の機器にパスキーが設定されている場合は、メッセージが表示されます。MENU/OK ボタンを押してから、パスキーを入力してください（☞P.106）。
- 自動接続を解除するには、拡張設定メニューの［Bluetooth 自動接続］を［OFF］に設定してカメラの電源をオフにします。その後カメラの電源をオンにしても、自動接続は行われません。

GPS 情報の表示

撮影モードの場合、GPS ユニットを接続すると、画像モニターに GPS 情報、GPS アイコンなどが表示されます。

DISP. ボタンを押して GPS 表示画面にすると、GPS 情報の詳細が表示されます。

 メモ --

- 方位の表示形式は、拡張設定メニュー（☞P.98）の［コンパス表示］（☞P.100）の設定によって異なります。
- 緯度／経度の表示位置や表示形式は、拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS 表示モード］（☞P.99）の設定によって異なります。

 測位品質について --

測位品質表示の意味は、以下の表のとおりです。

表示	内容
no fix	受信できません。
2d	NMEA-0183 フォーマットの GSA の測位モードが 2d のときに表示されます。
3d	NMEA-0183 フォーマットの GSA の測位モードが 3d のときに表示されます。
Diff	NMEA-0183 フォーマットの GGA のクオリティーが DGPS の場合に表示されます。

注意 ---

- 受信可能な衛星の数が 3 未満で GPS 情報を測位できない場合は、GPS アイコンの表示が変わります。
- 状況により測位までに時間がかかる場合もあります。

GPS 情報の保持 ---

- 受信した最新の GPS 情報は、測位不能になってもカメラ内に 10 分間保持されています。
- 拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS 測地系］（☞P.99）の設定を変更した場合は、10 分以内でも GPS 情報は消去されます。

GPS 情報付きで撮影する

画像に GPS 情報を付けて撮影します。［文字］以外のシーンモードや動画、連写撮影時にも GPS 情報付きで撮影することができます。

1 GPS が使用できる状態で、モードダイヤルを 📷/CALS に合わせる

2 画像モニターに GPS 情報や GPS アイコンなどが表示されていることを確認する

- 現在の GPS 詳細情報を確認したい場合は、DISP. ボタンを押して GPS 表示に切り替えてください。

3 シャッターボタンを押して撮影する

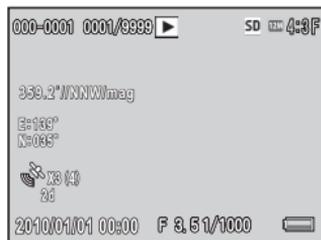
メモ ---

拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS 入力撮影］（☞P.101）、［UTC 入力撮影］（☞P.101）、［コンパス入力撮影］（☞P.101）を［ON］に設定すると、GPS 情報、UTC（協定世界時）情報、方位（電子コンパス）情報を画像に写し込んで撮影できます。

注意 --

GPS 未受信の状態でシャッターボタンを半押しすると、[NO GPS FIX] とエラーメッセージが表示されます。撮影は可能ですが、GPS 情報は記録されません。GPS 情報付きで撮影したい場合は GPS 情報が受信されてから撮影してください。

GPS 情報付きの画像を再生する

GPS 情報付きで撮影した画像を再生すると、GPS 情報が表示されます。GPS 情報が表示されない場合、DISP. ボタンを押して表示を切り替えてください。

メモ --

- カメラに保持された GPS 情報（☞P.136）を使用して撮影された画像を再生すると、緯度／経度がオレンジ色で表示されます。
- GPS 情報付きの静止画を送信することができます（☞P.105、112）。
- GPS 情報の表示は、撮影時に設定した拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS 表示モード］（☞P.99）の内容により異なります。

GPS ログの読み方 --

拡張設定メニュー（☞P.98）の［GPS ログ記録間隔］（☞P.100）を［OFF］以外に設定すると、取得した GPS 情報の履歴を、ログファイルとして SD メモリーカードに保存します。ログファイルはテキストエディタなどで開いて確認できます。ログファイルに記載される内容は以下の通りです。

例：東経 139 度 45 分 47 秒、北緯 35 度 40 分 1 秒、高度 3.5m の場所で、2010 年 10 月 8 日午前 7 時 58 分 14 秒（UTC 時間）に取得した場合

139.82972,35.66694,3.5,0,08-10-2010 07:58:14

東経　北緯　高度　トラック番号　年月日　時間

トラック番号は、GPS 情報の記録開始時に「1」と記載され、記録中の場合は「0」と記載されます。

GPS 機能の使い方

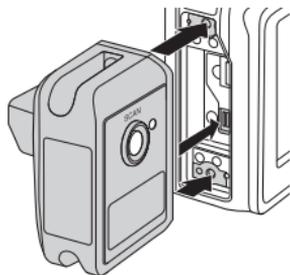
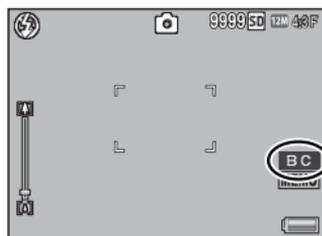
13

バーコードリーダー BR-1（別売り品）について

バーコードリーダーユニット（BR-1）を接続すると、一次元バーコードを読み取ることができます。読み込んだバーコード情報は、カメラメモ（☞P.57）に使用できます。詳しい使用方法については、BR-1の使用説明書を参照してください。

注意 --

- BR-1 を第三者に譲渡・転売しないでください。
- BR-1 の使用は、業務用途に限定してください。
- BR-1 の使用に際しては、取扱説明書および端末付属の注意事項を周知徹底の上、安全に留意して使用してください。

BR-1 を取り付ける場合は、付属の六角レンチを使用してカメラ側面のカバーを取り外してください。BR-1 の読み取りボタンが背面になるように接続し、固定ネジでカメラと BR-1 を固定してください。

カメラの電源をオンにすると BR-1 が認識され、画像モニターにアイコンが表示されます。［カメラメモ］画面で BR-1 の読み取りボタンを押すと、バーコードを読み取ります（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』P.36）。

メモ---

- BR-1には、バッテリーや電源スイッチはありません。カメラの電源をオンにすると、BR-1に電力が供給されます。カメラの電源をオフにすると、BR-1の動作が停止します。
- BR-1を取り付け／取り外すときは、カメラの電源がオフになっていることを確認してから行ってください。
- BR-1を接続している場合は、カメラ本体ではバーコードを読み取れなくなります。二次元バーコードを読み取りたい場合は、BR-1を取り外してください。
- セットアップメニュー（☞P.82）の［ロックパスワード設定･変更］（☞P.90）で、バーコードをパスワードとして設定した場合、パスワード入力時はカメラ本体でバーコードを読み取ります。

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接 USB ケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意 ---

AVI ファイル（動画）は印刷できません。

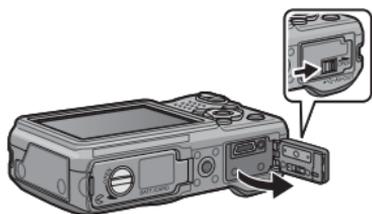
メモ ---

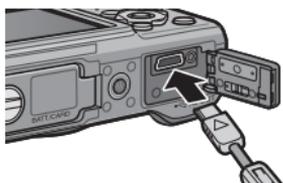
- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格である PictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターが PictBridge に対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

カメラとプリンターの接続

カメラとプリンターの接続には、付属の USB ケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 カメラの端子カバーのつまみを矢印の方向にスライドして、カバーを開ける

3 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。
- 自動的にカメラの電源がオンになります。

メモ ---

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してから USB ケーブルを外してください。

注意

- USB ケーブルは無理に差し込まないでください。
- USB ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。
- USB ケーブルを外した後は、端子カバーを確実に閉めてください。水や埃がカメラ内部に入ることがあります。

静止画の印刷

PictBridge 対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。内蔵メモリーの画像を印刷したい場合は、SD メモリーカードをセットしないでください。

注意

印刷が完了するまで、USB ケーブルを外さないでください。

メモ

- 送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。
- プリンターに接続しているのに、パソコン接続のメッセージが表示された場合は、再接続を行い、接続後 2 秒以内に ADJ./MEMO ボタンを押してください。

静止画を印刷する前に、カメラとプリンターを接続してください。プリンターが印刷できる状態の場合、［接続待ち ...］画面が表示されます。この状態で ADJ./MEMO ボタンを押すと、ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

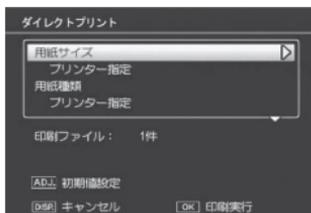
1 枚またはすべての静止画を印刷する

1 印刷したい静止画を表示して ADJ./MEMO ボタンを押す

2 ［1 ファイル］または［全ファイル］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

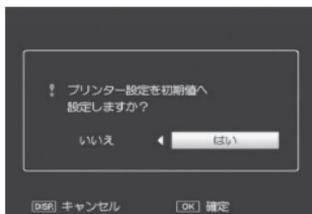
3 項目を選び、▶ ボタンを押して詳細項目を表示する

- ［接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると［接続中・・・］が消え、［ダイレクトプリント］と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。

- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。

項目名	内容
印刷部数	印刷部数を設定します。
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1 枚に何コマ印刷するかを設定します。1 枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。
帳票カメラメモ印字※	カメラメモが付いた画像を帳票印刷するときに、カメラメモの内容を帳票に印刷できます（☞P.148）。 ［帳票印刷］で選択されたレイアウトによっては、カメラメモ印字が欠ける場合があります。その場合は、カメラメモの文字数を減らしてください。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
日付印刷	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップメニューの日時設定で設定した書式になります。日付入れ撮影した静止画（☞P.65）は、印刷時に自動で印字 OFF となって印刷されます。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面／両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は 1 枚となります。P.147 の手順 3 で印刷枚数を複数枚設定しても、1 枚のみ印刷されます。

※ 各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ表示されます。

メモ

- 手順 3 の画面で ADJ./MEMO ボタンを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面で［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押してください。
- ［いいえ］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。

4 詳細項目を選び、MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。
- 手順 3、4 を繰り返して、変更したい項目を設定します。

5 MENU/OK ボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP. ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 ▣（サムネイル表示）ボタンを押して一覧表示にする

2 印刷したい静止画を表示して MENU/OK ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンを押して、印刷枚数を指定する

- ▲ ボタンを押すと枚数が増え、▼ ボタンを押すと枚数が減ります。
- 手順 2、3 を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択します。

4 MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

5 項目を選択し、▶ ボタンで詳細項目を表示する

- この後の手順は P.146 の手順 3 以降を参照してください。

メモ --

- プリンターのマーク（🖶）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1 枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

帳票印刷する

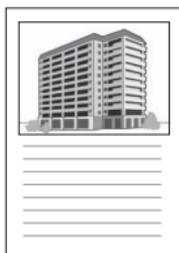
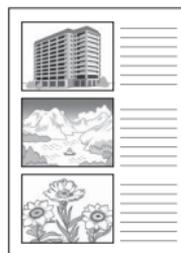
ダイレクトプリントのメニューで［帳票印刷］を設定してください。

［帳票印刷］は、［用紙サイズ］を［A4］に設定し、PictBridge に対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト例

1 コマ罫線あり	2 コマ罫線あり	3 コマ罫線あり	4 コマ罫線あり
1 コマ罫線なし	2 コマ罫線なし	3 コマ罫線なし	4 コマ罫線なし
工事写真 1	記事欄付 1	追加帳票 1 ～ 10	

帳票印刷の例

1 コマ罫線あり

2 コマ罫線あり

工事写真 1

メモ --

カメラメモを帳票印刷できるのは、List Editor の［分類項目数設定］で［5］を設定した場合のみです（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』P.24）。

画面の表示は、ご使用のパソコンの OS によって異なります。

Windows をご使用の場合

画像をパソコンに取り込むには、画像取り込みソフトウェア DL-10 を使用する方法と、しない方法があります。DL-10 は付属の CD-ROM からインストールします。

付属の CD-ROM を使うために必要な環境

付属の CD-ROM を使うためには、次の環境が必要です。ご使用のパソコンやパソコンの説明書などで、ご確認ください。

対応 OS	Windows 2000 Professional Service Pack 4（日本語版） Windows XP Home Edition Service Pack 3（日本語版）/ Professional Service Pack 3（日本語版） Windows Vista Service Pack 2（日本語版） Windows 7 32bit 版 / 64bit 版（日本語版）
CPU	Pentium® IV：1.6GHz 以上 Pentium® M：1.4GHz 以上 CoreTM 2 Duo：1.5GHz 以上
メモリー	Windows 2000 / Windows XP：512MB 以上 Windows Vista / Windows 7：1GB 以上
インストール時のハードディスクの空き容量	300MB 以上
ディスプレイの解像度	1024 × 768 ドット以上
ディスプレイの表示色	65000 色以上
CD-ROM ドライブ	上記パソコン本体で使用可能な CD-ROM ドライブ
USB ポート	上記パソコン本体で使用可能な USB ポート

注意 ---

- Windows Vista の 64bit 版には対応していません。
- OS をアップグレードしたパソコンの場合、正常に USB 機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OS のシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCI バスなど）を利用して増設した USB ポートへの接続はサポートできません。
- HUB などのほかの USB 機器との組み合わせで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。
- MediaBrowser は Windows 2000 には対応していません。

CD-ROM の構成

付属の CD-ROM をパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。

Windows 2000 / Windows XP の場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vista / Windows 7 の場合

- 自動再生画面が表示されたら、［Autorun.exe の実行］を選択してください。パソコンの画面に、インストーラー画面が表示されます。

パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。

画像加工検知ソフト EC1 をインストールできます。

『使用説明書（ソフトウェア編）』(PDF) を表示できます。

付属の CD-ROM 内のファイル一覧を表示できます。

インターネットに接続できる状態の場合、それぞれのページを表示できます。

ソフトウェアをインストールする

［ソフトウェアのインストール］をクリックすると、次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明
DL-10	画像をパソコンに一括取り込みします。
List Editor	カメラメモリストを作成するときに使います。
ME1	カメラメモの付いた静止画を閲覧・管理できます。カメラメモの編集や、静止画とカメラメモを一緒に印刷できます。
ST-10	無線 LAN の詳細設定を行うときに使います。
SR-10	ご使用のパソコンを本カメラ専用の FTP サーバーとして設定するときに使います。
MediaBrowser	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。Windows 2000 には対応していません。
USB ドライバー	リコーの過去機種と Windows 98 / Windows 98 SE / Windows Me / Windows 2000 を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIA ドライバー	リコーの過去機種と Windows XP / Windows Vista / Windows 7 を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

注意 ---

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- DC Software では、従来機種に付属していた Caplio Software とはソフトウェアの名称が以下のように異なります。

Caplio Software	DC Software
RICOH Gate La	DL-10
Caplio Viewer	DU-10
Caplio Server	SR-10
Caplio Setting	ST-10

  従来機種の付属 CD-ROM から Caplio Software をインストールしていた場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、Caplio Software をアンインストールしてから DC Software をインストールするようメッセージが表示されます。
- インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- DL-10 はネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

1 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows 2000 / Windows XP の場合

- しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

Windows Vista / Windows 7 の場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されたら、コンピュータへのアクセス要求の［許可］（Wondows 7 は［はい］）を選択してください。しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

2 言語を選択し、画面にしたがってインストールをする

- 続けて MediaBrowser のインストーラーが起動します。インストールする場合は使用許諾に同意し、画面の指示にしたがってインストールを続けてください。

3 再起動を促すメッセージが表示されたら、［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］を選択して、［完了］をクリックする

- パソコンが再起動します。
- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

4 DL-10 の［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

EC1 をインストールする

EC1 を使用すると、撮影設定メニューの［画像加工検知］（☞P.66）を［ON］に設定して撮影した静止画が、撮影後に加工・編集されているかどうかを検知して表示できます。EC1 の使用方法については、『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

1 ［EC1 のインストール］をクリックする

- ご使用の環境によっては、「Visual C++ ランタイムライブラリ（×86）」および「.NET Framework 2.0」のインストール画面が表示されます。この場合は、表示されるメッセージにしたがってインストールを行ってください。これらをインストールした後、パソコンを再起動するメッセージが表示された場合は、パソコンを再起動してください。

2 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、EC1 をインストールする

注意 --

すでに EC1 をインストールしている場合は、再インストールできません。再インストールしようとすると、EC1 の変更または削除の確認画面が表示されます。変更または削除を行わない場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

そのほかのソフトウェアをインストールする

[CD-ROM の内容を見る] をクリックすると、次のソフトウェアをインストールできます。

ソフトウェア名	説明
Adobe Reader	使用説明書（PDF ファイル）を表示するために必要なソフトウェアです。
EX1	静止画のファイル名を、カメラメモの内容と合わせた形にリネームできます。また、カメラメモの情報を CSV 形式、XML 形式、TXT 形式で書き出せます。EX1 にはサーバー用とクライアント用の 2 種類があります。

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 「MediaBrowser」フォルダ内の setup.exe をダブルクリックすると、MediaBrowser のみをインストールすることができます。

Adobe Reader をインストールする

すでに Acrobat Reader または Adobe Reader がパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

メモ --

- Adobe Readerについては、Adobe Readerのヘルプを参照してください。
- Adobe Reader 9.3 をインストールするためには、Microsoft InternetExplorer 6.0、6.0（Service Pack 2）、または 7.0、8.0、Firefox 2.0 または 3.0 が必要です。Microsoft Update より入手可能です。
- Adobe Reader 9.3 をインストールするためには、MSI(Microsoft Windows Installer) 3.1 以上が必要です。Microsoft Update より入手可能です。

1 ［CD-ROM の内容を見る］をクリックする

- CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

2 ［Adobe Reader］フォルダから使用したい言語のフォルダを開き、Adobe Reader のインストーラーをダブルクリックする

- Windows Vista / Windows 7 をご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。［続行］を選択してください。

3 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Adobe Reader をインストールする

EX1 をインストールする

EX1 の使用方法については、『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

1 ［CD-ROM の内容を見る］をクリックする

- CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

2 ［EX1］＞［EX1_for_Server］（EX1_for_Server.exe）または［EX1_for_Client］（EX1_for_Client.exe）をダブルクリックする

- Windows Vista / Windows 7 をご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。［続行］を選択してください。

3 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、EX1 をインストールする

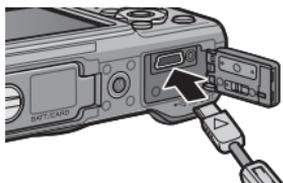
ソフトウェアを削除（アンインストール）するには-----------------

- ソフトウェアをアンインストールするには、［コントロールパネル］の［プログラムのアンインストール］（Windows XP の場合は［プログラムの追加と削除］、Windows 2000 の場合は［アプリケーションの追加と削除］）から行ってください。
- アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

画像をパソコンに取り込む

お使いのパソコンに、撮影した画像を転送します。

1 カメラとパソコンを付属の USB ケーブルで接続する

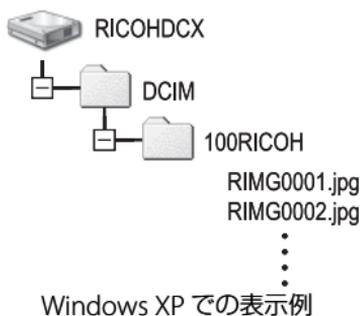
- 接続する前は必ずカメラの電源をオフにしてください。
- 接続すると、カメラの電源がオンになります。

2 画像をパソコンに取り込む

DL-10 がインストールされている場合：

- DL-10 が自動的に起動して画像の転送が開始されます。
- DL-10 は［マイドキュメント］フォルダの中に自動的に［Digital Camera］フォルダを作成し、取り込んだ画像を撮影日ごとのフォルダに保存します。詳しくは CD-ROM に収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

DL-10 がインストールされていない場合：

- 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーします。
- SD メモリーカードがセットされているときは SD メモリーカードのファイル、SD メモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルが表示されます。

Windows XP での表示例

3 転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する

- タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックしてから、［USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ（E:）を安全に取り外します］を選択します。ドライブの表示は、ご使用のパソコンによって異なります。その後 USB ケーブルを取り外してください。
- Windows 7 でアイコンが見つからない場合、タスクバーの ▲ ボタンをクリックしてください。

注意 ---

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- USB ケーブルを無理に差し込んだり、差し込んだ状態で無理な力を加えたりしないでください。USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。
- USB ケーブルを外した後は、端子カバーを確実に閉めてください。水や埃がカメラ内部に入ることがあります。

メモ ---

本機にはパソコン内の画像を表示、編集するソフトウェア MediaBrowser が付属しています。MediaBrowser の使い方については、MediaBrowser のヘルプを参照してください。
MediaBrowser についての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/mediabrowser/j/）を参照してください。

Macintosh をご使用の場合

本カメラは、以下の OS に対応しています。

- Mac OS 9.0 〜 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 〜 10.6.3

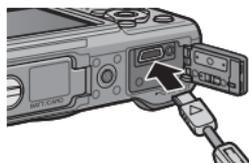
注意 --

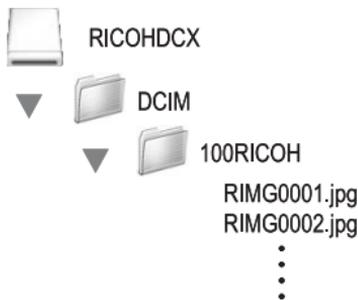
Macintosh では、CD-ROM に含まれているソフトウェアは使用できません。『使用説明書（ソフトウェア編）』は表示できます（Mac OS 9 環境の場合、Acrobat Reader がインストールされている必要があります）。

画像をパソコンに取り込む

お使いのパソコンに、撮影した画像を転送します。

1 カメラとパソコンを付属の USB ケーブルで接続する

- 接続する前は必ずカメラの電源をオフにしてください。
- 接続すると、カメラの電源がオンになります。

2 画像をパソコンに取り込む

- 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーします。
- SD メモリーカードがセットされているときは SD メモリーカードのファイル、SD メモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルが表示されます。

3 転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する

- 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップしてから USB ケーブルを取り外してください。

注意 --

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたりUSBケーブルを抜いたりしないでください。
- USBケーブルを無理に差し込んだり、差し込んだ状態で無理な力を加えたりしないでください。USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。
- Mac OS 9の場合は［特別］メニューで、Mac OS Xの場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- Macintoshに接続すると、SDメモリーカードに「FINDER.DAT」「.DS_Store」が書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。気になる場合は、SDメモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。
- USBケーブルを外した後は、端子カバーを確実に閉めてください。水や埃がカメラ内部に入ることがあります。

お困りのときは

エラーメッセージ

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の参照先を確認して対処してください。

通信関連以外のエラーメッセージ

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
カードをいれてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.27
日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.86
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.86
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.24
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.79
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.25
SD WORM カード使用時は、利用できない機能です。	SD WORM カードを使用していると利用できない機能です。他の SD メモリーカードをご使用ください。	P.24
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.41 P.83
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を 0 にしてください。	P.147
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.83
カードを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.83
使用できないカードです。	再度初期化しなおしてください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.83
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
メモリー容量不足です。記録できません。	記録可能枚数が 0 枚になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.24
ファイル復元可能なファイルが見つかりません。	復元できるファイルがありません。	P.74

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
○○ * できません。	このカメラで撮影した画像ではありません。撮影したカメラで処理を実行してください。また、一部に繰り返して実行できない処理があります。	−

*「○○」には画像サイズ変更やトリミング、階調補正、斜め補正などが入ります。

Bluetooth® 関連のエラーメッセージ

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
送信できないファイルです。	静止画（.JPG）以外の画像を送信しようとしています。静止画（.JPG）以外の画像は送信できません。	P.105
接続機器の認証が失敗しました。	入力したパスキーが送信先機器のパスキーと一致していません。正しいパスキーを入力してください。	−
	パスキー入力の制限時間を超えています。制限時間内に再度パスキーを入力してください。	P.106
接続できませんでした。	下記のいずれかの原因で送信先の機器に接続できませんでした。機器の状態を確認して、はじめから操作しなおしてください。 • 送信先機器に電波が届いていない。 • 送信先機器が周辺（約 10m）に存在しない。 • 送信先機器の電源が切れている等の理由で動作していない。 • 本カメラの通信対象となる Bluetooth® Profile に、送信先機器が対応していない。 • 送信先に適していない機器を選択している。 • 送信先機器の空き容量が不足している。	P.105
送信できませんでした。	下記のいずれかの原因で送信できなくなりました。機器の状態を確認して、はじめから操作しなおしてください。 • 送信先機器に電波が届かなくなった。 • 送信先機器が受信できない状態になった。 • 送信先機器の空き容量が不足している。	−

無線 LAN 関連のエラーメッセージ

通信および送信設定に関するエラー

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
接続に失敗しました。	何らかの原因で接続できませんでした。送信設定の内容を確認してください。	P.116 P.127
送信方法が設定されていません。	送信設定で［送信方法］が選択されていません。［FTP 送信］を選択してください。	P.123
アクセスポイントに接続できませんでした。	送信先のアクセスポイントの電源が切れている等の理由で、動作していません。アクセスポイントを確認してください。	−
	送信設定の設定内容が間違っています。送信設定の設定内容を確認してください。	P.116
ネットワーク上に同じ IP アドレスがあります。	送信先のネットワークにカメラと同じ IP アドレスが存在します。詳細設定の［ネットワーク］タブで［IP アドレス］を確認してください。	P.116

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
LAN 設定が違います。	カメラの電源をオンにしてから最初に接続した送信先と、詳細設定の［ネットワーク］タブまたは［無線 LAN］タブの設定内容が異なります。詳細設定の［ネットワーク］タブまたは［無線 LAN］タブの設定内容が異なる送信先に送信したい場合は、あらかじめ送信先を変更し、カメラの電源をオフ／オンしてから再度送信してください。	P.116 P.117
送信先が登録されていません。	送信リストがカメラに読み込まれていません。送信リストをカメラに読み込ませてから送信しなおしてください。	P.123
ネットワークキーサイズが不正です。	カメラで［無線 LAN 接続設定］の［暗号化 / 認証方式］を変更した場合は、ネットワークキーを確認してください。 •［暗号化 / 認証方式］を［WEP/OPEN］または［WEP/SHARED］に設定した場合は、［ネットワークキー］は以下のとおり入力してください。 ［文字］の場合：5 文字もしくは 13 文字 ［16 進］の場合：10 文字もしくは 26 文字 •［暗号化 / 認証方式］を［AES/WPA-PSK］、［AES/WPA2-PSK］、［TKIP/WPA-PSK］、［TKIP/WPA2-PSK］に設定した場合は、［ネットワークキー］は以下のとおり入力してください。 ［文字］の場合：8 ～ 63 文字 ［16 進］の場合：64 文字	P.117 P.118
アクセスポイントがみつかりませんでした。	［簡易接続選択］の［WPS ボタン接続］または［WPS PIN 接続］で接続可能な無線 LAN アクセスポイントが見つかりませんでした。機器の状態を確認して、はじめから操作しなおしてください。 •送信先機器に電波が届いていない。 •送信先機器が周辺（約 30m）に存在しない。	P.128
接続情報がありません。	接続した無線 LAN アクセスポイントの情報がありません。［簡易接続選択］を［OFF］以外にして無線 LAN アクセスポイントと接続してください。	P.128

FTP 送信の設定に関するエラー

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
転送先サーバーが入力されていません。	詳細設定の［FTP 送信］タブで、［サーバー名］が入力されていません。［サーバー名］を入力してください。	P.118
IP アドレスが取得できませんでした。	送信先サーバーの IP アドレスが取得できませんでした。詳細設定の［FTP 送信］タブで、正しい［サーバー名］を入力してください。	P.118
サーバーが応答しません。	送信先サーバーが応答しません。FTP 送信の詳細設定を確認してください。	P.118
サーバーに接続できませんでした。	送信先サーバーに接続できませんでした。FTP 送信の詳細設定を確認してください。	P.118
指定のユーザー名かパスワードに誤りがあります。	［ユーザー名］または［パスワード］が間違っています。詳細設定の［FTP 送信］タブで、正しい［ユーザー名］と［パスワード］を入力してください。	P.119

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
指定したホルダーがありません。	送信先に指定した受信フォルダがありません。詳細設定の［FTP 送信］タブで、正しい［フォルダ名］を入力してください。	P.119
送信できませんでした。	何らかの原因で送信できませんでした。FTP 送信の詳細設定を確認してください。	P.118
サーバーエラーです。	接続完了後、サーバーからエラーが送信されました。再度送信しなおしてください。	–

メモ --

上記の対処法で改善されない場合は、お客様相談センターまたはお買い上げ店までご連絡ください。

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.23）使用時は新品電池に交換する。	P.26 P.27 P.179
	使用できない電池を使用している。	専用の電池、または使用可能な乾電池（☞P.23）を使う。	P.23
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.29
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす。	P.179
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.27
	カメラが高温になったため、電源が自動的に切れている。	そのまま温度が下がるまで待ち、電源を再投入する。なお、急激に温度を下げることはしないでください。	―
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.29
	電池が消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.23）使用時は新品電池に交換する。	P.26 P.27 P.179
	使用できない電池を使用している。	専用の電池、または使用可能な乾電池（☞P.23）を使う。	P.23
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.27 P.179
充電したばかりなのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用の電池、または使用可能な乾電池（☞P.23）を使う。	P.23
電池を充電できない。	電池の寿命。	新しい電池に交換する。	P.27
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	―	―
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	―	―

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.23）使用時は新品電池に交換する。	P.26 P.27 P.179
	電源が入っていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.29
	再生モードになっている。	▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.29
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.32
	SD メモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.83
	SD メモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.41 P.27
	SD メモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.27
	フラッシュが充電中。	オートフォーカス／フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.35
	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.25
	SD メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	－
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.84
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.29 P.83
	ビデオケーブル／ AV ケーブルを差した状態になっている。	ビデオケーブル／ AV ケーブルを抜く。	－
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.44
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	－
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.31
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.31 P.67
ピントが合っていないのに、画像モニター中央に緑の枠が表示される。	被写体との距離が近すぎるため、疑合焦された。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.34

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。（ マークが表示される）	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両ひじを身体に付けて構える。 三脚を使用する。 手ブレ補正機能を使う。	P.31 P.65
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO 感度を上げる。 手ブレ補正機能を使う。	P.35 P.71 P.65
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • ブラケット撮影 • 連写モード • 動画モード また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている場合がある。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.35 P.169
	フラッシュが発光禁止になっている。	発光禁止を解除する。	P.35
	電池が消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.23）使用時は新品電池に交換する。	P.26 P.27 P.179
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、フラッシュの光が届く範囲を超えている。	被写体に近づいて撮影する。ISO 感度を変更する。	P.71 P.171
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.69
ADJ. ボタンの機能が使用できない。	SD メモリーカードにカメラメモリストが保存されている。	カメラの［TEMPLATE］フォルダの *.mta ファイルを削除する。	－
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.35
	露出がオーバーしている。（[!AE］マークが表示される）	露出補正を行う。 長時間露光を解除する。	P.69 P.64
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.83
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	発光禁止を解除する。	P.35
	露出が不足している。（[!AE］マークが表示される）	露出補正を行う。 長時間露光を設定する。	P.69 P.64
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.83

症状	原因	処置	参照先
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.70
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.44
AF 動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	ー
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写している。	スミア現象といい、故障ではありません。	ー
水平インジケーターが表示されない。	［水準器設定］を［OFF］または［音のみ］に設定している。	［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定する。	P.46
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP. ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.44
	カメラが上下逆さま（シャッターボタンが下向き）になっている。	カメラを正しく構える。	—
水平インジケーターの目盛りが真中を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	—
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	—

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.38
	ビデオケーブル／ AV ケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす。	P.81
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.86
SD メモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SD メモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていない SD メモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	ー
	本機で初期化していない SD メモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.83 P.27
	正常に記録されていない SD メモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	ー
	SD メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
	使用中の SD メモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	ー
画面が消えた。	電池が消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.23）使用時は新品電池に交換する。	P.26 P.27 P.179
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.29
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.79
	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.25
SD メモリーカードを初期化できない。	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.25

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.27
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.23）使用時は新品電池に交換する。	P.26 P.27 P.179
	カメラの誤動作。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.29
		電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.29 P.179
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.86
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約3日間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定しなおす。	P.86
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが［OFF］になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.84
操作音が鳴らない。	消音が設定されている。	［操作音音量設定］で音量なし以外を設定する。	P.84
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.86
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.81
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	－

各撮影モードで設定できる機能

各撮影モードで設定できる機能は以下のとおりです。

				CALS	SCENE					
（マクロ）[*1]			○	○	○	○	○	○	—	○
（フラッシュ）			○	○	○	○	○	○	○	—
（セルフタイマー）[*2]			○	○	○	○	○	○	○	—
デジタルズーム[*3]			○	○	○	○	○	○	○	○
撮影設定メニュー	文字濃度		—	—	—	—	—	○	—	—
	サイズ		—	—	—	—	—	○	—	—
	動画サイズ		—	—	—	—	—	—	—	○
	画質・サイズ		○	—[*4]	○	○	○[*5]	—	○	—
	フォーカス	マルチ AF[*6]	○	○	○	○	○	—	—	○
		スポット AF	○	○	○	○	○	—	—	○
		AF	—	—	—	—	—	—	○	—
		MF	○	○	—	—	○	—	○	○
		スナップ	○	○	○	○	○	—	—	○
		∞	○	○	○	○	○	—	—	○
	測光		○	○	—	—	○	—	○	—
	連写[*7 *8]		○	○	—	—	—	—	○	—
	画像設定		○	○	—	—	○	—	○	—
	オートブラケット[*8 *9]		○	○	—	—	—	—	○	—
	長時間露光[*10]		○	○	—	—	—	—	○	—
	インターバル撮影[*11]		○	○	—	—	—	—	—	—
	手ブレ補正[*12]		○	○	○	○	○	○	○	—
	日付入れ撮影		○	○	○	○	○	○	○	—

*1 ［フォーカス］は［スポット AF］に固定。［フォーカス］が［MF］の場合、動作しない
*2 ［連写］または［インターバル撮影］を設定すると、セルフタイマーは無効
*3 ［フォーカス］を［MF］に設定し、拡大表示している場合は動作しない
*4 CALS モードでの画質・サイズはセットアップメニューの［CALS 画質・サイズ］で設定
*5 ［1M 4:3F］、［1M 4:3N］または［VGA 4:3F］のみ選択可
*6 デジタルズーム時は［スポット AF］として動作
*7 ［インターバル撮影］を設定すると、連写は無効
*8 フラッシュは発光禁止
*9 ［連写］を設定すると、オートブラケットは無効
*10 ［連写］または［オートブラケット］を設定すると、長時間露光は無効
*11 セルフタイマーを設定するとインターバル撮影は無効
*12 ［長時間露光］、［連写］使用時、フラッシュのモードを［強制発光］/［強制発光 10M］/［スローシンクロ］に設定した場合、またはセルフタイマーを 10 秒に設定した場合は使用不可

			〇 (撮影モード)	CALS	SCENE					
撮影設定メニュー	露出補正		○	○	○	○	○	—	○	—
	ホワイトバランス *13		○	○	○	○	○	—	○	○
	ISO 感度		○	○	—	—	○	—	○	—
	画像加工検知 *14		○	○	○	○	○	○	○	—
	撮影設定初期化		○	—	—	—	—	—	—	—
セットアップメニュー	ADJ. ボタン設定 1 ～ 4 *15	OFF	○	○	—	—	—	—	—	—
		露出補正	○	○	○	○	○	—	○	—
		ホワイトバランス	○	○	○	○	○	—	○	○
		ISO	○	○	—	—	—	—	—	—
		画質	○	—	—	—	—	—	—	—
		フォーカス	○	○	—	—	—	—	—	—
		画像設定	○	○	—	—	—	—	—	—
		測光	○	○	—	—	—	—	—	—
		連写	○	○	—	—	—	—	—	—
		オートブラケット	○	○	—	—	—	—	—	—
		文字濃度	—	—	—	—	—	○	—	—
	撮影情報表示フレーム		○	○	○	○	○	○	○	—
	上記以外		○	○	○	○	○	○	○	○

*13［画像設定］が［白黒］の場合は使用不可

*14［連写］または［オートブラケット］を設定すると、画像加工検知は無効

*15 シーンモードでは ADJ. ボタンに登録された機能にかかわらず、ADJ. ボタンを押した時に表示される機能は固定されています

主な仕様

カメラ部有効画素数		約 1210 万画素
撮像素子		1/2.3 型 CCD（総画素数約 1240 万画素）
レンズ	焦点距離	5.0 ～ 25mm（35mm 換算値 28 ～ 140mm）
	F 値	F3.5 ～ F5.5
	撮影距離	通常撮影：約 30cm ～∞（広角）、約 50cm ～∞（望遠）（レンズ先端から）
	範囲	マクロ撮影：約 1cm ～∞（広角）、約 15cm ～∞（望遠）、約 1cm ～∞（ズームマクロ）（レンズ先端から）
	レンズ構成	9 群 11 枚＋プリズム 1 個
ズーム倍率		光学ズーム 5.0 倍、デジタルズーム 4.0 倍、オートリサイズズーム約 6.3 倍（画像は VGA）
フォーカスモード		マルチ AF（CCD 方式）／スポット AF（CCD 方式）／マニュアルフォーカス／スナップ／∞（AF 補助光あり）
ブレ補正機能		電子式ブレ補正機能
シャッタースピード	静止画	8 秒、4 秒、2 秒、1 ～ 1/1500 秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります）
	動画	1/30 ～ 1/10000 秒
露出制御	測光モード	マルチ（256 分割）／中央重点測光／スポット測光（TTL-CCD 測光式）
	露出制御モード	プログラム AE
	露出補正	マニュアル補正（+2.0 ～ -2.0EV 1/3EV ステップ）、オートブラケット機能（-0.5EV、± 0、+0.5EV）
	露出連動範囲（オート撮影モード・中央重点測光時）	広角 :1.7 ～ 15.4EV 望遠 :3.0 ～ 15.6EV （ISO AUTO の連動範囲を ISO 100 の EV 値にて換算） ※ 6.0EV 以下の環境下では 1.0EV 下がるごとに 0.25EV 低輝度側にシフトして撮影されます。シフト量は最大で 1.0EV までとなります。
ISO 感度（標準出力感度）		AUTO ／ ISO 64 ／ ISO 100 ／ ISO 200 ／ ISO 400 ／ ISO 800 ／ ISO 1600 ／ ISO 3200
ホワイトバランスモード		オート／屋外／曇天／白熱灯 1 ／白熱灯 2 ／蛍光灯／手動設定／リングライト、ホワイトバランスブラケット機能
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）／赤目軽減／強制発光／強制発光 10M ／スローシンクロ／発光禁止
	調光範囲	約 20cm ～ 10.0m（広角）、約 40cm ～ 6.2m（望遠）（ISO AUTO ／ ISO 1600、レンズ先端から）
	充電時間	約 8 秒間
画像モニター		3.0 型 透過型液晶、約 92 万ドット
撮影モード		オート撮影モード／シーンモード（高感度／消防／斜め補正／文字／ズームマクロ／動画）／マイセッティングモード／ CALS モード
画質モード [*1]		F(Fine)、N(Normal)

記録画素数	静止画	4000 × 3000、3984 × 2656、2592 × 1944、2048 × 1536、1600 × 1200、1280 × 960、640 × 480
	動画	1280 × 720、640 × 480、320 × 240
	文字	4000 × 3000、2048 × 1536
記録媒体		SD メモリーカード、SDHC メモリーカード（32GB まで）、SD WORM カード、内蔵メモリー（約 103MB）
記録データ容量	4000 × 3000	N：約 2713KB ／画面、F：約 4735KB ／画面
	3984 × 2656	F：約 4177KB ／画面
	2592 × 1944	F：約 2281KB ／画面
	2048 × 1536	F：約 1431KB ／画面
	1600 × 1200	F：約 880KB ／画面
	1280 × 960	N：約 363KB ／画面、F：約 708KB ／画面
	640 × 480	F：約 190KB ／画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG（Exif ver2.21）*2
	動画	AVI（Open DML Motion JPEG フォーマット準拠）
	圧縮方式	JPEG ベースライン方式準拠（静止画、動画）
その他主要撮影機能		連写、セルフタイマー（作動時間：約 10 秒／約 2 秒）、インターバルタイマー（撮影間隔：5 秒〜 3 時間、5 秒単位）*3、AE/AF ターゲット移動、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、電子水準器
その他主要再生機能		一覧表示、拡大表示（拡大倍率最大 16 倍）、画像サイズ変更、階調補正、斜め補正、トリミング、スライドショー、DPOF 設定
外部インターフェース		USB2.0（High-Speed USB）Mini-B、マスストレージ対応 *4、AV OUT 1.0Vp-p（75 Ω）
ビデオ信号方式		NTSC、PAL 切り替え
電源		電池（DB-65）：3.6V
		AC アダプター（AC-5c　オプション）：3.8V
電池寿命 *5		CIPA 規格準拠　DB-65 使用時：約 360 枚、単四形アルカリ乾電池使用時：約 40 枚 *6 （[画像モニター節電］が［ON］のとき *7）
外形・寸法		118.8mm（幅）× 71.0mm（高さ）× 41.0mm（奥行き）（CIPA ガイドラインによる）
質量		約 314g（付属電池および SD メモリーカードを含む） 約 286g（本体のみ）
三脚ネジ穴形状		1/4-20UNC
デート保持時間		約 3 日間
使用温度範囲		-10℃〜 40℃
使用湿度範囲		90% 以下
保存温度範囲		-20℃〜 60℃
防水・防塵		本体のみ：JIS/IEC 防水保護等級 8 級、JIS/IEC 防塵保護等級 6 級（IP68） 別売り品 GP-1 または BR-1 取り付け時：JIS/IEC 防水保護等級 4 級、JIS/IEC 防塵保護等級 6 級（IP64）

*1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
*2 DCF 準拠、DPOF 対応。DCF は JEITA で標準化された Design rule for Camera File system の略称です（機器間の完全な互換性を保証するものではありません）。
*3 フラッシュ OFF 時
*4 マスストレージは、Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Mac OS 9.0 ～ 9.2.2, Mac OS X 10.1.2 ～ 10.6.3 に対応しています。
*5 撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なり、目安となります。
*6 パナソニック株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用。
*7 ［画像モニター節電］が［OFF］の場合は、DB-65 使用時約 360 枚、単四形アルカリ乾電池使用時約 40 枚となります。

Bluetooth® 通信部

通信方式	Bluetooth® 標準規格 Ver.2.1+EDR
出力	Bluetooth® 標準規格 Power Class 2
通信距離 *1	見通し距離約 10m
対応 Bluetooth® Profile*2	BIP、OPP、SPP
使用周波数帯	2.4GHz 帯（2.400GHz ～ 2.4835GHz）

*1 通信機器間の障害物や電波状況、使用するソフトウェア、OS などにより変化します。
*2 Bluetooth® 対応機器同士の使用目的に応じた仕様のことで、Bluetooth® 標準規格で定められています。

無線 LAN 通信部

準拠規格	IEEE802.11b/g
伝送方式	IEEE802.11g：OFDM IEEE802.11b：DSSS、DQPSK、DBPSK
データ転送速度 *1	IEEE802.11g：54M/48M/36M/24M/18M/12M/9M/6M(bps) IEEE802.11b：11M/5.5M/2M/1M(bps)
通信距離 *2	約 30m 設置場所、使用環境、使用条件によって変化する場合があります。
セキュリティ	WEP(64/128bit)、WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)
使用周波数帯	2.4GHz 帯（2.412 ～ 2.462GHz）

*1 数値は無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*2 通信機器間の障害物や電波状況、設置場所、使用環境、使用条件、使用するソフトウェア、OS などにより変化します。

内蔵メモリー／ SD メモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／ SD メモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画像サイズ	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
📷 CALS SCENE（動画、文字以外）	12M 4:3F	22	202	412	810	1648	3316	6653
	12M 4:3N	38	351	714	1403	2856	5746	11527
	10M 3:2F	25	229	465	914	1860	3743	7510
	5M 4:3F	45	416	842	1653	3364	6769	13580
	3M 4:3F	72	657	1336	2623	5339	10743	21551
	2M 4:3F	116	1060	2119	4162	8469	17041	34184
	1M 4:3F	141	1286	2561	5029	10234	20591	41306
	1M 4:3N	265	2418	4728	9284	18894	38015	76258
	VGA 4:3F	509	4650	8781	17242	35089	70600	141622
SCENE（文字）	12M 4:3	38	351	714	1403	2856	5746	11527
	3M 4:3	72	657	1336	2623	5339	10743	21551
SCENE（動画）	HD 1280	20 秒	3 分 3 秒	6 分 13 秒	12 分 14 秒	24 分 54 秒	50 分 6 秒	100 分 31 秒
	VGA 640	58 秒	8 分 54 秒	18 分 7 秒	35 分 35 秒	72 分 24 秒	145 分 42 秒	292 分 16 秒
	QVGA 320	2 分 22 秒	21 分 34 秒	43 分 53 秒	86 分 10 秒	175 分 22 秒	352 分 50 秒	707 分 47 秒

メモ

- 記録可能枚数は、カメラメモリストや音声メモなどのシステムファイルが内蔵メモリー／ SD メモリーカードに存在しない場合の目安です。
- SD WORM カード使用時は、通常の SD メモリーカード使用時よりも記録可能枚数が少なくなります。容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画像サイズ	128MB	1GB
📷 CALS SCENE（動画、文字以外）	12M 4:3F	25	198
	12M 4:3N	43	338
	10M 3:2F	29	229
	5M 4:3F	51	399
	3M 4:3F	79	614
	2M 4:3F	124	956
	1M 4:3F	147	1137
	1M 4:3N	252	1944
	VGA 4:3F	412	3172

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間の目安です。1 回の撮影で記録可能な動画の容量は、最大 4GB までです。[動画サイズ]が[HD 1280]の場合は最大約 12 分、[VGA 640]または[QVGA 320]の場合は最大約 29 分まで記録可能です。
- [動画サイズ](☞P.63)を[HD 1280]に設定して動画を撮影する場合は、SD スピードクラスが Class6 以上の SD/SDHC メモリーカードのご使用をお勧めします。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先(内蔵メモリーまたは SD メモリーカード)の容量や撮影条件、SD メモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 画像サイズは用途に合わせて選択してください。

画像サイズ	向いている用途
12M 4:3F / 12M 4:3N / 10M 3:2F	• 大きくプリントする • パソコンに取り込んでトリミングなどの加工を行う
5M 4:3F / 3M 4:3F	• プリントする
2M 4:3F / 1M 4:3F / 1M 4:3N	• 枚数を多く撮る
VGA 4:3F	• 枚数を多く撮る • メールに添付する • ホームページ用の画像として使用する

初期値／電源オフで初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
撮影	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	12M 4:3
	動画サイズ	○	HD 1280
	画質・サイズ	○	12M 4:3N
	画質・サイズ（斜め補正）	○	1M 4:3F
	フォーカス	○	マルチ AF
	フォーカス（消防）	○	スナップ
	測光	○	マルチ
	連写	×	OFF
	画像設定	○	スタンダード
	オートブラケット	○	OFF
	長時間露光	○	OFF
	インターバル撮影	×	0 秒
	手ブレ補正	○	OFF
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	AUTO
	ISO 感度	○	AUTO
	画像加工検知	○	OFF
	マクロ	○	マクロ　オフ
	フラッシュ	○	発光禁止
	セルフタイマー	×	OFF
再生	音量	○	－
セットアップ	画像モニター輝度調節	○	－
	マイセッティング登録	○	－
	ステップズーム	○	OFF
	ADJ. ボタン設定 1	○	露出補正
	ADJ. ボタン設定 2	○	ホワイトバランス
	ADJ. ボタン設定 3	○	ISO
	ADJ. ボタン設定 4	○	画質

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
セットアップ	AF 補助光	○	ON
	操作音	○	すべて
	操作音音量設定	○	■■□（中）
	画像確認時間	○	0.5 秒
	オートパワーオフ	○	30 分
	画像モニターオフ	○	OFF
	画像モニター節電	○	ON
	デジタルズーム切替	○	通常
	水準器設定	○	表示のみ
	グリッドガイド表示設定	○	⊞
	撮影情報表示フレーム	○	OFF
	縦横自動回転再生	○	ON
	カード連続 NO.	○	OFF
	日時設定	○	－
	Language ／言語	○	(*1)
	ビデオ方式	○	(*1)
	CALS 画質・サイズ	○	1M 4:3N
	起動時日付表示	○	ON
	ロックパスワード設定・変更	○	－
	カメラロック設定	○	OFF
	カメラロック解除時間	○	OFF
	電源ボタン長押し設定	○	OFF
カメラメモ	カメラメモモード	○	MODE1
	メモ送りスキップ	○	項目 2
	メモ撮影済み表示	○	OFF
	メモ内容警告	○	OFF
	撮影メモ起動	○	OFF
	カメラメモインクリメント	○	OFF
	カメラメモ入力撮影	○	OFF
	カメラメモ 1 自動消去	○	OFF
	バーコード種類	○	AUTO
	バーコードモード	○	MODE1
	読み取り時間	○	3 秒
拡張設定	GPS 測地系	○	WGS-84
	GPS 表示モード	○	LAT/LON
	GPS ロック	○	OFF

(*1) 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

設定値の保持：○　　初期設定値に戻る：×

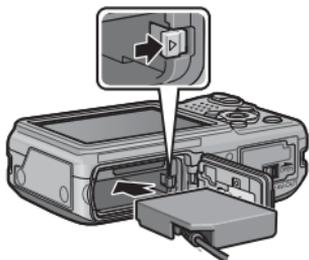
	機能		初期値
拡張設定	GPS データ選択	○	GPS オプション
	GPS ログ記録間隔	○	OFF
	コンパス表示	○	方位
	GPS 入力撮影	○	OFF
	UTC 入力撮影	○	OFF
	コンパス入力撮影	○	OFF
	測距計モード	○	MODE1
	通信切り替え	○	W-LAN
	送信先選択画面	○	ON
	簡易接続選択	○	OFF
	Bluetooth 認証パスキー	○	−
	Bluetooth 周辺機器検索個数	○	5
	Bluetooth 自動接続	○	OFF
	Bluetooth MASTER/SLAVE	○	SLAVE
	送信画像サイズ	○	640
	送信自動削除	○	OFF
	クイック送信モード	○	OFF
	Bluetooth プロファイル選択	○	OPP・BIP
	オリジナルヘルプ	○	OFF
	管理モード〔パスワード〕	○	0000

ACアダプターについて（別売り品）

動画撮影やインターバル撮影をする、画像を見るなどカメラを長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、別売りのACアダプターを使うことをお勧めします。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認し、電池／カードカバーのつまみを ⊖ 側に回してカバーを開ける

2 ACアダプターを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。

3 電池／カードカバーを閉じて電源プラグをコンセントに差し込む

- ACアダプターは、電池／カードカバーを開けたまま使用します。無理に閉じないでください。

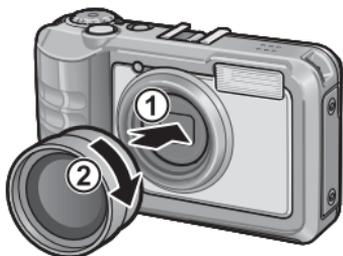
注意 --

- ACアダプターをご使用の場合、防水機能は働きません。
- ACアダプターをご使用の場合、三脚は使用できません。
- 電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターをご使用の場合、[電池マーク] 表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- ACアダプターの使用中は、ACアダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。
- 電池／カードカバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所を避けて開閉してください。

AC アダプターを取り出すには

AC アダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。AC アダプターをロックしているツメをずらすと AC アダプターが押し出されますので、つまんで取り出します。このとき AC アダプターが落下しないよう充分に注意してください。

ワイドコンバージョンレンズの使い方（別売り品）

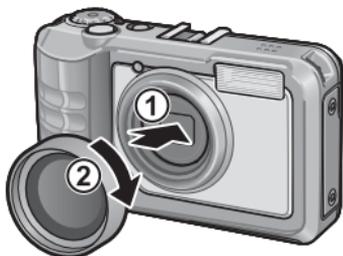
ワイドコンバージョンレンズ（DW-5）を取り付けると、レンズ倍率を 0.8 倍（35mm 換算 = 広角側で 22mm 相当）で撮影できます。

注意

- ワイドコンバージョンレンズを装着時は、ズームの位置を広角端でご使用ください。
- ワイドコンバージョンレンズ装着時は、内蔵フラッシュおよび外部フラッシュを使用しても、フラッシュの光が周辺に届かないため、撮影した画像の一部が暗くなります。

メモ

お手入れ方法や保存方法などは、ワイドコンバージョンレンズに付属の説明書をご覧ください。

外部フィルターの使い方

レンズ部には、37mm 径のフィルター（市販）を取り付けてご使用になれます。傷や結露対策に有効です。

外部フラッシュの使い方

アクセサリーシューには、外部フラッシュ（市販）などを取り付けてご使用になれます。

ご使用いただける外部フラッシュは、以下の両方の機能を持つフラッシュです。

- スレーブ発光機能（他のフラッシュの光を検知して発光する機能）
- プレ発光対応機能（プレ発光には同調せず、2 回目の発光に同調する機能）

注意 --

- アクセサリーシューは、JIS B7101 に準拠しています。
- 外部フラッシュなどで、バネ機構もしくはロック機構のないものはご使用になれません。
- プレ発光との同調を解除することができない外部フラッシュは、ご使用になれません。

メモ --

シンクロナイザ接点には対応していません。

海外でお使いのときは

AC アダプター（型名：AC-5c）、充電器（型名：BJ-6）について

交流 100 ～ 240V、50Hz/60Hz の地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証書について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生などで現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。付属の AV ケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式は NTSC と PAL に対応しています。現地のテレビ環境に合わせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

防水・防塵機能について

- 本機は、JIS/IEC 防水保護等級 8 級、JIS/IEC 防塵保護等級 6 級（IP68）に対応しています。ただし､別売り品の GPS ユニット GP-1 またはバーコードリーダー BR-1 取り付け時は防水機能のみ JIS/IEC 防水保護等級 4 級になります。
- 雨中撮影や水洗いした後に、レンズ部の鏡筒部と底面の三脚ネジ部から水がしみ出てくる場合がありますが、この部分は 2 重構造になっているため心配ありません。
- カメラ内部は、防水、防塵構造になっていません。
- 万一カメラ内部に浸水したときは、すぐに電池を抜き取り、リコー修理受付センターにご連絡ください。

使用上のご注意

- 電池／カードカバー、端子カバーを開閉する場合は、カメラに付着した水滴や砂、泥、ホコリなどの汚れを確実に除去し、内部に入らないよう注意してください。また、海水や砂が入ることがあるため、浜辺、海上、砂地では本機の開閉はできるだけ避けてください。
- 電池／カードカバー、端子カバーを開閉する場合は、軍手をしたままで操作しないでください。軍手に付着した砂やホコリなどの汚れがカメラ内部に入ることがあります。またカメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所を避けて開閉してください。
- カバーを開けたときは、内部に水滴がついていることがあります。きれいに拭き取ってからご使用ください。
- モードダイヤルは防水構造のため、長い時間放置しておくと動作が重くなることがあります。数回動作させると元に戻ります。
- 砂浜やホコリの多いところ（工事現場等）では、砂やホコリがカメラにつかないよう充分に注意してください。
- 密閉した自動車の中や海辺、浴室など、異常に温度の上がるところや湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- AC アダプター（別売り）は、必ずカメラの電源が切れている状態で接続してください。
- 電池／カードカバー、端子カバーを無理に引っ張らないでください。
- 電池／カードカバー、端子カバーを持ってカメラを持ち上げないでください。
- カメラ内部に異物（金属、水、液体）が入ったときは、すぐに使用をやめてください。次に電源を切って電池とメモリーカードを取り出し、お買い上げ店またはリコー修理受付センターにご相談ください。
- 寒冷地では、カメラに水滴が付着していると凍結することがあります。凍結したまま使用すると故障の原因になります。水滴が付着したまま放置しないでください。
- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。

- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう充分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう充分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。結露が発生した場合は、カメラから電池とメモリーカードを取り出し、水滴が消えるまで待ってから使用してください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備の電池の携帯等をお勧めいたします。

結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接当たるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れが付くと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れが付いたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 本機が汚れたときや海辺で使用した後は、電池／カードカバーや端子カバーが確実に閉まっていることを確認し、洗面器などにためた水道水で汚れ、砂、塩分を落とし、乾いた柔らかい布で水分を拭き取ってください。
- ゴムパッキンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。ゴムパッキンに異物が付着していたり、キズ等があると防水機能を保てず水漏れの原因になります。汚れが落ちないときやキズ等があるときは、お買い上げ店またはリコー修理受付センターに新しいゴムパッキンとの交換を依頼してください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナー（有機溶剤の含まれていないもの）を、柔らかい布に少量含ませて軽く拭き取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。

  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- カメラにゴミやホコリが付着しないよう、ゴミ、ケバの発生しないカメラケースなどに入れて保管してください。また、持ち運ぶ際はゴミ、ケバの付着を防止するため、ポケットなどに直接入れないでください。
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

ゴムパッキンの交換について

- 防水効果を維持するため、ゴムパッキンは汚れ、異常の有無にかかわらず、2年ごとに交換してください。頻繁に水、砂、ほこりの中で使用する場合は、1年ごとの交換をお勧めします。ゴムパッキンの交換は、リコー修理受付センターでお引き受けいたします（有料）。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池や AC アダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、当社修理受付窓口かお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. 次の場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除などによる故障
   ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧などによる故障
   ④ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障
   ⑤ バッテリー／カードカバー、端子カバーを開けた状態での、浸水、落下、泥、砂等により生じた故障
   ⑥ 保証書の添付のない場合
   ⑦ 販売店名、ご購入年月日などの記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本カメラに関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証期間内であっても、本カメラについて各部点検、精密検査などを特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
5. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップなどの付属品類および本カメラに付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
6. メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについて一切の保証はできませんので、修理にお出しになる場合には、データのバックアップをお取りください。
7. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本カメラの使用に関連するデータ損失、機会損失、利益損失、回復費用、第三者請求、その他付随的、間接的、あるいは二次的損害を始めとするあらゆる損害について当社は責任を負いません。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan.)
   国外に持ち出して修理が必要になった場合は、日本にお持ち帰りの上、修理の手続きをお願いします。
9. 販売店が独自に設けている延長保証は、本カメラの保証規定には適用されません。
10. 本カメラの補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5 年を目安に保有しております。
11. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下などで損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるものなどは修理できない場合もあります。ご了承ください。
12. 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出しください。

修理にお出しになる前

- 電池の消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- ホームページに最新の情報が掲載されていますのであわせてご確認ください。ホームページのアドレスは、使用説明書の巻末に記載されています。

修理にお出しになる際

- 故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

お願い

1. 「リコー修理受付センター」ならびに「カメラサービスセンター」では、デジタルカメラの故障に関する事項、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。
2. 修理以外の、製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せは、「リコーお客様相談センター」までお願い申し上げます。
3. 修理に関する詳細につきましては、本使用書の「保証規定」ならびに、「アフターサービスについて」をご一読いただきますようお願いします。
4. 「リコー修理受付センター」ならびに各「リコーカメラサービスセンター」への修理のお申し込みは、日本国内のみ有効です。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。

デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ホームページによる情報提供

■ 製品情報
　http://www.ricoh.co.jp/dc/

■ Ricoh Photo Style（活用＆コミュニティ）
　http://www.ricoh.co.jp/dc/photostyle/

■ サポート総合案内
　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/

■ 修理総合案内（修理料金概算などの修理全般の情報）
　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

お困りのときは

使用説明書の「お困りのときは」をご覧ください。問題が解決しないときには、下記にてご確認ください。

■ よくあるご質問（FAQ）
　製品の操作・活用について　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/faq/
　故障かなと思ったら　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/faqs/

■ リコーお客様相談センター
　ホームページ受付　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/contact/
　電話 0120-000475　FAX 0120-479417
　受付時間：9:00 ～ 18:00（土曜、日曜、祝祭日、弊社休業日を除く）
　※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。

■「MediaBrowser」について
　株式会社ピクセラ
　フリーダイヤル：0120-727-231
　電話：06-6633-2990（携帯・PHS 等フリーダイヤルが利用できない方用）
　受付時間：月曜日～日曜日 10:00 ～ 18:00
　（年末年始、祝祭日、株式会社ピクセラ指定休日は除く）

修理受付

■ **ホームページ／電話による修理受付**（梱包材と宅配伝票をお送りして修理品をお引き受けします）

リコー修理受付センター（リコーテクノシステムズ株式会社）
< ホームページ受付 > http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/mail.html
< 電話受付 > 0120-053956　受付時間 9:00 ～ 17:00
（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）
※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。

■ **持ち込みによる修理受付**（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）

リコー銀座カメラサービスセンター
　〒 104-0061　東京都中央区銀座 6-14-7 第 3 リコービル 1 階
　受付時間 9:30 ～ 17:00　電話 03-3543-4187

リコー大阪カメラサービスセンター
　〒 564-0053　大阪府吹田市江の木町 34-5 リコービル 7 階
　受付時間 9:30 ～ 17:00　電話 06-6338-9092

株式会社リコー
〒 104-8222
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル
2010 年 11 月

L758 1971